

寝屋川市 男女共同参画に関する 意識調査報告書【抜粋】

令和2(2020)年3月

寝屋川市

I. 調査の概要と回答者について

1. 調査の目的

本市では、平成 23 年に策定した「第 4 期ねやがわ男女共同参画プラン」に基づき、男女共同参画の推進に関する施策に取り組んでいますが、同プランが令和 2 年度をもって終了となります。次期プランの策定にあたっては、男女共同参画に関する変化を踏まえ、男女共同参画に関する動向と現状を把握し、本市における今後の男女共同参画の取組を効果的に推進していくための基礎資料を得ることを目的に実施しました。

2. 調査の方法

(1) 市民意識調査

- ①調査地域：寝屋川市全域
- ②調査対象：寝屋川市在住の 20 歳以上の市民 3,000 人（男女各 1,500 人）
- ③抽出方法：令和元年 7 月 1 日現在の住民基本台帳から年齢 10 歳階層ごとに（60 歳以上は 1 階層とし、全部で 5 階層とする）男女同数を生作為抽出
- ④調査方法：郵送による調査票の配付・回収（お礼状兼督促状を 1 回送付）
- ⑤調査期間：令和元年 9 月 6 日～令和元年 9 月 30 日

(2) 事業所実態調査

- ①調査地域：寝屋川市全域
- ②調査対象：寝屋川市内に所在する従業員が 10 人以上の事業所 1,000 箇所
- ③抽出方法：総務省「事業所母集団データベース」（平成 29 年次フレーム）から生作為抽出
- ④調査方法：郵送による調査票の配付・回収（事前依頼状を 1 回送付）
- ⑤調査期間：令和元年 9 月 11 日～令和元年 9 月 30 日

(3) 小学生から大学生への調査

- ①調査地域：寝屋川市全域
- ②調査対象：小学生・中学生・・・教育委員会を通して、市立小中学校に協力依頼
小学校 6 校 278 人、中学校 6 校 250 人
高校生・大学生・・・市内高校、大学に直接協力依頼
高校 3 校 276 人、大学 2 校 250 人
- ③調査方法：直接配付・回収
- ④調査期間：令和元年 10 月～令和元年 11 月

3. 回収状況

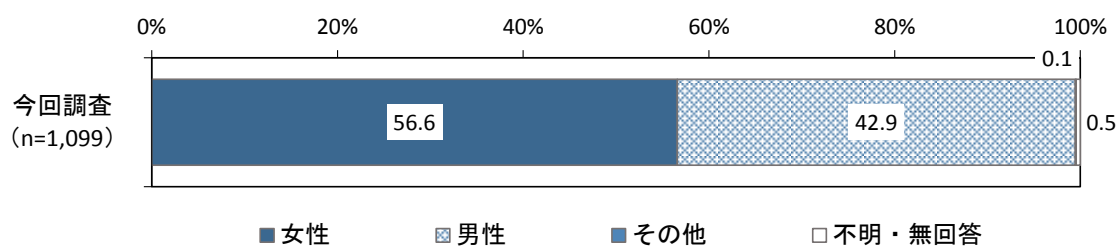
	配布数	回収数	無効回収数	有効回収数	有効回収率
市民意識調査	3,000 件	1,104 件	5 件	1,099 件	36.6%
事業所実態調査	1,000 事業所	359 事業所	2 事業所	357 事業所	35.7%
小学生への調査	278 件	252 件	0 件	252 件	90.6%
中学生への調査	250 件	220 件	0 件	220 件	88.0%
高校生への調査	276 件	250 件	0 件	250 件	90.6%
大学生への調査	250 件	247 件	3 件	244 件	97.6%

4. 回答者の状況

(1) 市民意識調査

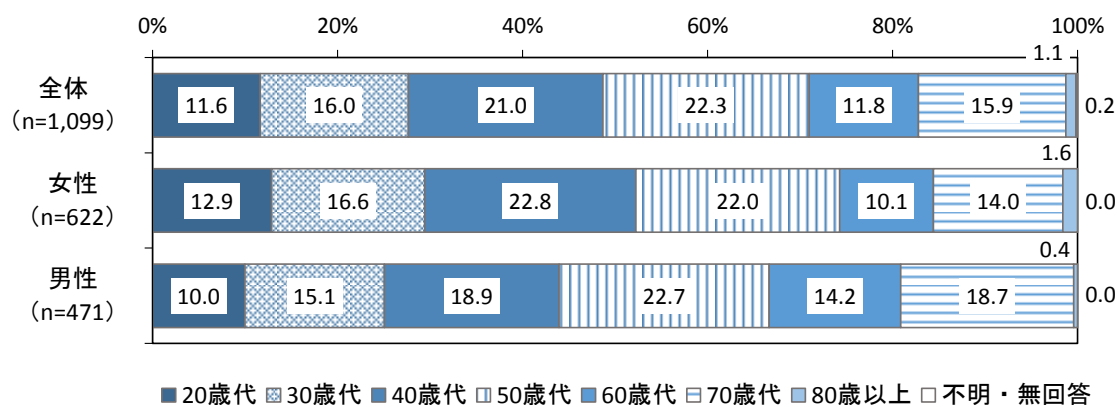
ア 性別

「女性」が 56.6%、「男性」が 42.9%、「その他」が 0.1%となっています



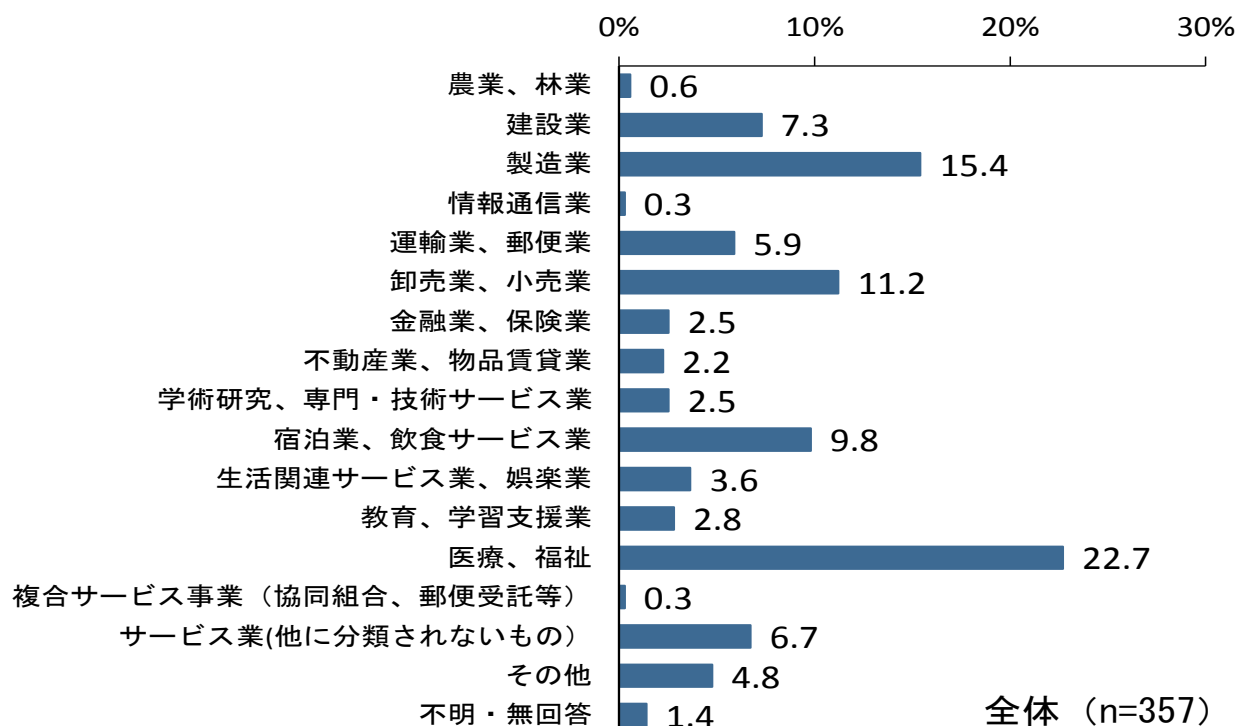
イ 年齢

「50 歳代」が 22.3%で最も高く、次いで「40 歳代」が 21.0%、「30 歳代」が 16.0%と続いています



(2) 事業所実態調査

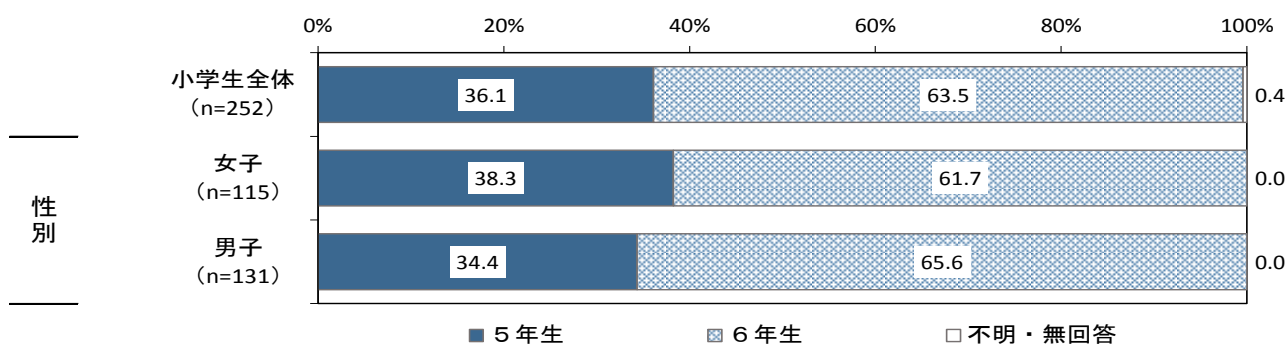
業種は、「医療、福祉」が22.7%で最も高く、次いで「製造業」が15.4%、「卸売業、小売業」が11.2%と続いています



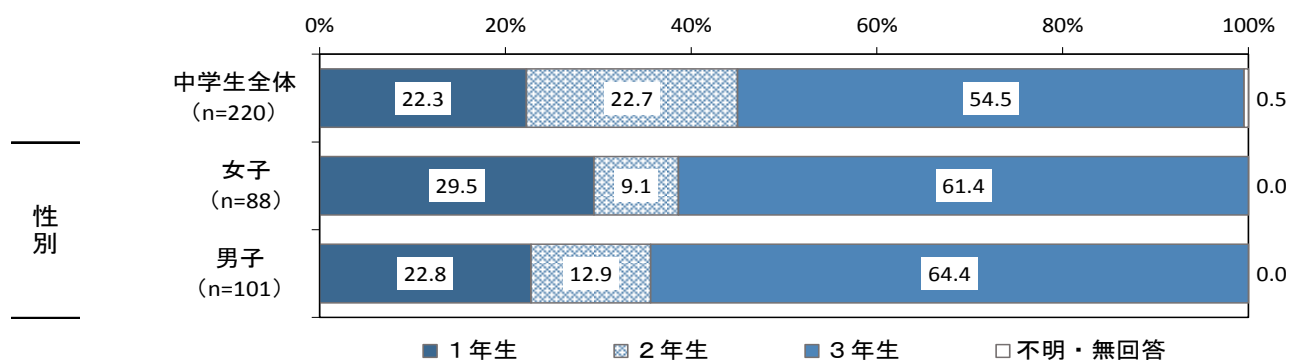
(3) 小学生から大学生への調査

ア 学年

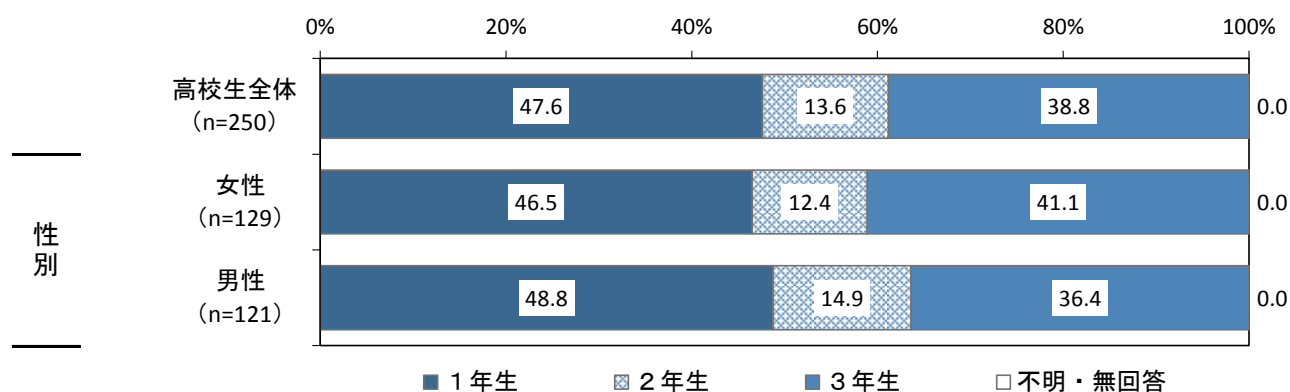
小学生では、5年生が36.1%、6年生が63.5%となっています。



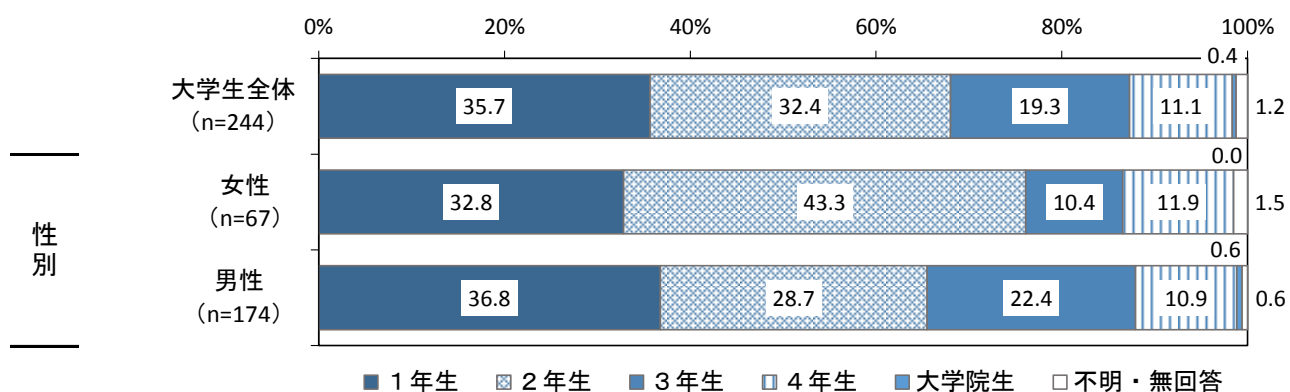
中学生では、1年生が22.3%、2年生が22.7%、3年生が54.5%となっています。



高校生では、1年生が47.6%、2年生が13.6%、3年生が38.8%となっています。

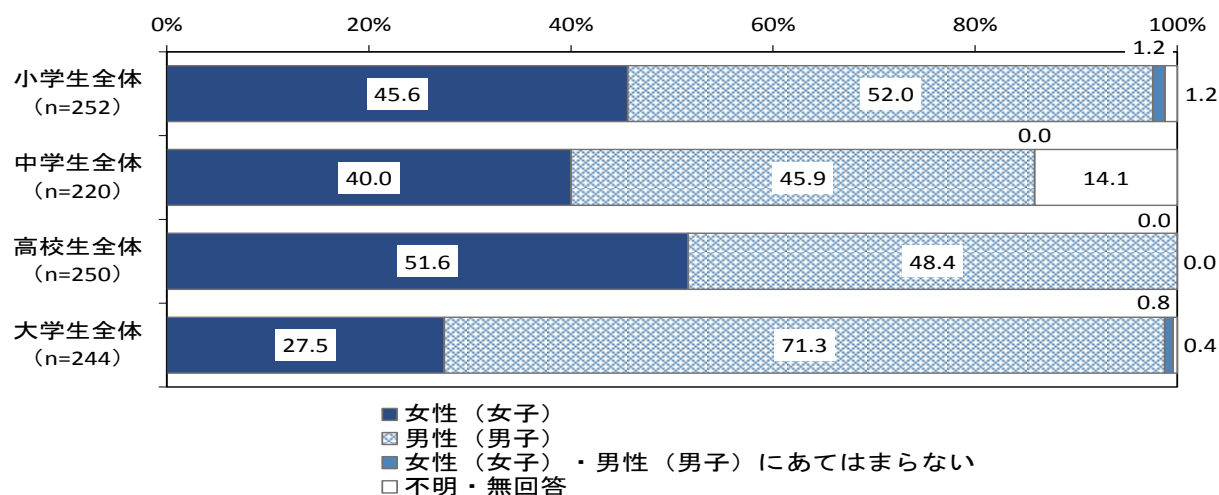


大学生では、1年生が35.7%、2年生が32.4%、3年生が19.3%、4年生が11.1%、大学院生が0.4%となっています。



イ 性別

性別について小学生では、「女子」が45.6%、「男子」が52.0%、「女子・男子にあてはまらない」が1.2%、中学生では、「女子」が40.0%、「男子」が45.9%、高校生では、「女性」が51.6%、「男性」が48.4%、大学生では、「女性」が27.5%、「男性」が71.3%、「女性・男性にあてはまらない」が0.8%となっています。



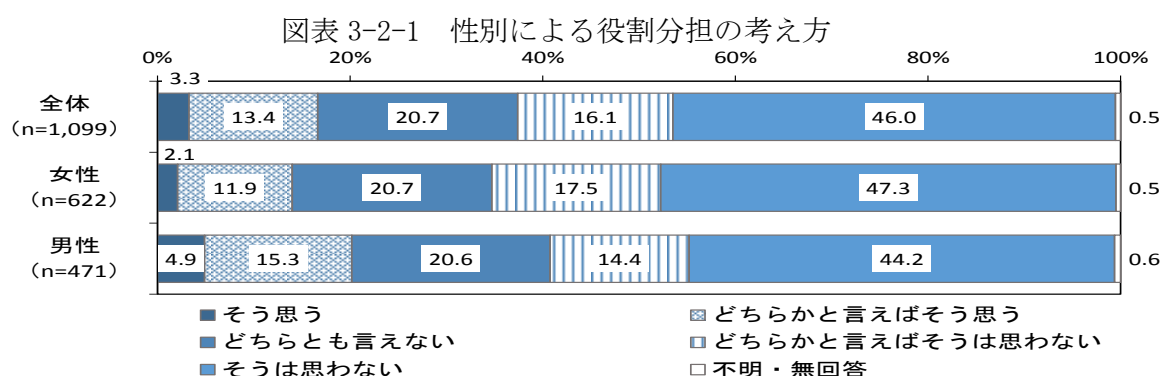
1. 市民意識調査

(1) 男女の平等感について

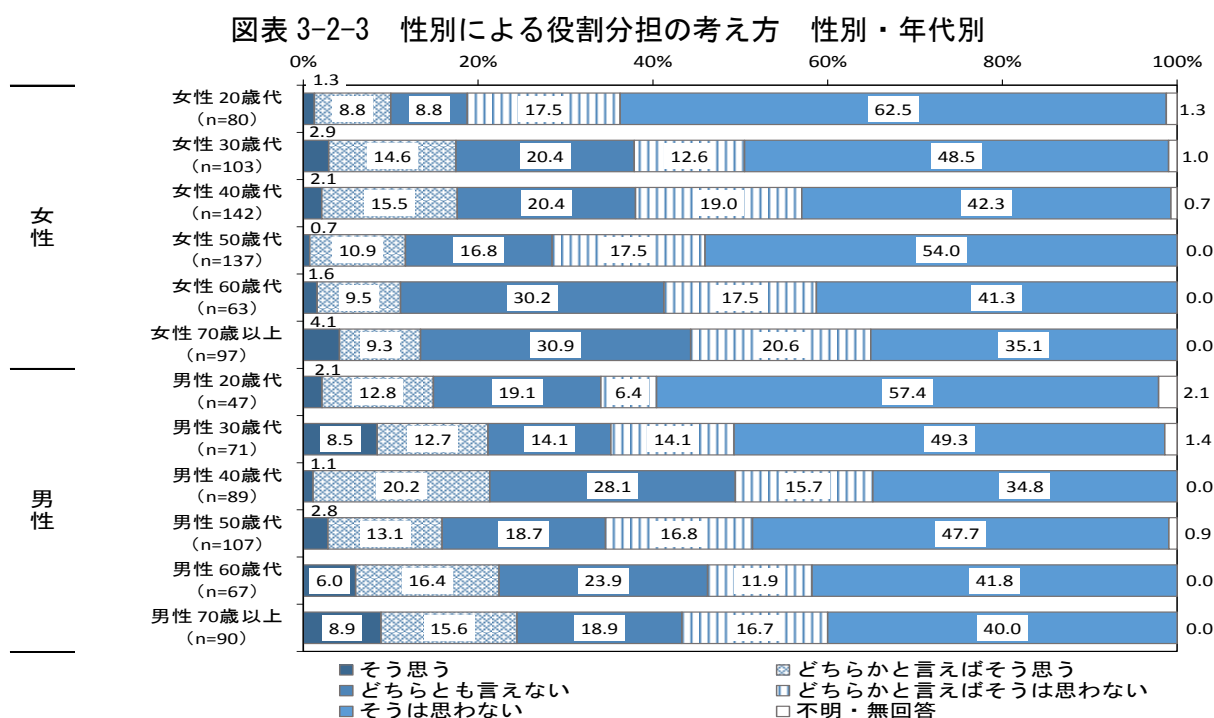
① 性別による役割分担の考え方

問 8	「男は仕事、女は家庭」というように性別によって役割を分担する考え方について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つだけ)
-----	---

性別による役割分担の考え方について全体では、「そうは思わない」が 46.0%で最も高く、次いで「どちらとも言えない」が 20.7%、「どちらかと言えばそうは思わない」が 16.1%と続いております。『そう思う』（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）は 16.7%で、『そうは思わない』（「どちらかと言えばそうは思わない」と「そうは思わない」の合計）は 62.1%となっています。性別でみると、『そうは思わない』では、女性が 64.8%で、男性（58.6%）よりも 6.2 ポイント高くなっています。前回調査と比較すると、『そうは思わない』では、女性・男性いずれも前回調査より割合が増加しています。



性別による役割分担の考え方について、性別・年代別でみると、『そうは思わない』は、女性では 20 歳代が 80.0%で最も高く、男性では 50 歳代が 64.5%で最も高く、『そう思う』は、全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっており、女性では 40 歳代が 17.6%で最も高く、男性では 70 歳以上が 24.5%で最も高くなっています。前回調査と比較すると、全ての年代で『そう思う』の割合が前回調査よりも減少し、『そうは思わない』の割合が増加しており、『そうは思わない』では、女性 20 歳代が 43.3 ポイント増加し最も増加した年代となっています。



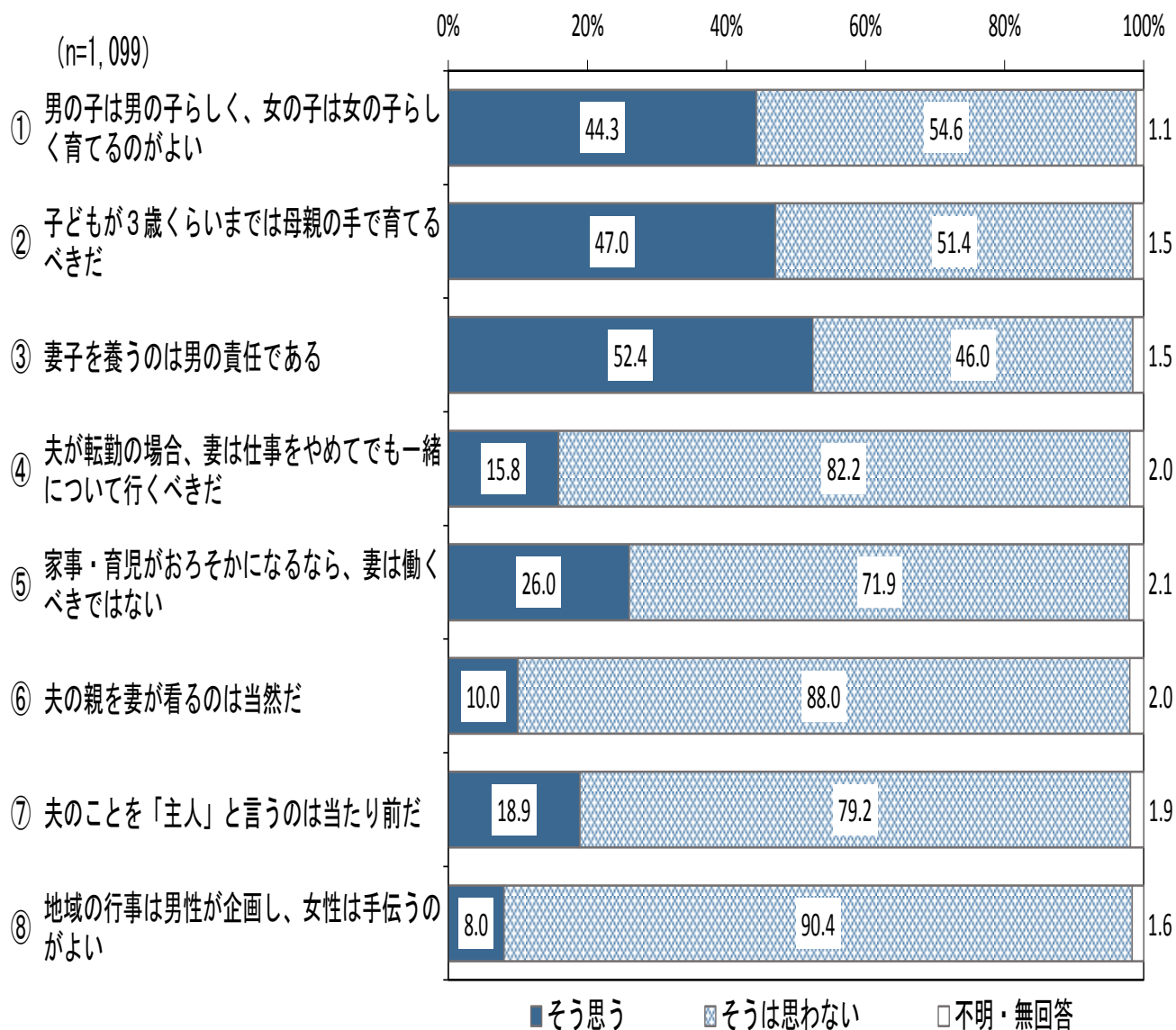
② 性別による役割分担の考えについて

問 9	以下の①～⑧の考え方について、あなたはどのように思いますか。 (それぞれに○は1つだけ)
-----	---

性別による役割分担の考えについて全体みると、「そう思う」では、「③ 妻子を養うのは男の責任である」が 52.4%で最も高く、次いで「② 子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ」が 47.0%、「① 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」が 44.3%と続いています。

前回調査と比較すると、「⑧ 地域の行事は男性が企画し、女性は手伝うのがよい」以外の比較できる項目いずれも「そう思う」の割合が前回調査より減少しており、「② 子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ」「⑦ 夫のことを「主人」と言うのは当たり前だ」が 25.4 ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

図表 3-2-5 性別による役割分担の考えについて



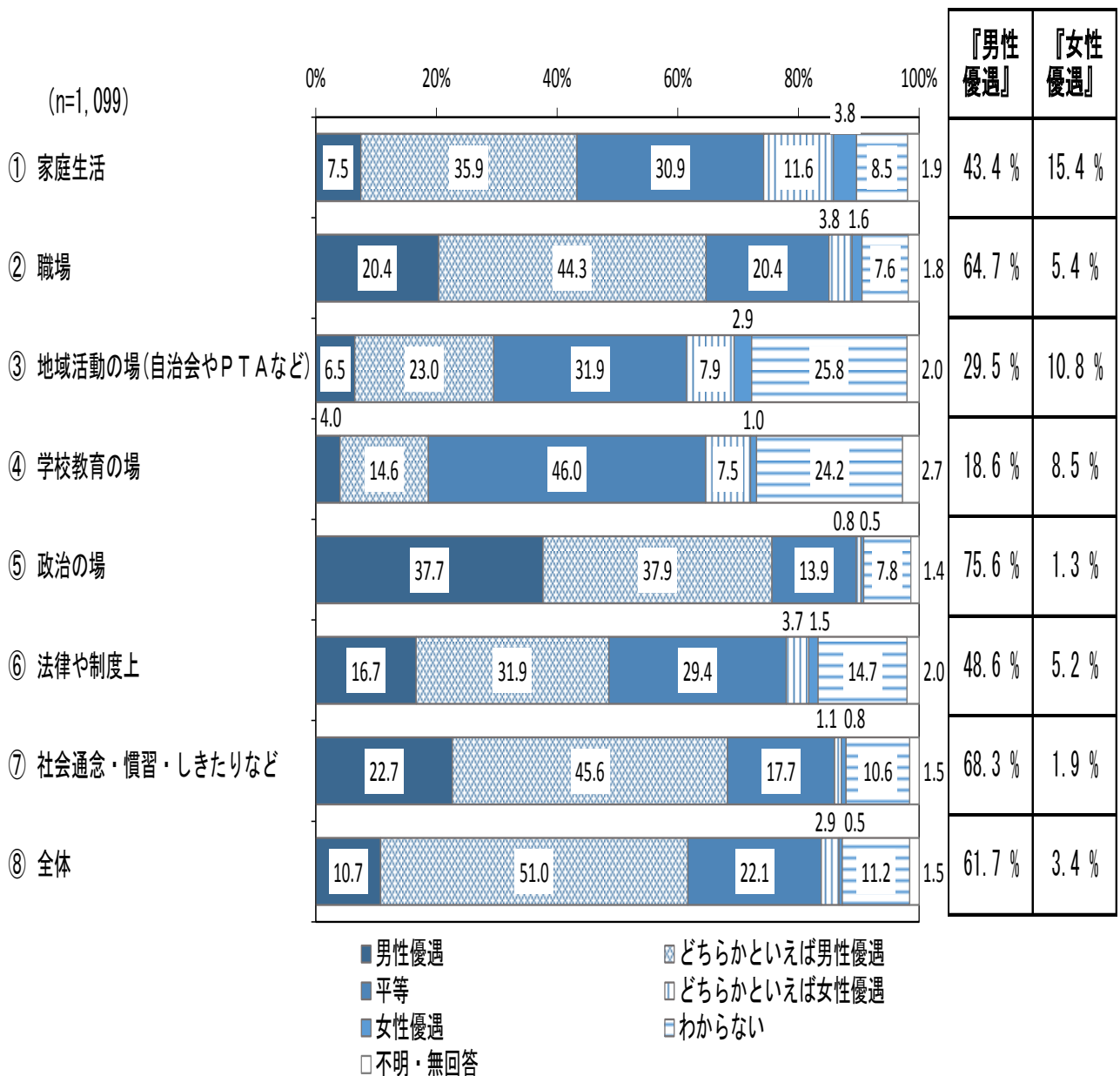
③ 男女の地位の考えについて

問 10	あなたは、今の社会全般を見て、男女の地位はどのようになっていると思いますか。①～⑧の項目についてお答えください。（それぞれに○は1つだけ）
------	---

男女の地位の考えについてについて全体でみると、『男性優遇』（「男性優遇」と「どちらかといえば男性優遇」の合計）と『女性優遇』（「どちらかといえば女性優遇」と「女性優遇」の合計）では、全ての項目で『男性優遇』の割合が『女性優遇』よりも高くなっており、『男性優遇』では「⑤ 政治の場」が75.6%で最も高く、次いで「⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど」が68.3%、「② 職場」が64.7%と続いています。

前回調査と比較すると、『男性優遇』では、「⑤ 政治の場」（75.6%）「⑥ 法律や制度上」（48.6%）がいずれも前回調査より 7.5 ポイント高く最も増加した項目となっており、「① 家庭生活」（43.4%）が前回調査より 9.7 ポイント低く最も減少した項目となっています。

図表 3-2-15 男女の地位の考えについて

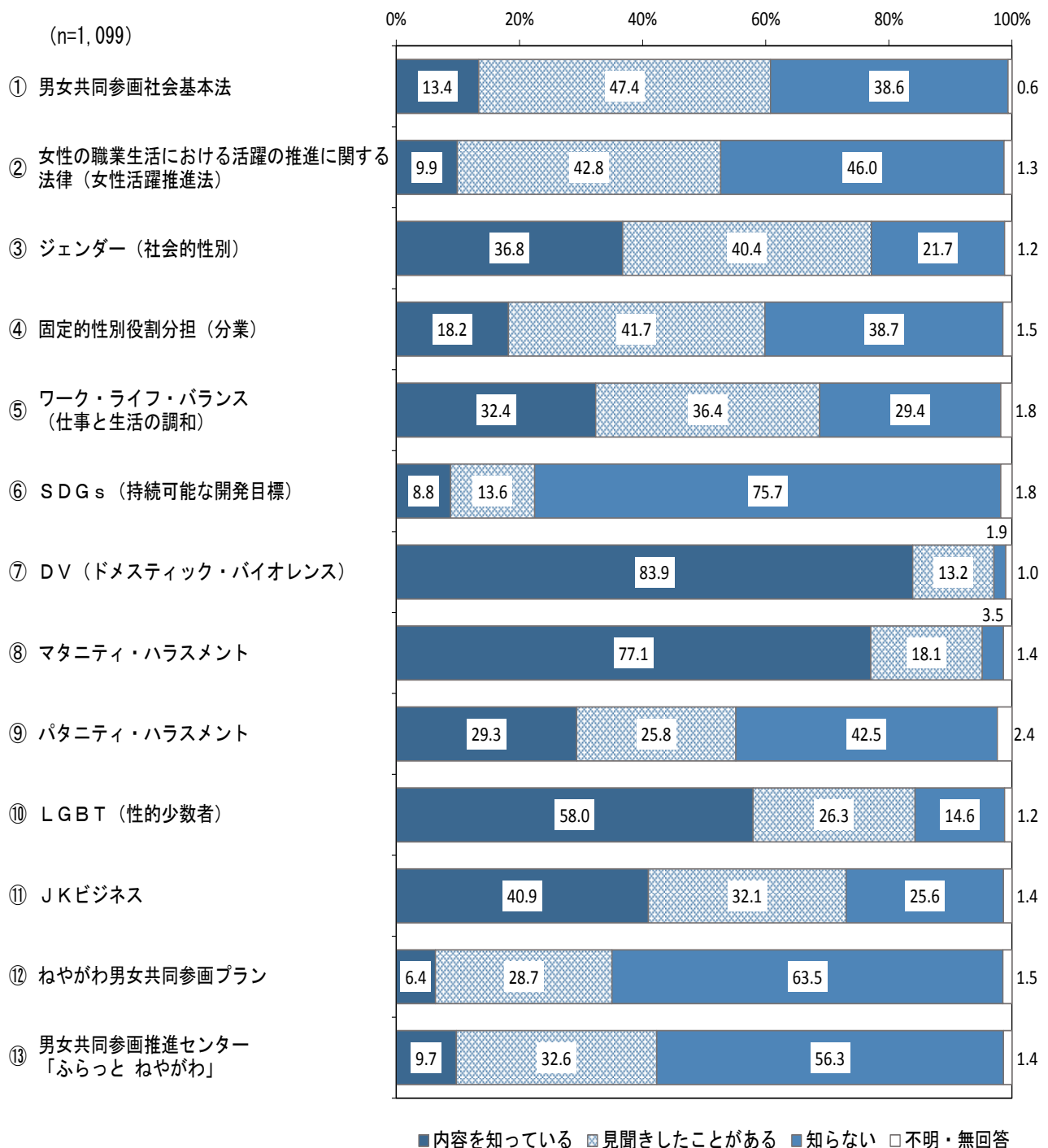


④ 法律等の認知度

問 11	あなたは次のような言葉をどの程度知っていますか。①～⑫の項目についてお答えください。（それぞれに○は1つだけ）
------	---

法律等の認知度について全体でみると、『認知度』（「内容を知っている」と「見聞きしたことがある」の合計）では、「⑦ DV（ドメスティック・バイオレンス）」が97.1%で最も高く、次いで「⑧ マタニティ・ハラスメント」が95.2%、「⑩ L G B T（性的少数者）」が84.3%と続いています。前回調査と比較すると、『認知度』では、比較できる項目いずれも前回調査より割合が増加しており、「③ ジェンダー（社会的性別）」（77.2%）が前回調査（40.5%）より36.7ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-2-25 法律等の認知度



(3) 家庭生活等について

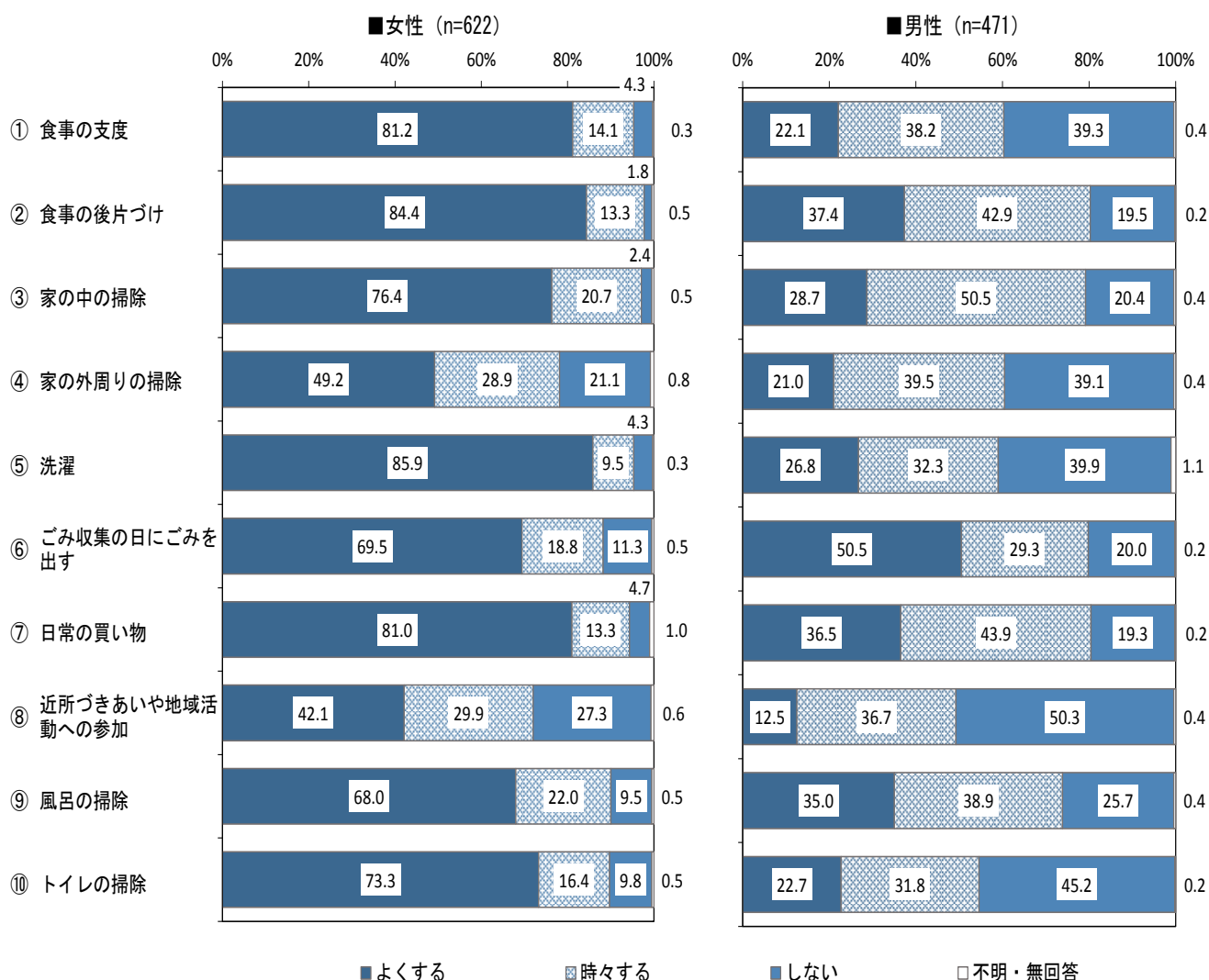
① 家事の頻度

問 12	次の家事をする場合、あなたはどの程度担っていますか。①～⑩の項目についてお答えください。（それぞれに○は1つだけ）
------	---

家事の頻度について性別でみると、「よくする」では、女性は「⑤ 洗濯」が 85.9%で最も高く、次いで「② 食事の後片づけ」が 84.4%、「① 食事の支度」が 81.2%と続いており、男性は「⑥ ごみ収集の日にごみを出す」が 50.5%で最も高く、次いで「② 食事の後片づけ」が 37.4%、「⑦ 日常の買い物」が 36.5%と続いています。また、「よくする」では、全ての項目で女性の割合が男性よりも高くなっており、「① 食事の支度」「⑤ 洗濯」がいずれも 59.1 ポイントの差で最も差が大きい項目となっており、次いで差が大きい項目として「⑩ トイレの掃除」が 50.6 ポイントとなっています。

前回調査と比較すると、「よくする」では、女性は「③ 家の中の掃除」「⑤ 洗濯」を除く全ての項目で前回調査より割合が減少しており、「⑧ 近所づきあいや地域活動への参加」が 2.2 ポイント減少し、最も減少した項目となっています。また、男性は「⑧ 近所づきあいや地域活動への参加」を除く全ての項目で「よくする」が前回調査より割合が増加しており、「⑥ ごみ収集の日にごみを出す」が 15.0 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-3-1 家事の頻度



(2) 家事・育児・介護のために1日に使う時間

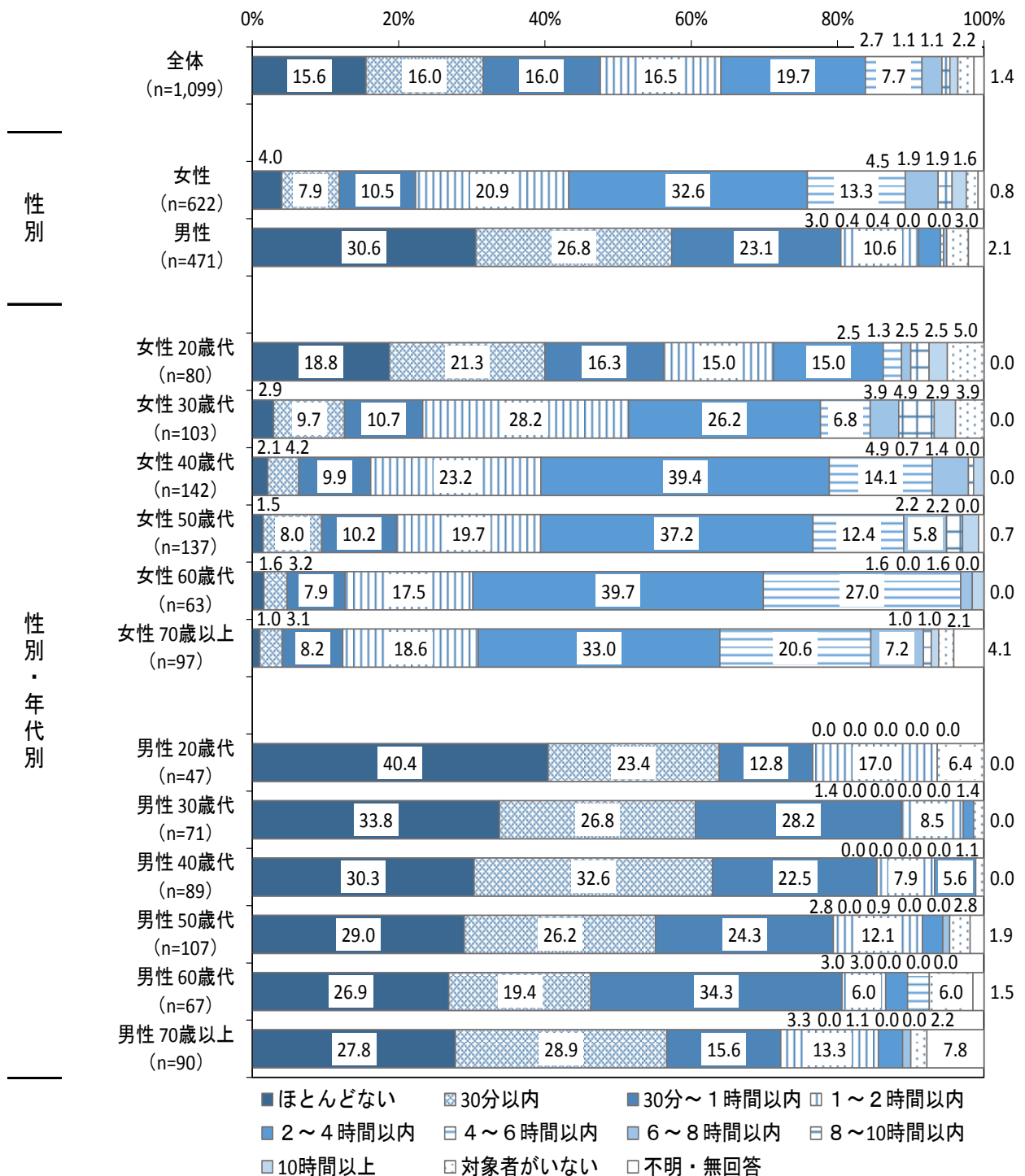
問 13	あなたが家事・育児・介護のために1日に使う時間はどれくらいですか。平日と休日について、お答えください。（それぞれに○は1つだけ）
------	--

①平日の家事

家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「平日の家事」では、性別でみると、女性は「2～4時間以内」が32.6%で最も高く、男性は「ほとんどない」が30.6%で最も高くなっています。

性別・年代別でみると、「ほとんどない」では、全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっています。

図表 3-3-23 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ①平日の家事

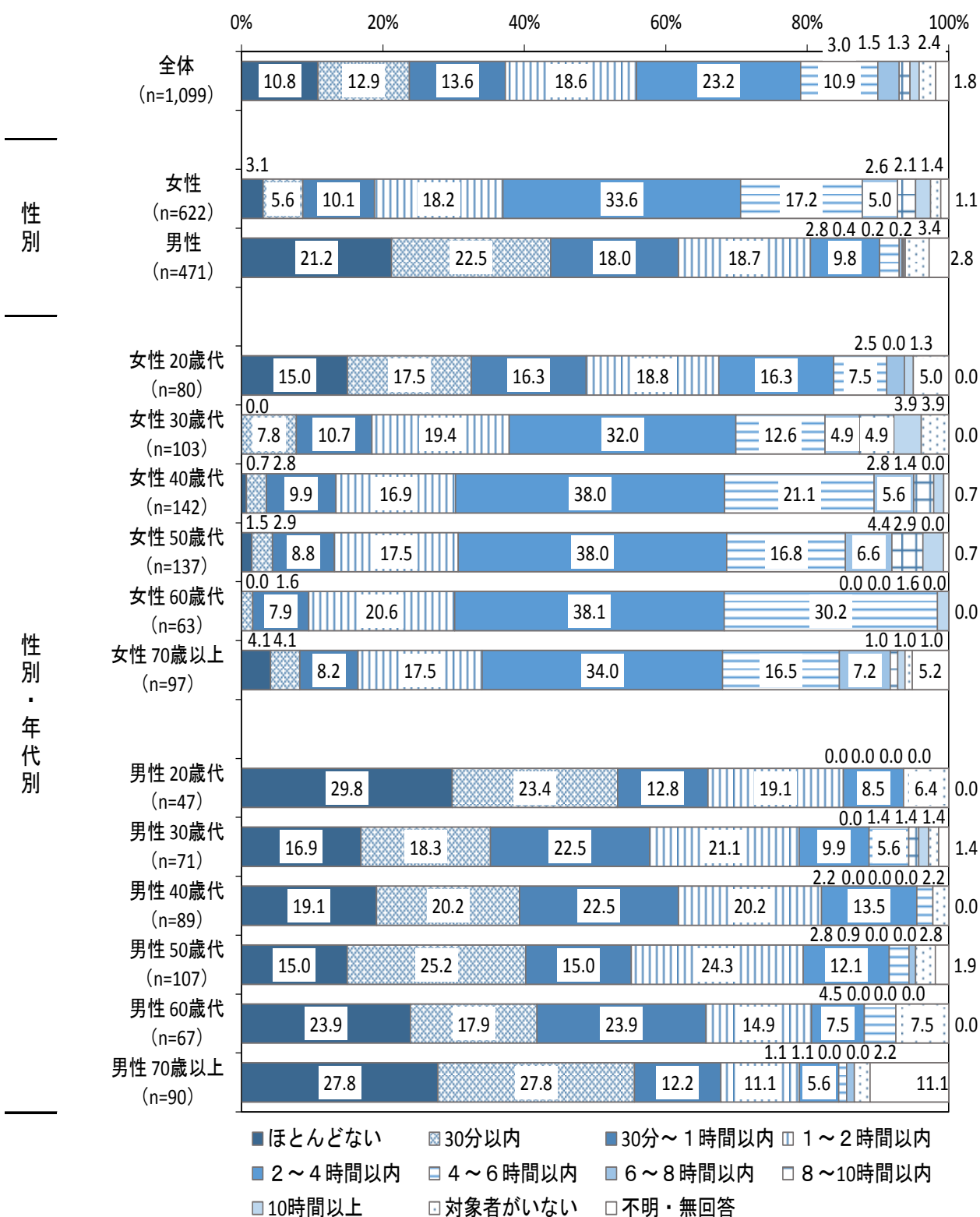


② 休日の家事

家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「休日の家事」では、性別でみると、女性は「2～4時間以内」が33.6%で最も高く、男性は「30分以内」が22.5%で最も高くなっています。

性別・年代別でみると、「ほとんどない」では、全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっています。

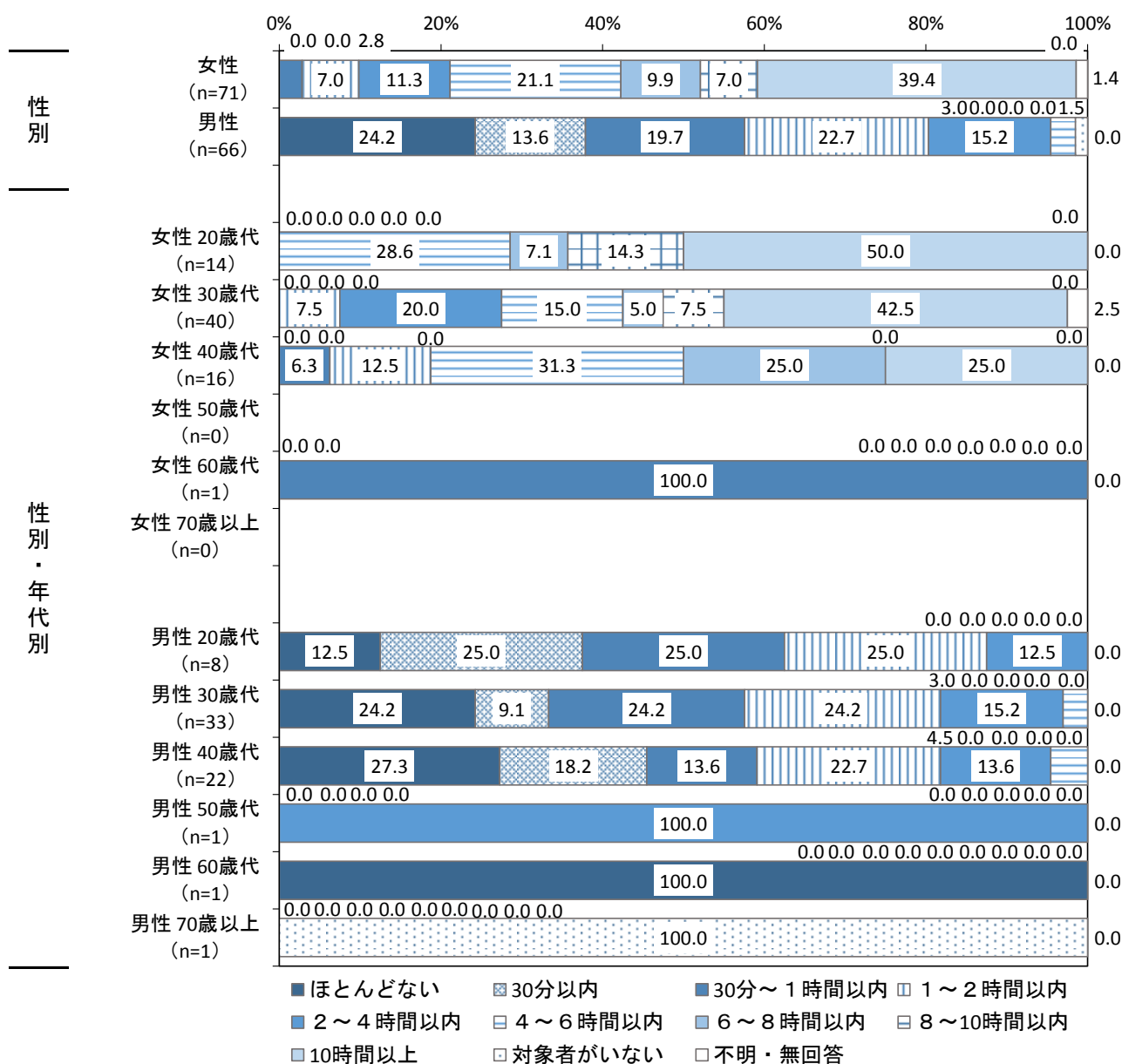
図表 3-3-24 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ②休日の家事



③ 平日の育児

家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「平日の育児」を未就学児の子どもがいる人限定（問5で「3歳未満」「3歳以上の未就学児」を回答した人）でみると、女性では「10時間以上」が39.4%で最も高く、男性では「ほとんどない」が24.2%で最も高くなっており、性別・年代別でみると、「ほとんどない」は、40歳代以下で男性の割合が女性よりも高くなっています。

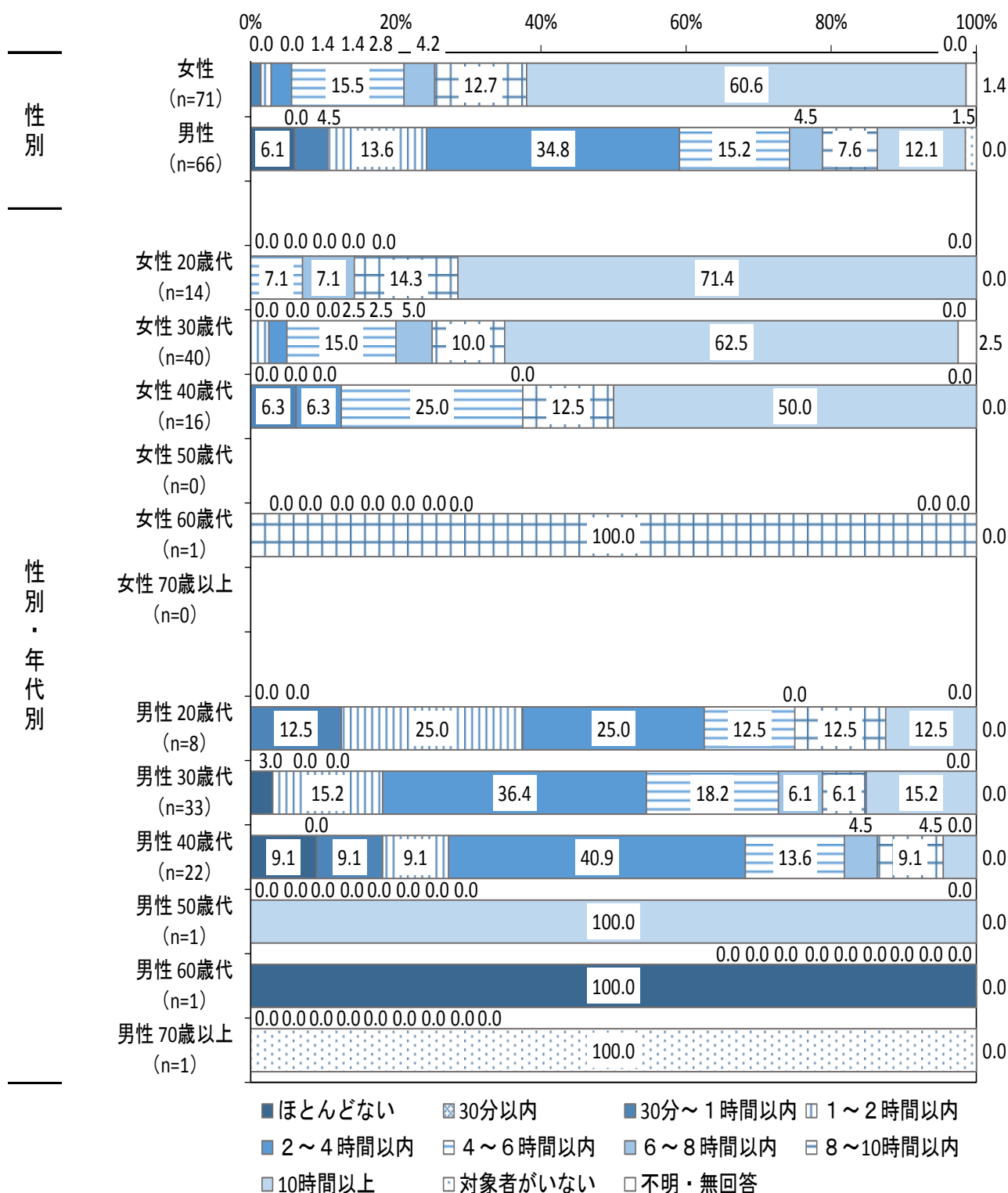
図表 3-3-25 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ③平日の育児



④ 休日の育児

家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「休日の育児」を未就学児の子どもがいる人限定（問5で「3歳未満」「3歳以上の未就学児」を回答した人）でみると、女性では「10時間以上」が60.6%で最も高く、男性では「2～4時間以内」が34.8%で最も高くなっており、性別・年代別でみると、40歳代以下では、「10時間以上」は、全ての年代で女性の割合が男性よりも高くなっています。

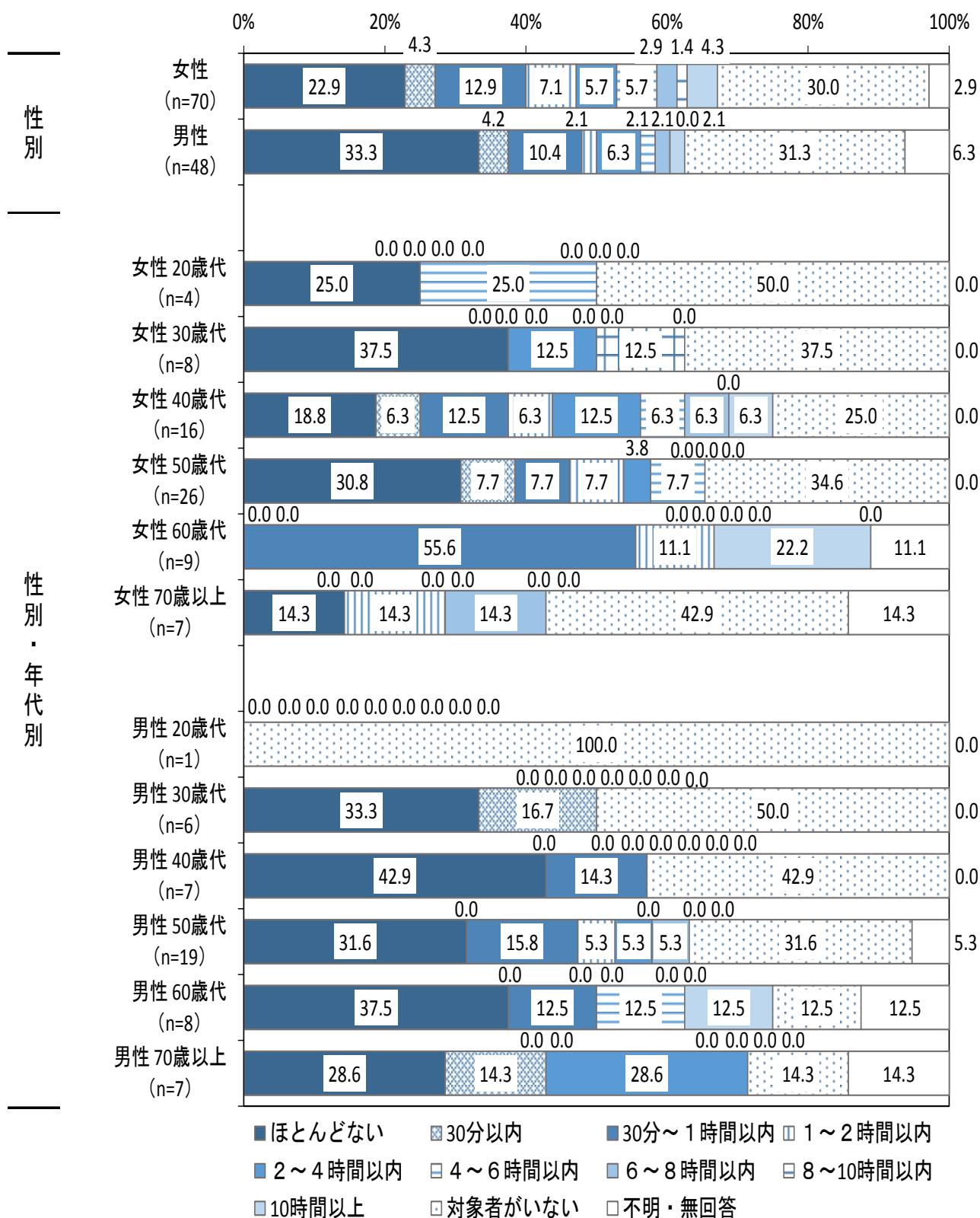
図表 3-3-28 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ④休日の育児



⑤ 平日の介護

家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「平日の介護」を家庭に高齢のために介護・介助が必要な人がいる人（問28で「いる」を回答した人）でみると、『介護をしている人』（「30分以内」から「10時間以上」の合計）では、女性が44.3%、男性が29.3%で、性別・年代別でみると、「ほとんどない」では、40歳代以上で男性の割合が女性よりも高くなっています。

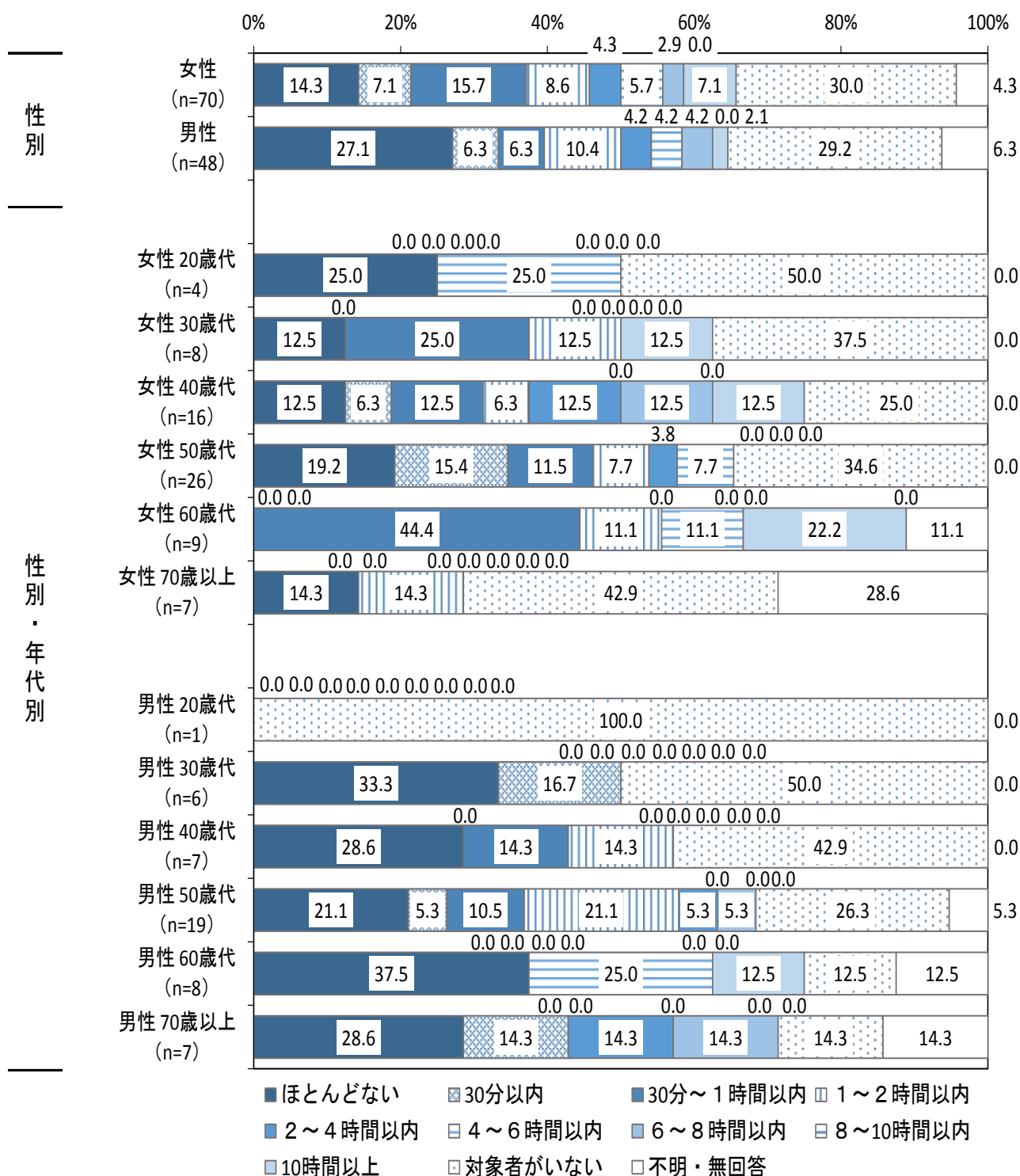
図表 3-3-30 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ⑤平日の介護
家庭に高齢のために介護・介助が必要な人がいる人 性別・年齢別



⑥ 休日の介護

家事・育児・介護のために1日に使う時間について、「休日の介護」を家庭に高齢のために介護・介助が必要な人がいる人（問28で「いる」を回答した人）でみると、『介護をしている人』（「30分以内」から「10時間以上」の合計）では、女性が51.4%、男性が37.7%で、性別・年代別でみると、「ほとんどない」では、20歳代を除く全ての年代で男性の割合が女性よりも高くなっています。

図表 3-3-32 家事・育児・介護のために1日に使う時間 ⑥休日の介護
家庭に高齢のために介護・介助が必要な人がいる人 性別・年齢別



(3) 「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」について

問 14	「仕事」、「家庭生活・地域活動（自治会やPTAなど）」、「個人の生活」について、あなたの①希望と②現実（実態）にもっとも近い項目に○印をつけてください。
------	--

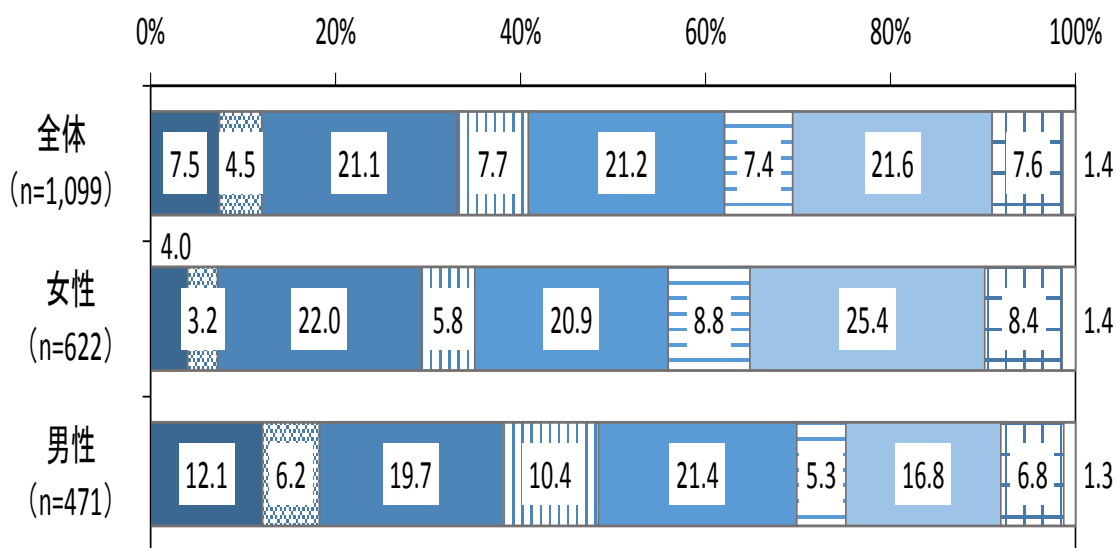
① 希望

「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」の希望について全体では、「仕事」と「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」を調和させたい」が21.6%で最も高く、次いで「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい」が21.2%、「個人の生活」を優先したい」が21.1%と続いています。

性別でみると、女性は「仕事」と「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」を調和させたい」が25.4%で最も高く、男性は「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい」が21.4%で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、女性・男性いずれも「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい」が前回調査より最も増加した項目となっており、「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」をともに優先したい」が最も減少した項目となっています。

図表 3-3-33 「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」の希望について



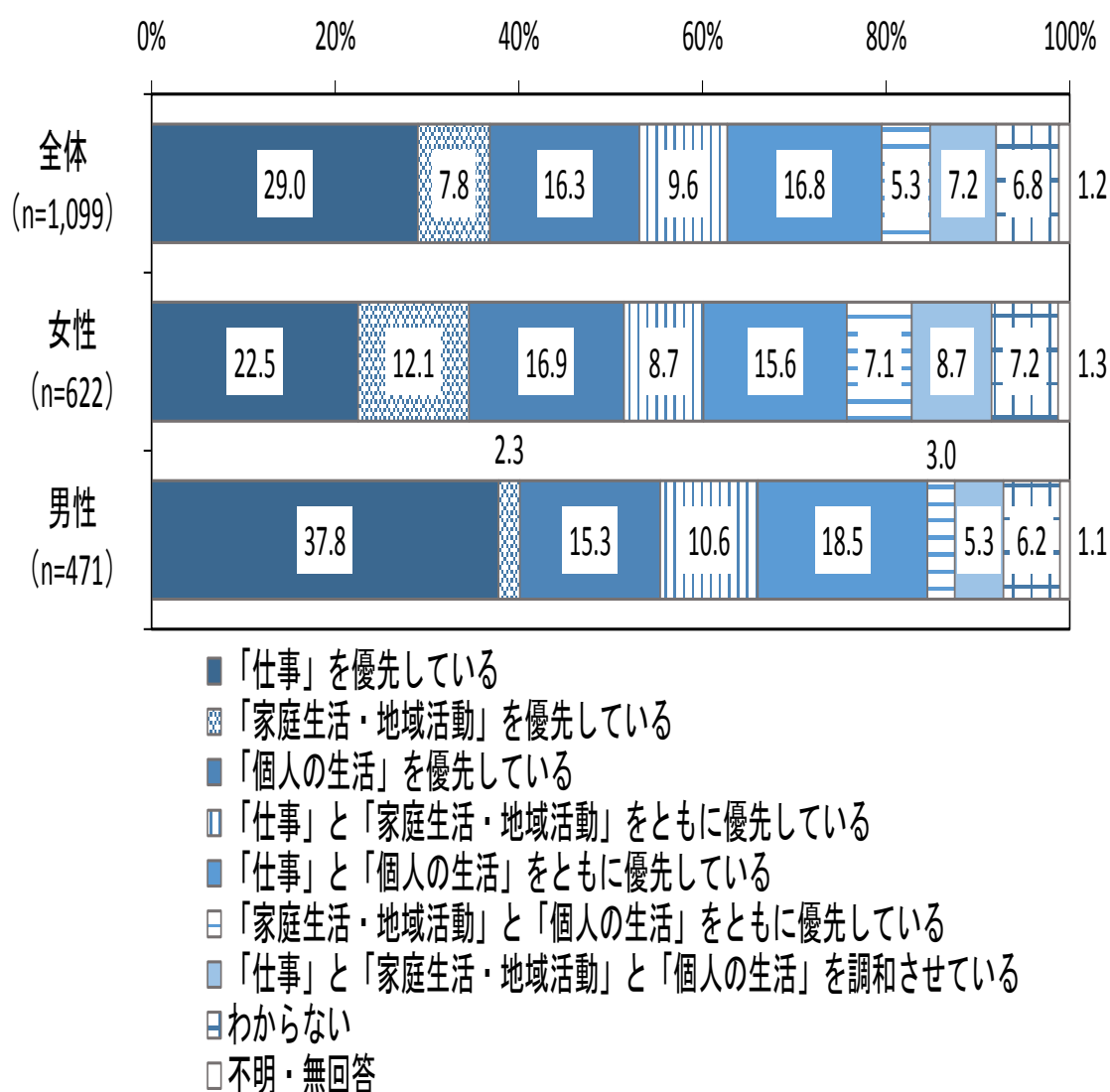
- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活・地域活動」を優先したい
- 「個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活・地域活動」をともに優先したい
- 「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活・地域活動」と「個人の生活」を調和させたい
- わからない
- 不明・無回答

② 現実（実態）

「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」の現実（実態）について全体では、「仕事」を優先している」が 29.0%で最も高く、次いで「仕事」と「個人の生活」をともに優先している」が 16.8%、「個人の生活」を優先している」が 16.3%と続いています。性別でみると、女性・男性いずれも「仕事」を優先している」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「仕事」を優先している」が 7.4 ポイント増加し、最も増加した項目となっており、男性では「仕事」と「個人の生活」をともに優先している」が 7.1 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-3-37 「仕事」「家庭生活・地域活動」「個人の生活」の現実（実態）について



(4) 男女がともに仕事や育児、介護、地域活動などに参加するために必要だと思うこと

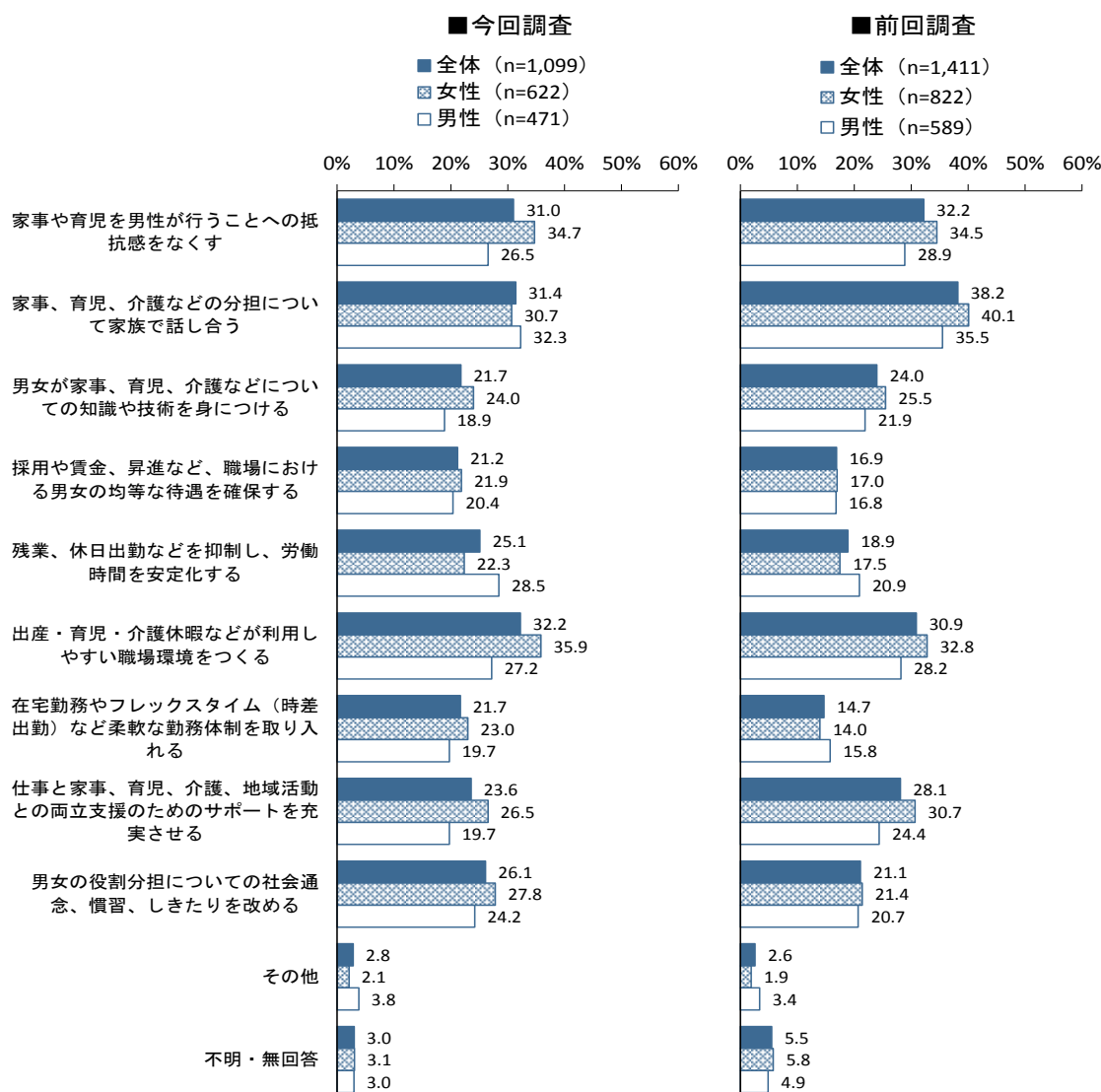
問 15	男女がともに仕事や育児、介護、地域活動などに参加するためには、どのようなことが必要だと思われますか。(〇は3つ以内)
------	--

男女がともに仕事や育児、介護、地域活動などに参加するために必要だと思うことについて全体では、「出産・育児・介護休暇などが利用しやすい職場環境をつくる」が32.2%で最も高く、次いで「家事、育児、介護などの分担について家族で話し合う」が31.4%、「家事や育児を男性が行うことへの抵抗感をなくす」が31.0%と続いています。

性別でみると、女性は「出産・育児・介護休暇などが利用しやすい職場環境をつくる」が35.9%で最も高く、次いで「家事や育児を男性が行うことへの抵抗感をなくす」が34.7%、「家事、育児、介護などの分担について家族で話し合う」が30.7%と続いており、男性は「家事、育児、介護などの分担について家族で話し合う」が32.3%で最も高く、次いで「残業、休日出勤などを抑制し、労働時間を安定化する」が28.5%、「出産・育児・介護休暇などが利用しやすい職場環境をつくる」が27.2%と続いています。

前回調査と比較すると、女性では「在宅勤務やフレックスタイム（時差出勤）など柔軟な勤務体制を取り入れる」が前回調査より7.0ポイント増加し、最も増加した項目となっており、男性では「残業、休日出勤などを抑制し、労働時間を安定化する」が前回調査より7.6ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-3-41 男女がともに仕事や育児、介護、地域活動などに参加するために必要だと思うこと



4. 子育て・教育について

(1) 子育てについて

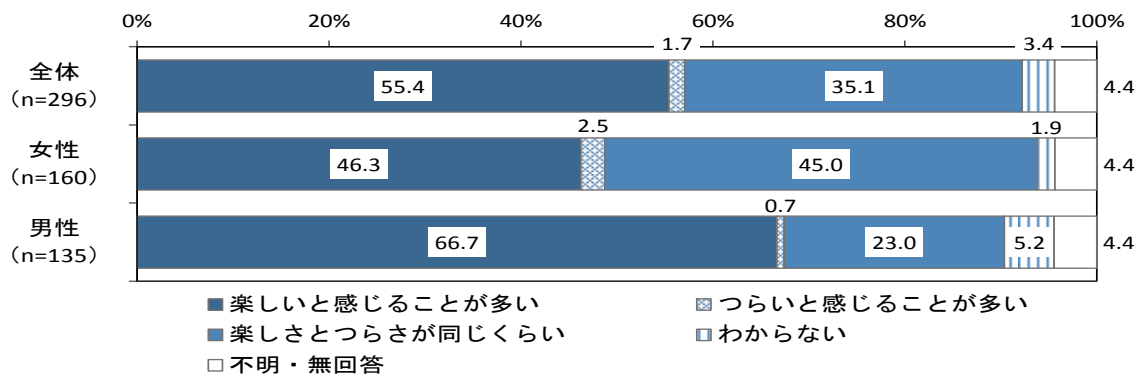
問 17	【高校生以下の子どもがいると回答した方】 あなたは、「子育て」についてどのように感じていますか。(〇は1つだけ)
------	---

子育てをどのように感じているかについて全体では、「楽しいと感じることが多い」が 55.4% で最も高く、次いで「楽しさとつらさが同じくらい」が 35.1%、「わからない」が 3.4%と続いています。

性別でみると、「楽しいと感じることが多い」では、男性が 66.7%で、女性（46.3%）よりも 20.4 ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「楽しいと感じることが多い」では、女性は前回調査より 5.6 ポイント減少し、男性は前回調査より 11.4 ポイント増加しています。

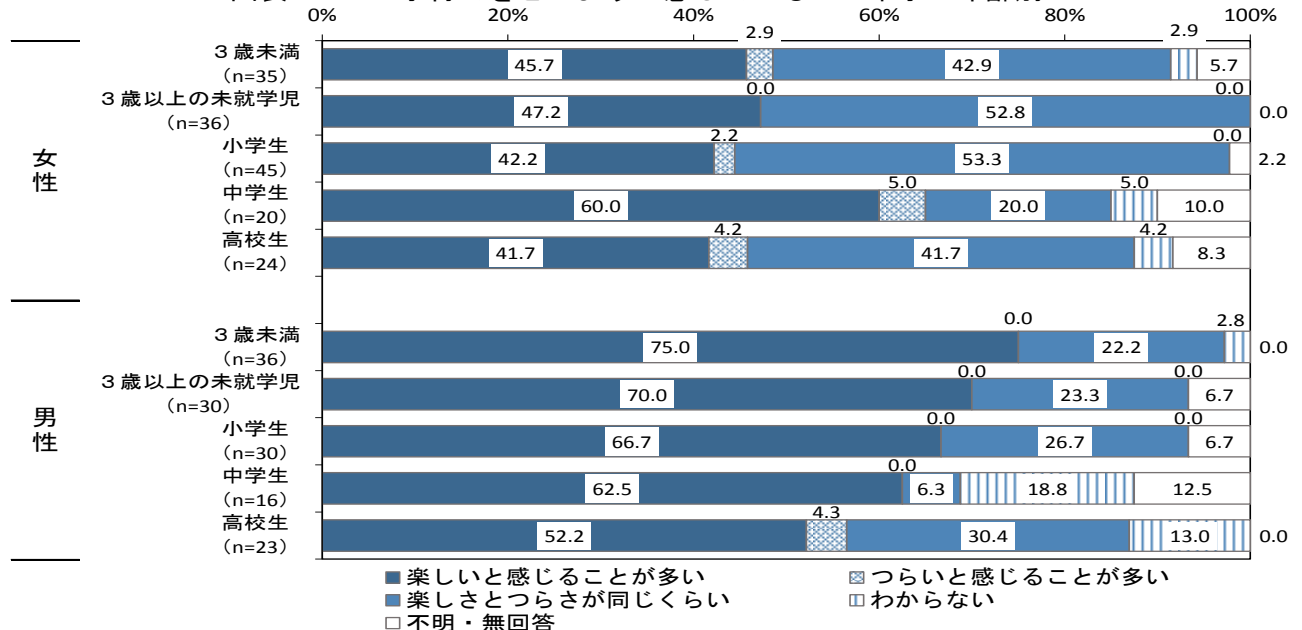
図表 3-4-1 子育てをどのように感じているか



末子の年齢別でみると、女性では「3歳未満」「中学生」で「楽しいと感じることが多い」の割合が最も高く、「3歳以上の未就学児」「小学生」で「楽しさとつらさが同じくらい」の割合が最も高く、「高校生」で「楽しいと感じることが多い」「楽しさとつらさが同じくらい」が同率となっており、男性では全ての年代で「楽しいと感じることが多い」の割合が最も高く、年代が上がるにつれて割合が低くなっています。

前回調査と比較すると、女性では、「3歳未満」「3歳以上の未就学児」「小学生」で、「楽しいと感じることが多い」の割合が減少しています。

図表 3-4-5 子育てをどのように感じているか 末子の年齢別



(2) 子育てをつらいと感じる時

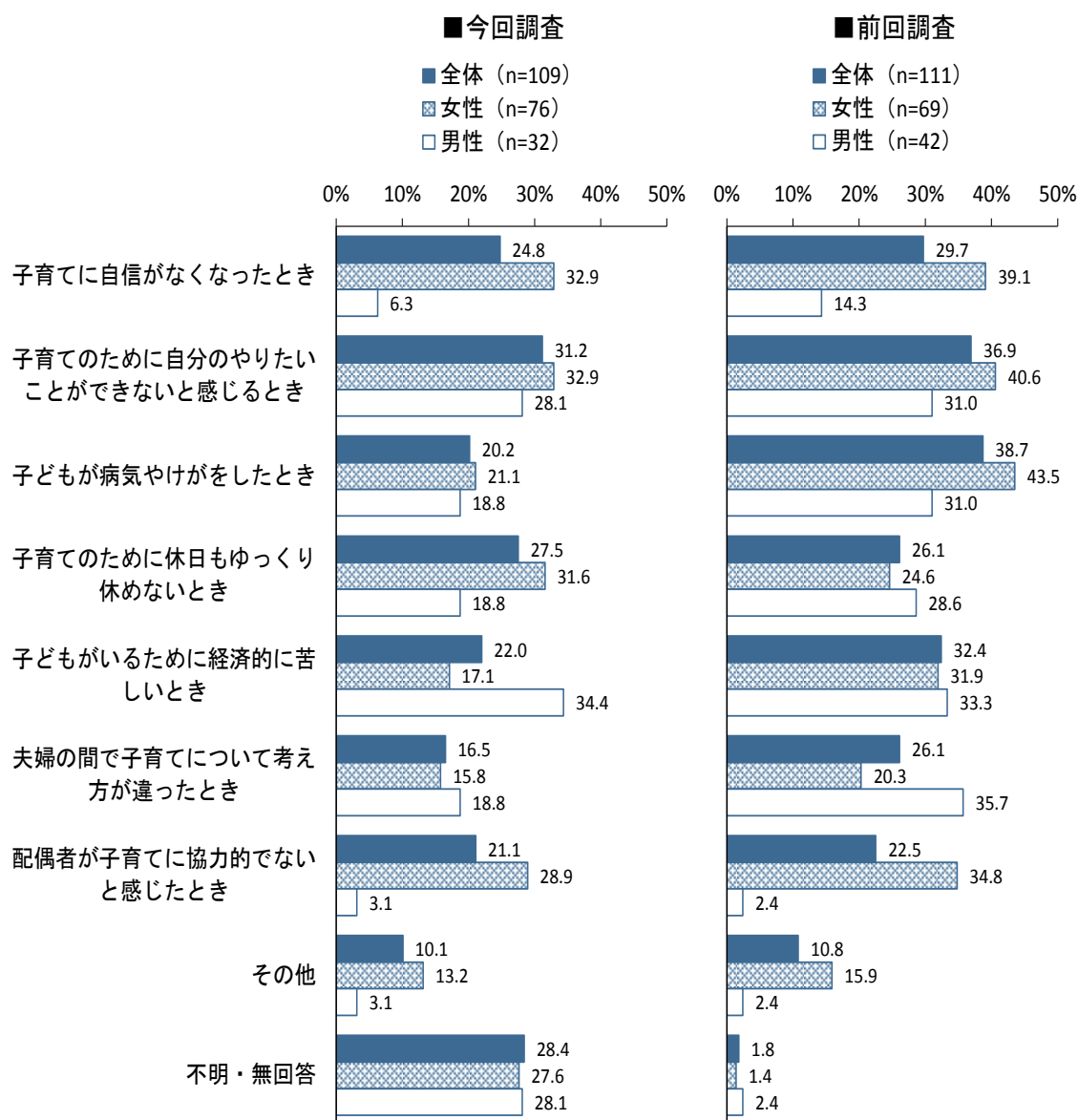
問 17-1	【問 17 で「つらいと感じることが多い」「楽しさとつらさが同じくらい」を回答された方】つらいと感じるのはどのような時ですか。（〇はいくつでも）
--------	--

子育てをつらいと感じる時について全体では、「子育てのために自分のやりたいことができないと感じるとき」が 31.2% で最も高く、次いで「子育てのために休日もゆっくり休めないとき」が 27.5%、「子育てに自信がなくなったとき」が 24.8% と続いています。

性別でみると、女性では「子育てに自信がなくなったとき」「子育てのために自分のやりたいことができないと感じるとき」がいずれも 32.9% で最も高く、次いで「子育てのために休日もゆっくり休めないとき」が 31.6% と続いており、男性では「子どもがいるために経済的に苦しいとき」が 34.4% で最も高く、次いで「子育てのために自分のやりたいことができないと感じるとき」が 28.1% と続いています。

前回調査と比較すると、女性では「子育てのために休日もゆっくり休めないとき」が 7.0 ポイント増加し、最も増加した項目となっており、男性では「子どもがいるために経済的に苦しいとき」が 1.1 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-4-7 子育てをつらいと感じる時



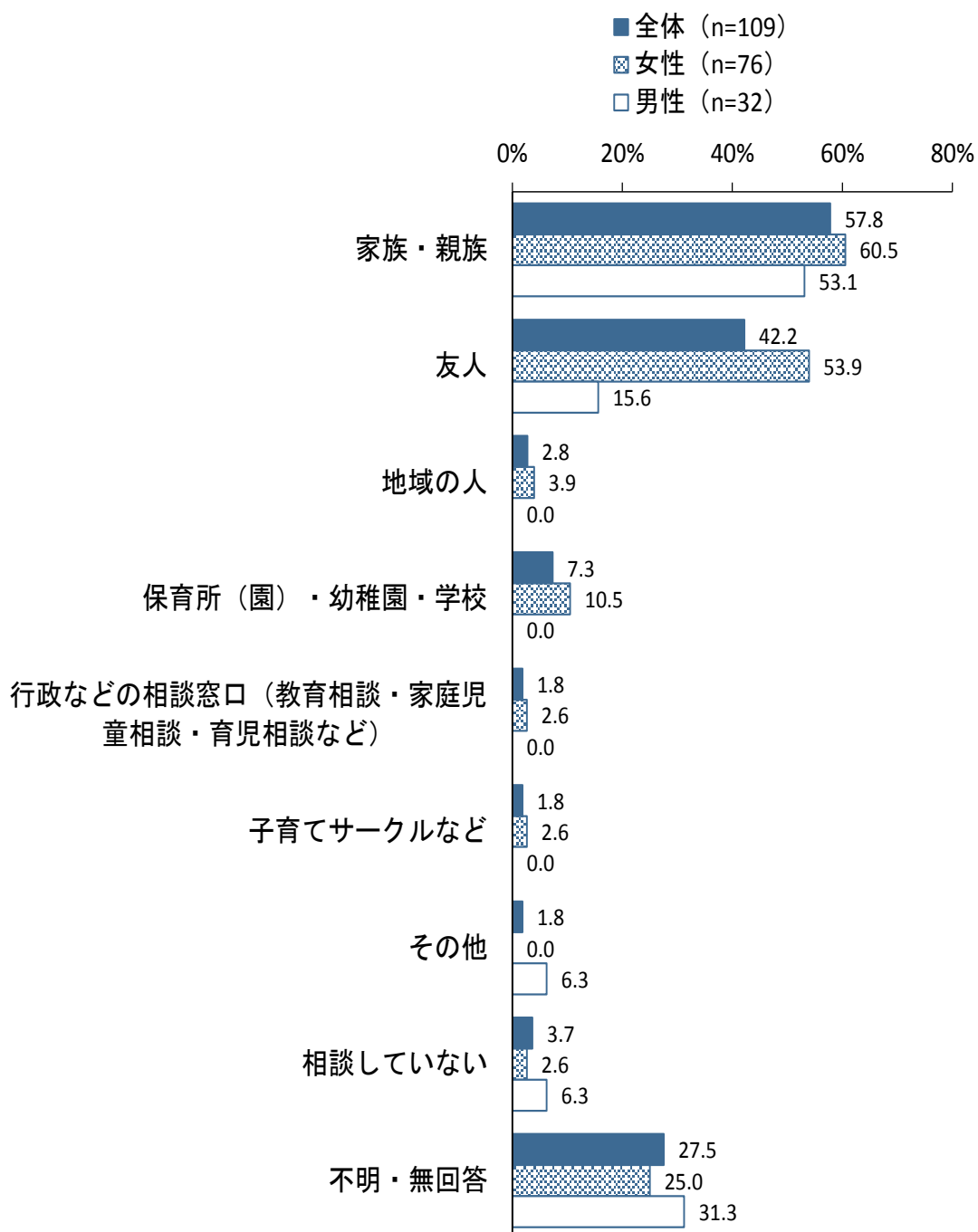
(3) 子育てについての相談先

問 17-2	【問 17 で「つらいと感じることが多い」「楽しさとつらさが同じくらい」を回答された方】 あなたは、子育てについてだれに（どこで）相談していますか。 （〇はいくつでも）
--------	---

子育てについての相談先について全体では、「家族・親族」が 57.8%で最も高く、次いで「友人」が 42.2%、「保育所（園）・幼稚園・学校」が 7.3%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「家族・親族」の割合が最も高く、「友人」では、女性が 53.9%で、男性（15.6%）よりも 38.3 ポイント高く、最も差の大きい項目となっています。

図表 3-4-10 子育てについての相談先



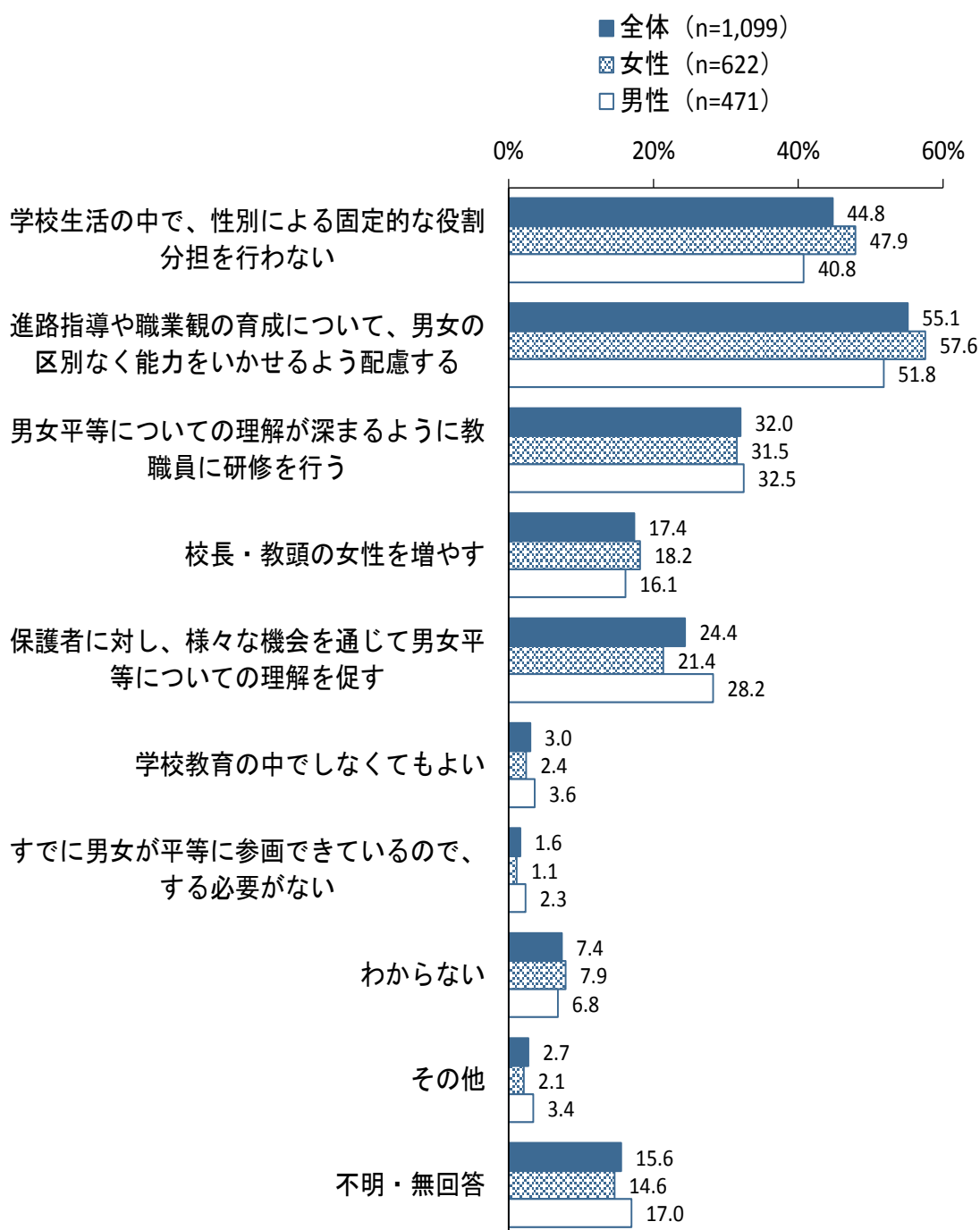
(4) 男女共同参画を推進していくために学校で行うとよいと思うもの

問 18	男女共同参画を推進していくために、学校で行うとよいと思うものはどれですか。（〇はいくつでも）
------	--

男女共同参画を推進していくために学校で行うとよいと思うものについて全体では、「進路指導や職業観の育成について、男女の区別なく能力をいかせるよう配慮する」が 55.1%で最も高く、次いで「学校生活の中で、性別による固定的な役割分担を行わない」が 44.8%、「男女平等についての理解が深まるように教職員に研修を行う」が 32.0%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも上位3位は全体と同順となっており、「学校生活の中で、性別による固定的な役割分担を行わない」では、女性が 47.9%で、男性（40.8%）よりも 7.1 ポイント高く、最も差の大きい項目となっています。

図表 3-4-14 男女共同参画を推進していくために学校で行うとよいと思うもの



5. 働くことについて

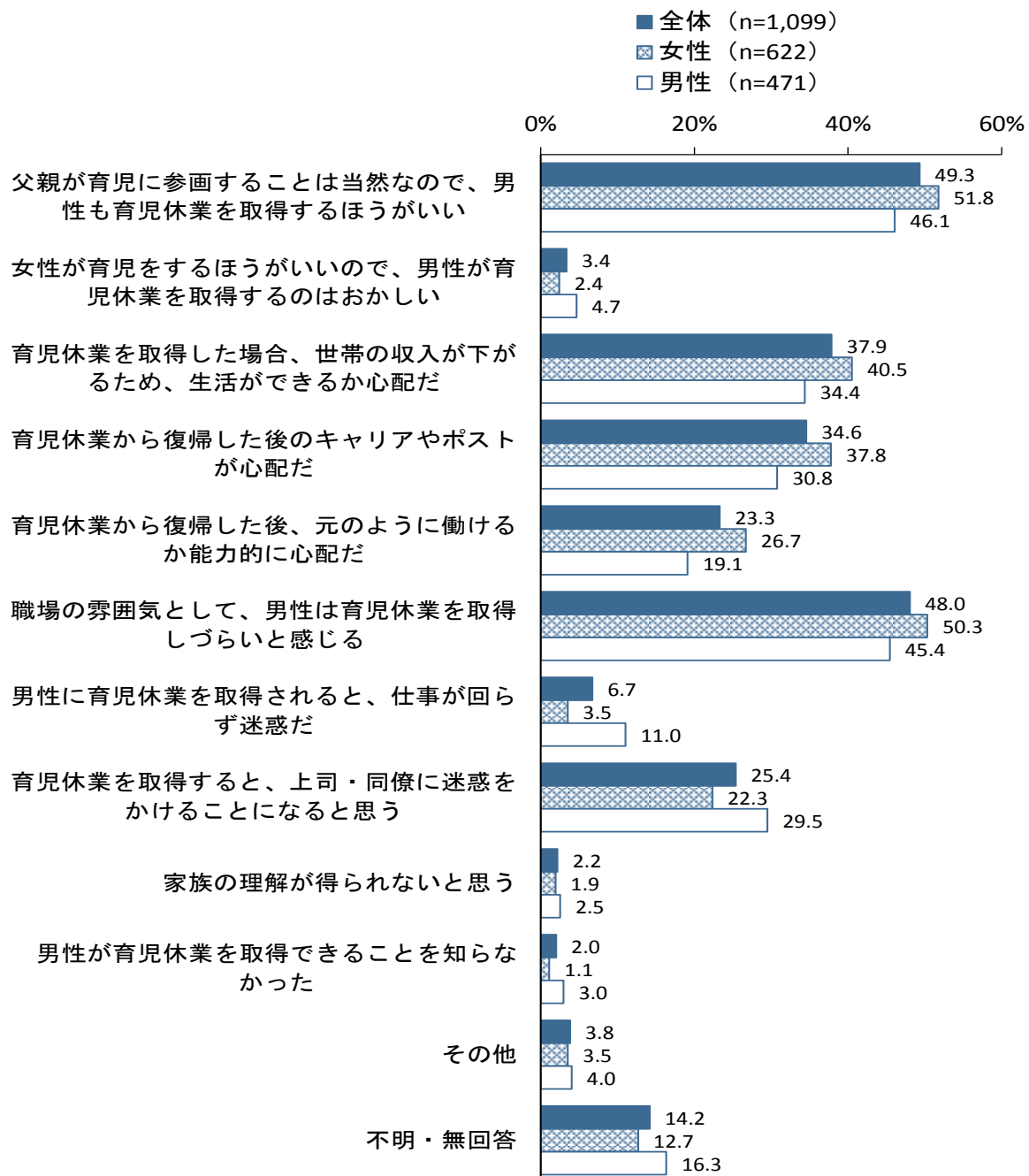
(1) 男性の育児休業取得について

問 19	あなたは、「男性の育児休業取得」について、どう思いますか。 (〇はいくつでも)
------	--

男性の育児休業取得について全体では、「父親が育児に参画することは当然なので、男性も育児休業を取得するほうがいい」が49.3%で最も高く、次いで「職場の雰囲気として、男性は育児休業を取得しづらいと感じる」が48.0%、「育児休業を取得した場合、世帯の収入が下がるため、生活ができるか心配だ」が37.9%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも上位3位は全体と同順となっており、「育児休業から復帰した後、元のように働けるか能力的に心配だ」では、女性が26.7%で、男性（19.1%）よりも7.6ポイント高く、最も差の大きい項目となっています。

図表 3-5-1 男性の育児休業取得について



(2) 男性の育児休業の取得状況

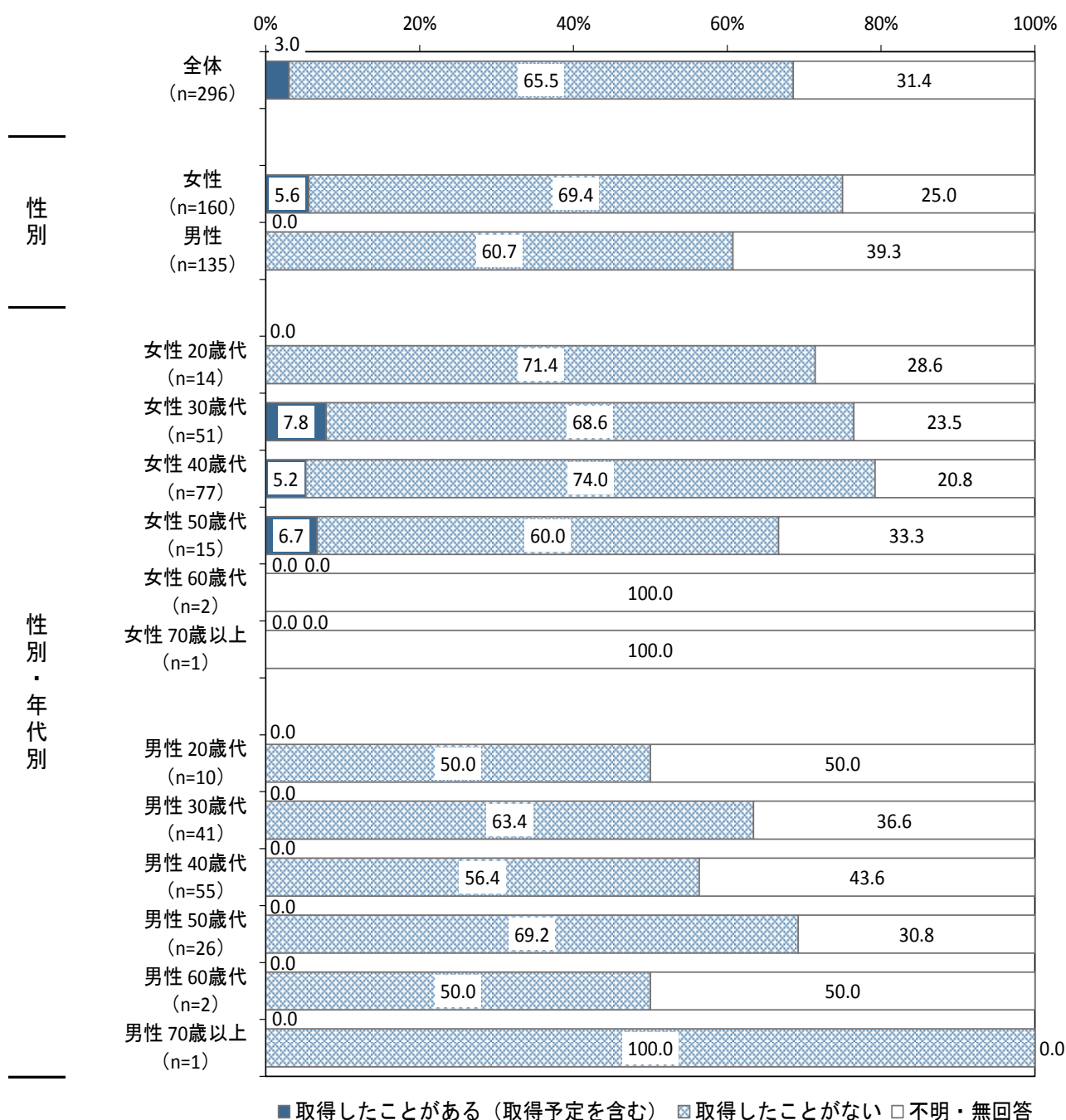
問 19-1	【高校生以下のお子さんがいると回答された方】 あなた、もしくはあなたの配偶者・パートナーは「男性の育児休業取得」をしたことがありますか。(〇は1つだけ)
--------	---

男性の育児休業の取得状況について全体では、「取得したことがない」が65.5%で、「取得したことがある（取得予定を含む）」が3.0%となっています。

性別でみると、「取得したことがある（取得予定を含む）」では、女性が5.6%、男性は0%となっています。

性別・年代別でみると、「取得したことがある（取得予定を含む）」では、女性30歳代が7.8%で最も高く、次いで女性50歳代が6.7%、女性40歳代が5.2%となっています。

図表 3-5-3 男性の育児休業の取得状況



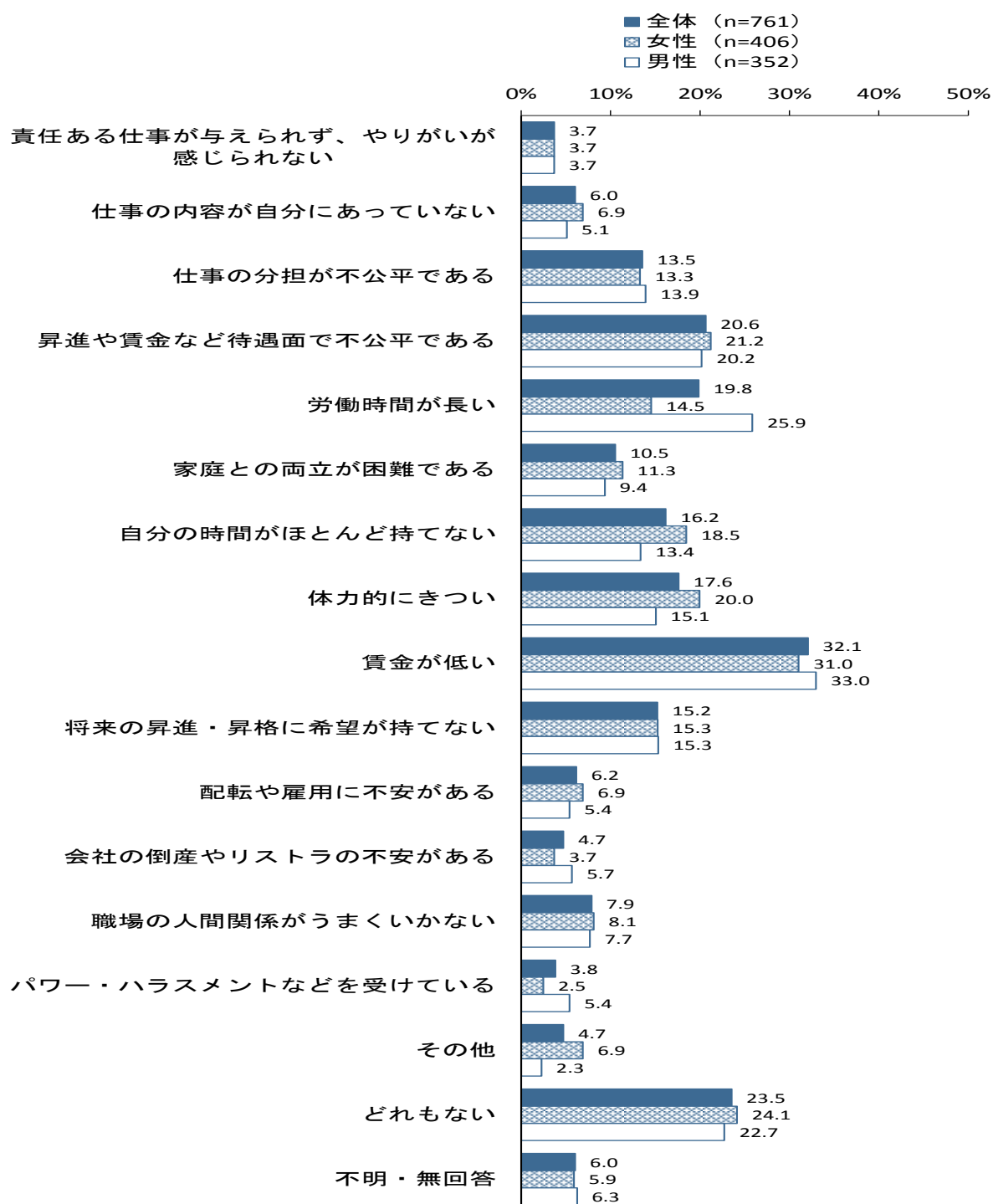
(4) 仕事について悩んでいること・不満に思うこと

問 20-1	あなたは、現在、仕事について悩んでいることや、不満に思うことがありますか。(〇はいくつでも)
--------	--

仕事について悩んでいること・不満に思うことについて全体では、「賃金が低い」が 32.1%で最も高く、次いで「どれもない」が 23.5%、「昇進や賃金など待遇面で不公平である」が 20.6%と続いています。

性別でみると、女性では「賃金が低い」が 31.0%で最も高く、次いで「どれもない」が 24.1%、「昇進や賃金など待遇面で不公平である」が 21.2%と続いている。男性では「賃金が低い」が 33.0%で最も高く、次いで「労働時間が長い」が 25.9%、「どれもない」が 22.7%と続いています。

図表 3-5-7 仕事について悩んでいること・不満に思うこと



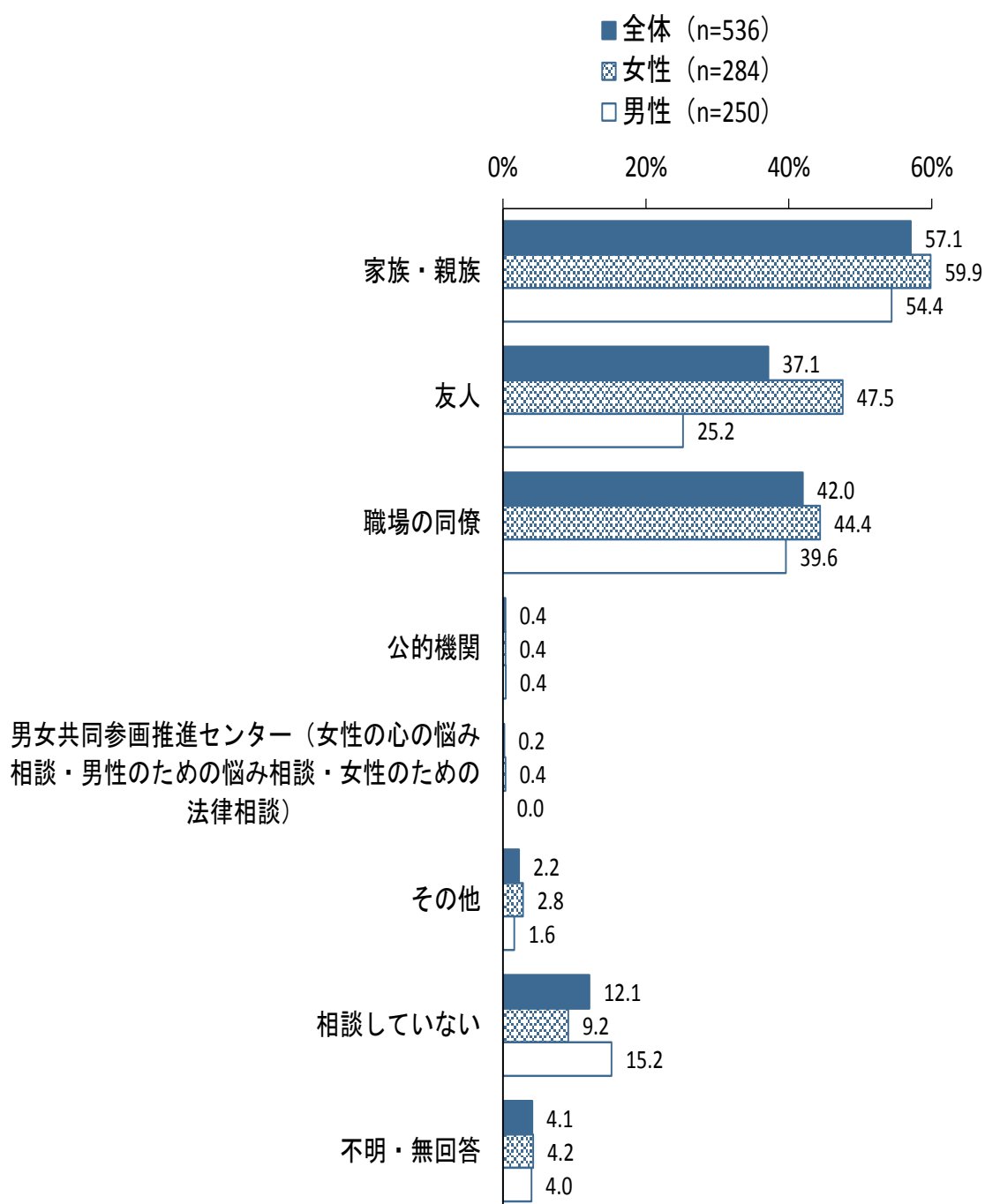
(5) 仕事についての相談先

問 20-2	【問 20-1 で「どれもない」以外を回答された方】 あなたは、仕事についての悩みを、だれに（どこで）相談していますか。 （〇はいくつでも）
--------	--

仕事についての相談先について全体では、「家族・親族」が 57.1%で最も高く、次いで「職場の同僚」が 42.0%、「友人」が 37.1%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「家族・親族」の割合が最も高く、女性では次いで「友人」、「職場の同僚」と続いている、男性では次いで「職場の同僚」、「友人」と続いている、「友人」では女性が 47.5%で、男性（25.2%）よりも 22.3 ポイント高く、最も差が大きい項目となっています。

図表 3-5-11 仕事についての相談先



(6) 配偶者・パートナーが働いていることについて

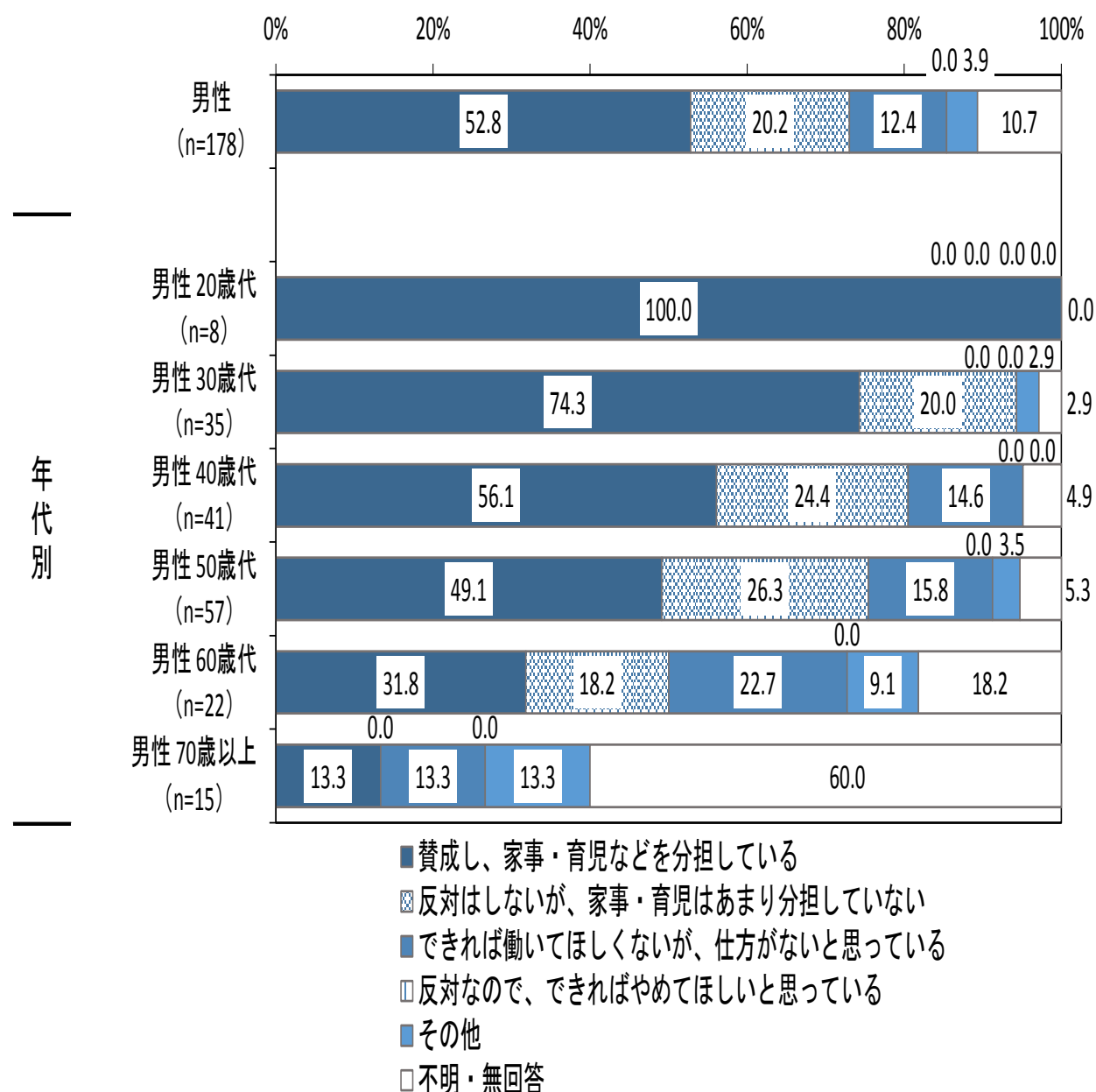
問 21	配偶者・パートナーが働いているあなたは、配偶者・パートナーが働いていることについてどう思いますか。(〇は1つだけ)
------	---

女性の配偶者・パートナーが働いていることについて全体では、「賛成し、家事・育児などを分担している」が52.8%で最も高く、次いで「反対はしないが、家事・育児はあまり分担していない」が20.2%、「できれば働いてほしくないが、仕方がないと思っている」が12.4%と続いています。

年代別にみると、「賛成し、家事・育児などを分担している」では、年代が上がるにつれて割合が低くなっています。

前回調査と比較すると、「賛成し、家事・育児などを分担している」では、全ての年代で前回調査よりも割合が増加しています。

図表 3-5-13 配偶者・パートナーが働いていることについて



(7) 働いていない理由

問 22	あなたが働いていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)
------	-----------------------------

働いていない理由について全体では、「高齢だから」が 35.5%で最も高く、次いで「定年で退職したから」が 19.2%、「健康に自信がないから」が 18.5%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「高齢だから」の割合が最も高く、女性では次いで「健康に自信がないから」、男性では次いで「定年で退職したから」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「健康に自信がないから」が 12.4 ポイント増加し、最も増加した項目となっており、男性では「高齢だから」が 10.1 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

性別・年代別でみると、女性 20 歳代から 30 歳代では「子どもが小さいから」の割合が最も高く、40 歳代では「適当な仕事が見つからないから」の割合が最も高く、50 歳代では「健康に自信がないから」の割合が最も高く、女性 60 歳代以上、男性 70 歳以上では「高齢だから」の割合が最も高く、男性 60 歳代では「定年で退職したから」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、女性では全ての年代で「適当な仕事が見つからないから」「健康に自信がないから」の割合が前回調査よりも増加しています。

図表 3-5-16 働いていない理由 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	子どもが小さいから	経済的に必要がないから	仕事以外にしたいことがあるから	適当な仕事が見つからないから	家族の同意が得られないから	健康に自信がないから	家族に介護を必要とする人がいるから	高齢だから	定年で退職したから	リストラにあつたため
全体	287	9.8	8.7	2.1	15.0	1.0	18.5	6.6	35.5	19.2	1.4
性別											
女性	183	15.3	10.9	2.2	15.3	1.6	19.7	8.2	35.0	9.8	0.5
男性	104	0.0	4.8	1.9	14.4	0.0	16.3	3.8	36.5	35.6	2.9
性別・年代別											
女性 20歳代	15	53.3	0.0	0.0	13.3	0.0	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0
女性 30歳代	25	60.0	16.0	0.0	24.0	0.0	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性 40歳代	26	19.2	11.5	0.0	34.6	3.8	23.1	11.5	0.0	0.0	0.0
女性 50歳代	21	0.0	19.0	4.8	23.8	0.0	38.1	28.6	4.8	0.0	4.8
女性 60歳代	29	0.0	17.2	3.4	13.8	3.4	20.7	10.3	51.7	20.7	0.0
女性 70歳以上	67	0.0	6.0	3.0	3.0	1.5	14.9	3.0	71.6	17.9	0.0
男性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性 30歳代	6	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
男性 40歳代	5	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
男性 50歳代	11	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	45.5	18.2	0.0	0.0	9.1
男性 60歳代	23	0.0	4.3	4.3	17.4	0.0	13.0	8.7	21.7	65.2	0.0
男性 70歳以上	59	0.0	6.8	1.7	8.5	0.0	13.6	0.0	55.9	37.3	1.7

	合計	会社が倒産したため	その他	不明・無回答
全体	287	1.4	13.2	10.1
性別				
女性	183	1.6	13.1	8.7
男性	104	1.0	13.5	12.5
性別・年代別				
女性 20歳代	15	0.0	33.3	6.7
女性 30歳代	25	0.0	20.0	4.0
女性 40歳代	26	0.0	23.1	3.8
女性 50歳代	21	0.0	14.3	9.5
女性 60歳代	29	3.4	10.3	6.9
女性 70歳以上	67	3.0	3.0	13.4
男性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0
男性 30歳代	6	0.0	50.0	16.7
男性 40歳代	5	0.0	40.0	0.0
男性 50歳代	11	0.0	27.3	9.1
男性 60歳代	23	0.0	4.3	4.3
男性 70歳以上	59	1.7	8.5	16.9

※網掛け■は最も割合が高いもの

(8) 仕事があれば働きたいと思うか

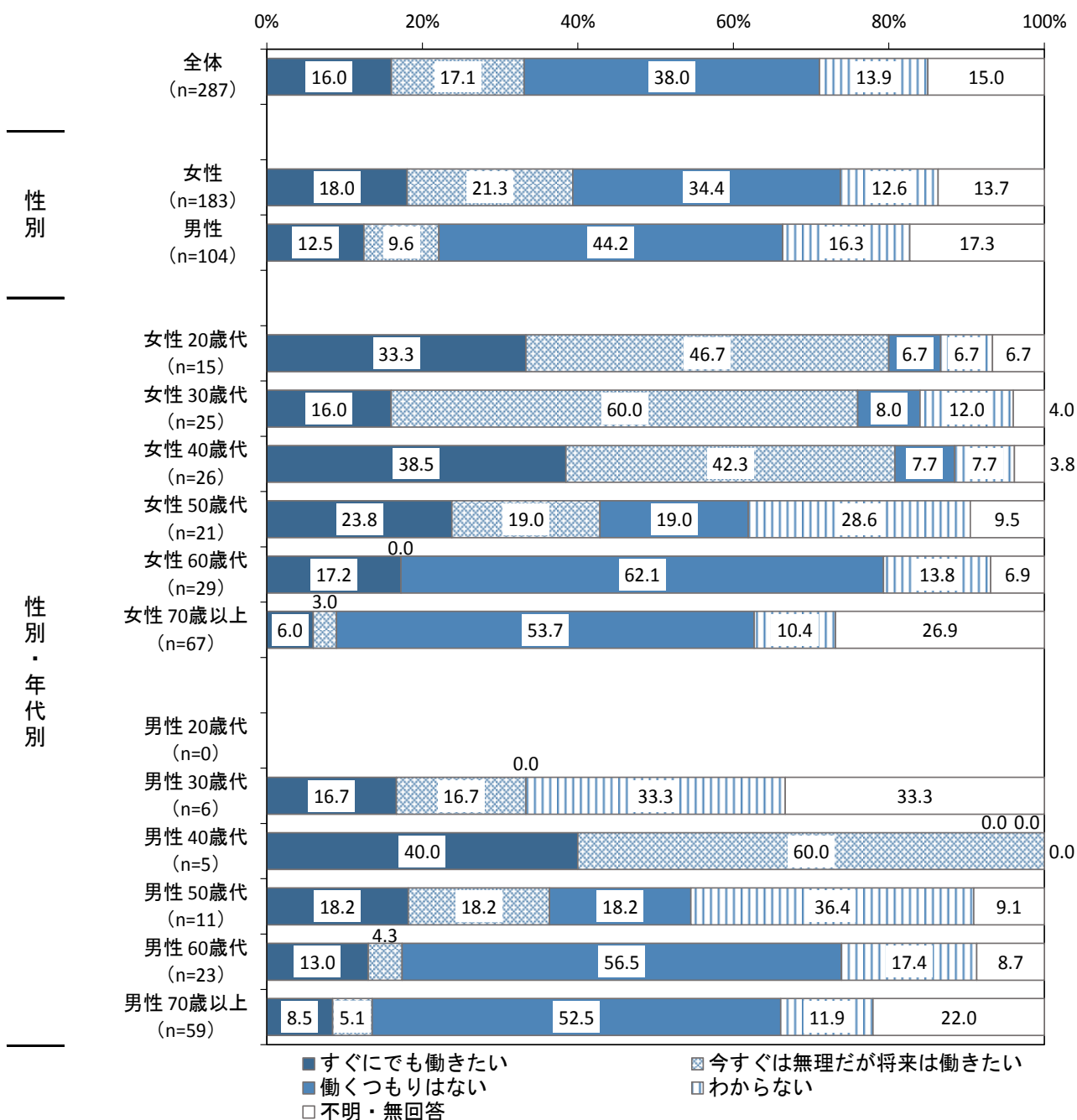
問 22-1	【現在「家事専業」「無職（家事専業以外の人）」と回答された方】 あなたは、適当な仕事があれば働きたいと思いますか。（○は1つだけ）
--------	--

仕事があれば働きたいと思うかについて全体では、「働くつもりはない」が 38.0%で最も高く、次いで「今すぐは無理だが将来は働きたい」が 17.1%、「すぐにでも働きたい」が 16.0%と続いています。

性別でみると、「働くつもりはない」では、男性が 44.2%で、女性（34.4%）よりも 9.8 ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、「働くつもりはない」では、女性・男性いずれも 60 歳代の割合が最も高く、女性 20 歳代から 40 歳代では「今すぐは無理だが将来は働きたい」の割合が最も高くなっています。

図表 3-5-18 仕事があれば働きたいと思うか



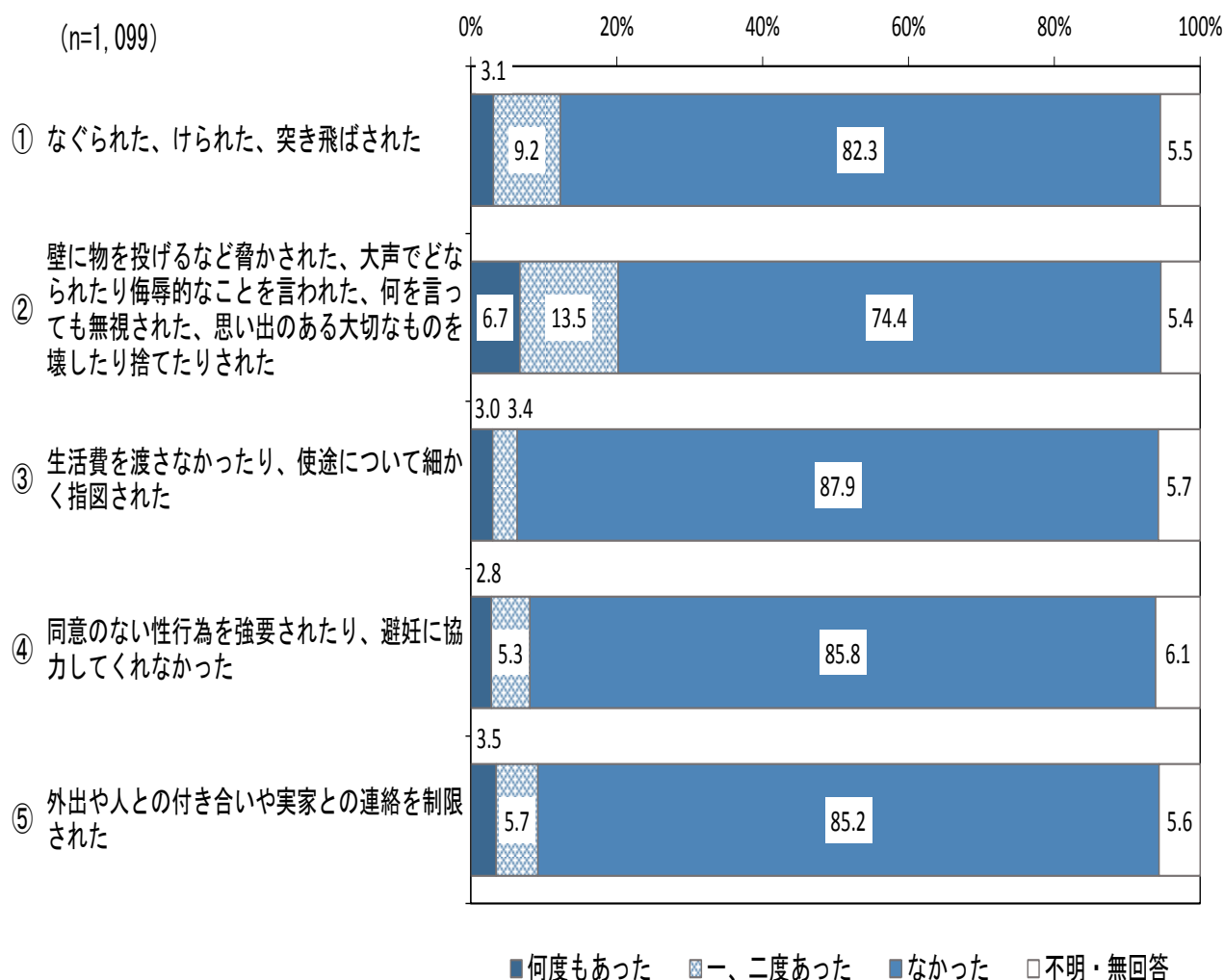
6. 男女間の暴力について

(1) DVの経験

問 24	あなたは、配偶者（元配偶者を含む。）や交際相手（元交際相手を含む。）からの次のような行為を体験されたことがありますか。①～⑤の行為についてそれぞれお答えください。（それぞれに○は1つだけ）
------	--

DVの経験について全体でみると、『あった』（「何度もあった」と「一、二度あった」の合計）では「② 壁に物を投げるなど脅かされた、大声でどなられたり侮辱的なことを言われた、何を言っても無視された、思い出のある大切なものを壊したり捨てたりされた」が20.2%で最も高く、次いで「① なぐられた、けられた、突き飛ばされた」が12.3%、「⑤ 外出や人との付き合いや実家との連絡を制限された」が9.2%と続いています。

図表 3-6-7 DVの経験



(2) DVの被害を受けた際の相談先

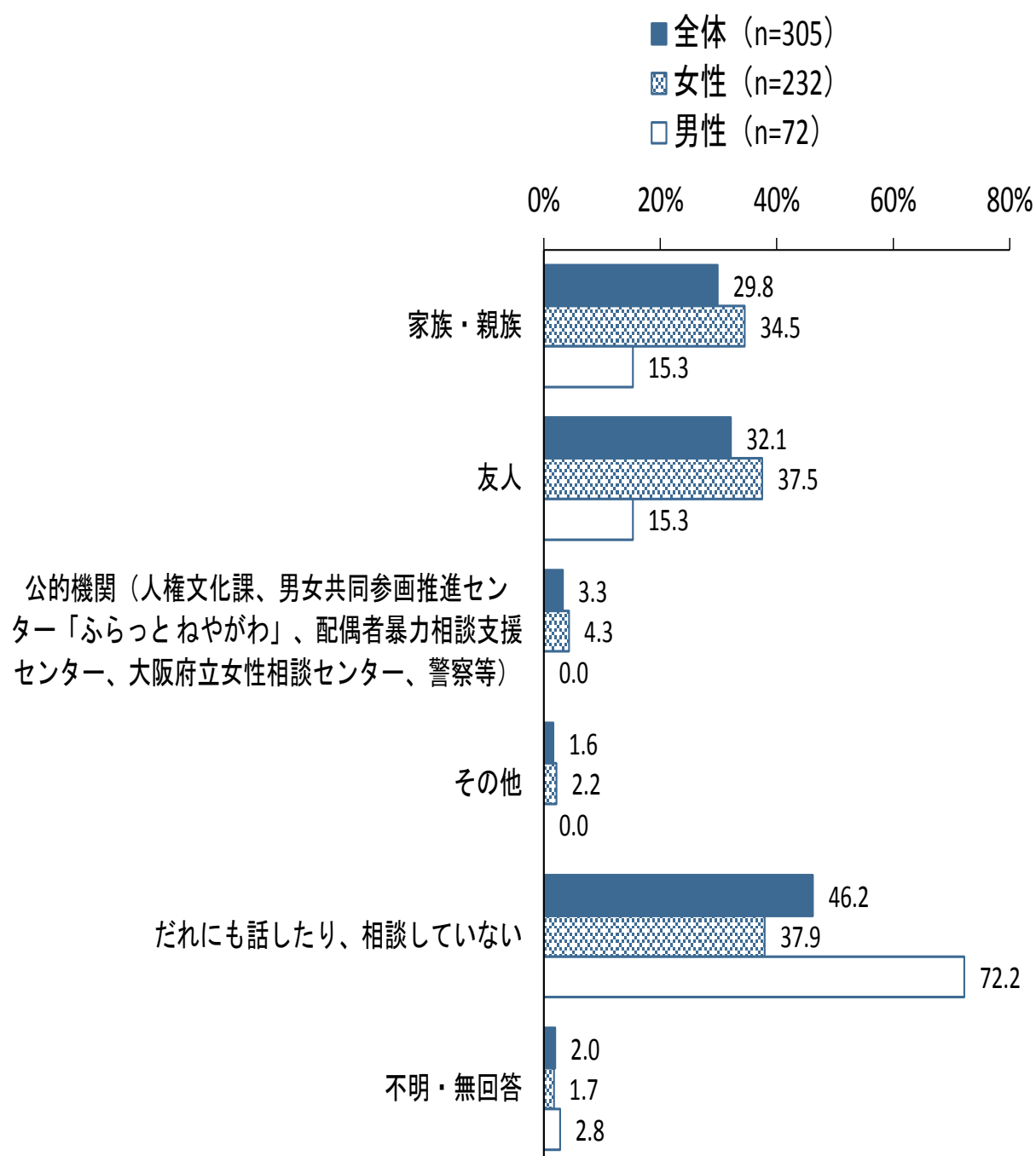
問 24-1	【DVの被害を受けた経験がある方】 あなたは、そのことをだれかに話したり、相談しましたか。(〇はいくつでも)
--------	---

DVの被害を受けた際の相談先について全体では、「だれにも話したり、相談していない」が46.2%で最も高く、次いで「友人」が32.1%、「家族・親族」が29.8%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「だれにも話したり、相談していない」の割合が最も高く、男性が72.2%で、女性（37.9%）よりも34.3ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「だれにも話したり、相談していない」では、女性は前回調査より11.6ポイント減少し、男性は前回調査より8.5ポイント増加しています。

図表 3-6-13 DVの被害を受けた際の相談先



(3) 相談しなかった理由

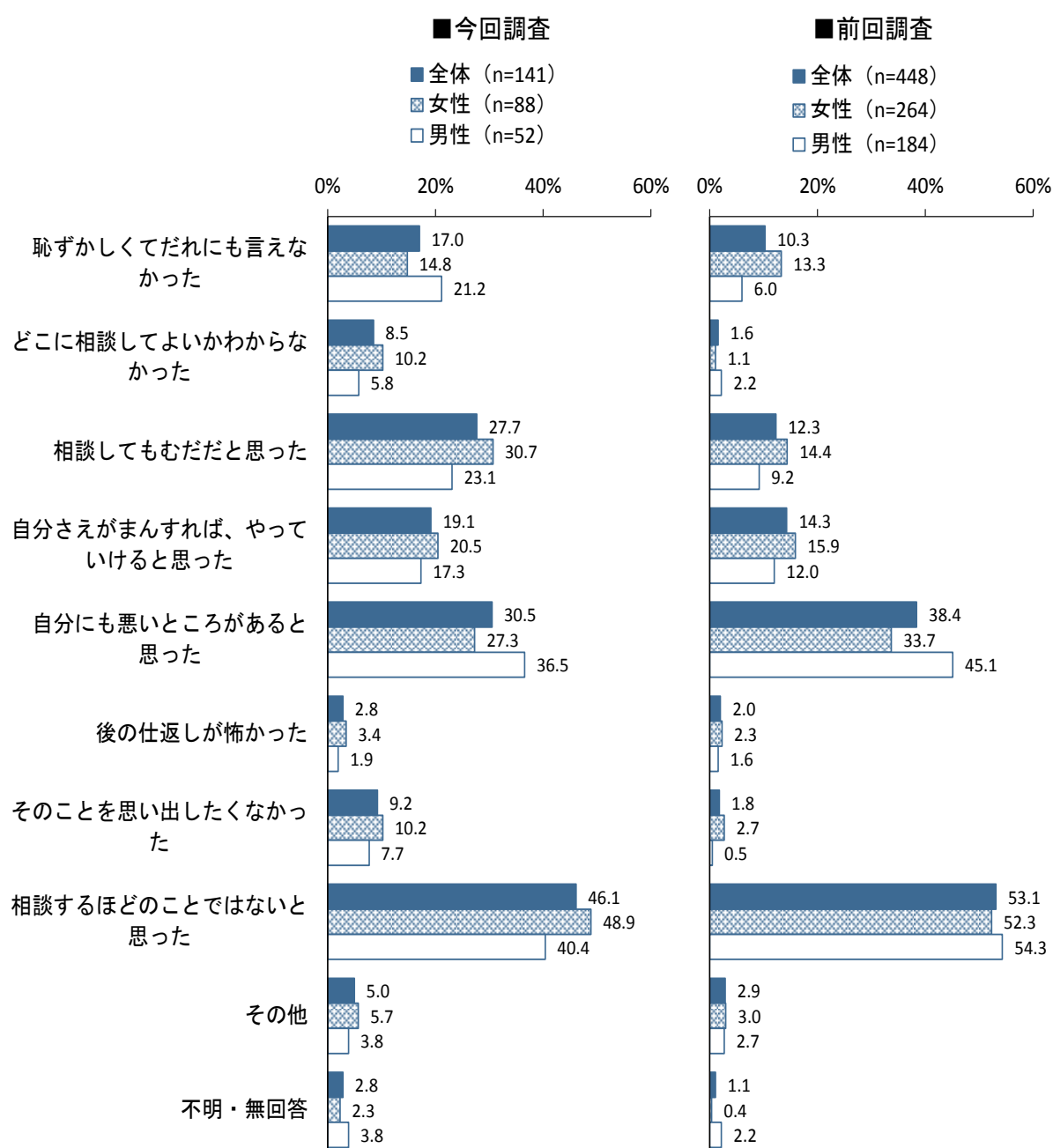
問 24-2	【問 24-1 で「だれにも話したり、相談していない」と回答された方】 だれにも話したり、相談しなかった理由は何ですか。（○はいくつでも）
--------	--

相談しなかった理由について全体では、「相談するほどのことではないと思った」が 46.1%で最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」が 30.5%、「相談してもむだだと思った」が 27.7%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「相談するほどのことではないと思った」の割合が最も高く、女性では次いで「相談してもむだだと思った」の割合が高く、男性では次いで「自分にも悪いところがあると思った」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「相談してもむだだと思った」が前回調査より 15.4 ポイント増加し、最も増加した項目となっており、男性では「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が 15.2 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-6-17 相談しなかった理由



(4) DVの防止に特に必要だと思うこと

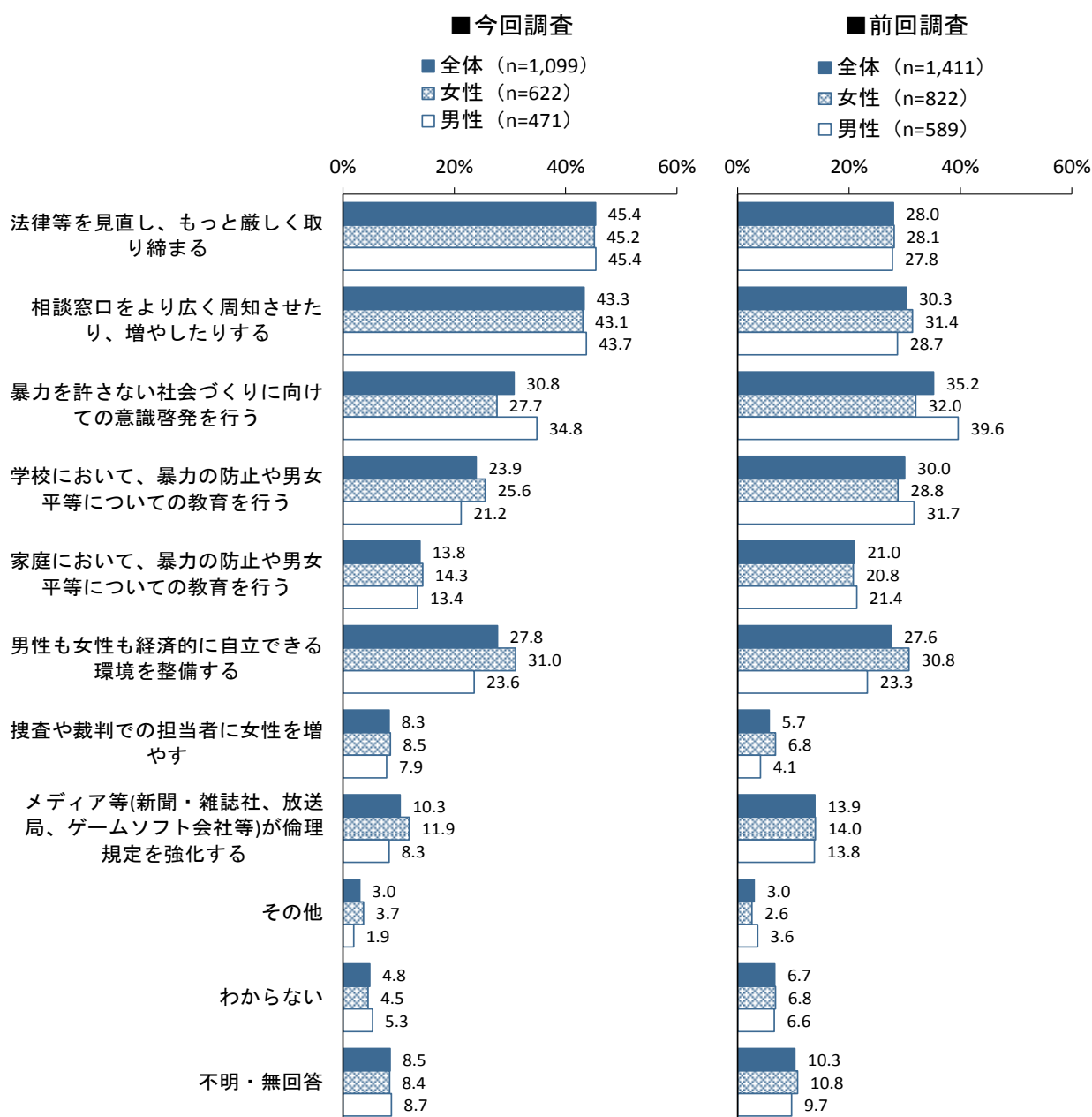
問 25	配偶者（元配偶者を含む。）や交際相手（元交際相手を含む。）からの暴力の防止に特に必要なことは何だと思いますか。（〇は3つ以内）
------	---

DVの防止に特に必要だと思うことについて全体では、「法律等を見直し、もっと厳しく取り締まる」が45.4%で最も高く、次いで「相談窓口をより広く周知させたり、増やしたりする」が43.3%、「暴力を許さない社会づくりに向けての意識啓発を行う」が30.8%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「法律等を見直し、もっと厳しく取り締まる」の割合が最も高く、次いで「相談窓口をより広く周知させたり、増やしたりする」の割合が高くなっており、女性は続いて「男性も女性も経済的に自立できる環境を整備する」の割合が高く、男性は続いて「暴力を許さない社会づくりに向けての意識啓発を行う」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、「法律等を見直し、もっと厳しく取り締まる」では、女性が17.1ポイント、男性が17.6ポイントそれぞれ前回調査より増加しており、女性・男性いずれも最も増加した項目となっています。

図表 3-6-20 DVの防止に特に必要だと思うこと

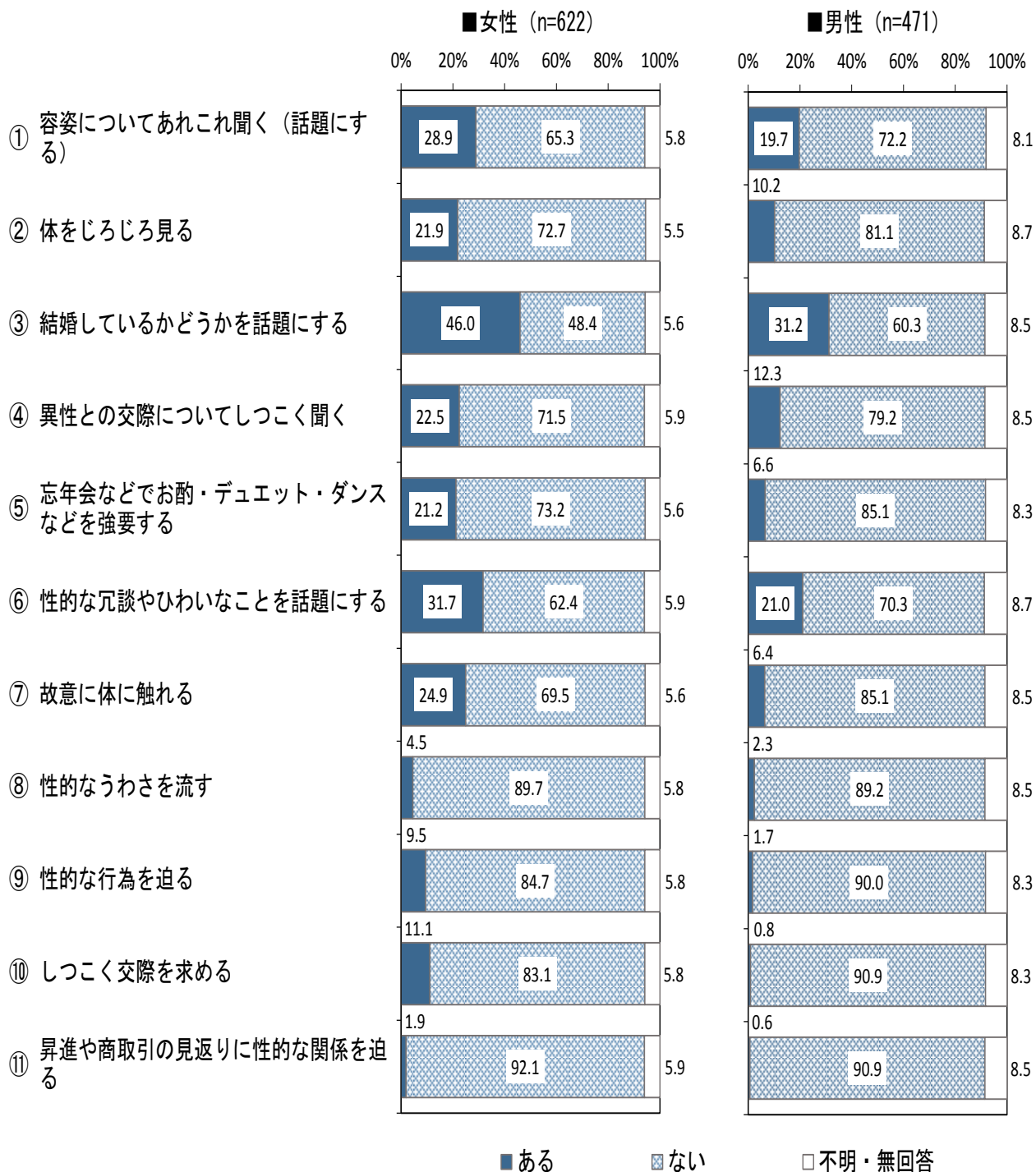


(5) セクシャル・ハラスメントについて

問 26	今までに職場や学校、地域等で「(1) あなたがされたこと」について該当する項目に○印をつけてください。(それぞれに○は1つだけ)
------	--

セクシャル・ハラスメントについて、「あなたがされたこと」では、性別でみると、全ての項目で女性の割合が男性よりも高くなっており、女性・男性いずれも「結婚しているかどうかを話題にする」の割合が最も高く、次いで「性的な冗談やひわいなことを話題にする」、「容姿についてあれこれ聞く（話題にする）」の割合が高くなっています。

図表 3-6-23 セクシャル・ハラスメントについて (1) あなたがされたこと



7. 高齢期の生活について

(1) 主としてだれが介護・介助をしているか

問 28-1	主としてだれが介護・介助（居宅又は入所）をしていますか。（○は1 つだけ）
--------	---------------------------------------

主としてだれが介護・介助をしているかについて全体では、「介護されている人の娘」が 24.8%で最も高く、次いで「介護施設等」が 20.3%、「介護されている人の妻」が 11.3%と続いています。

性別でみると、女性では「介護されている人の娘」が 33.8%で最も高く、男性では「介護施設等」が 22.0%で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、全体では「介護施設等」が 4.5 ポイント増加し、最も増加した項目となっており、「介護されている人の妻」「介護されている人の息子の妻」がいずれも 5.8 ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

図表 3-7-13 主としてだれが介護・介助をしているか 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	介護されている人の妻	介護されている人の夫	介護されている人の娘	介護されている人の息子	介護されている人の娘の夫	妻介護されている人の息子の妻	介護サマーヘルパーなどの在宅	介護施設等	その他	不明・無回答
全体	133	11.3	1.5	24.8	8.3	0.0	6.0	11.3	20.3	6.8	9.8
性別											
女性	74	9.5	1.4	33.8	1.4	0.0	10.8	8.1	18.9	4.1	12.2
男性	59	13.6	1.7	13.6	16.9	0.0	0.0	15.3	22.0	10.2	6.8
性別・年代別											
女性 20歳代	4	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0
女性 30歳代	8	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0
女性 40歳代	16	12.5	0.0	50.0	0.0	0.0	6.3	18.8	0.0	0.0	12.5
女性 50歳代	26	3.8	3.8	26.9	3.8	0.0	15.4	0.0	34.6	3.8	7.7
女性 60歳代	9	22.2	0.0	33.3	0.0	0.0	22.2	0.0	22.2	0.0	0.0
女性 70歳以上	11	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	18.2	9.1	9.1	45.5
男性 20歳代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性 30歳代	7	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3
男性 40歳代	7	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0
男性 50歳代	20	10.0	0.0	5.0	20.0	0.0	0.0	15.0	25.0	15.0	10.0
男性 60歳代	9	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	22.2	11.1	11.1
男性 70歳以上	15	26.7	0.0	20.0	13.3	0.0	0.0	13.3	20.0	6.7	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

(2) 主にだれに介護をしてもらいたいのか

問 29	もし、あなたが寝たきりで介護が必要になったら、主にだれに介護をしてもらいたいですか。（○は1つだけ）
------	--

主にだれに介護をしてもらいたいのかについて全体では、「介護施設等」が 35.1%で最も高く、次いで「妻・夫」が 26.4%、「ホームヘルパーなどの在宅介護サービス」が 20.3%と続いています。

性別・年代別でみると、女性では全ての年代で「介護施設等」の割合が最も高く、男性では 20 歳代が「妻・夫」「介護施設等」が同率で最も高く、30 歳以上が「妻・夫」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「介護施設等」では、女性 20 歳代、女性 40 歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が増加しており、「妻・夫」では、70 歳以上を除く全ての年代で前回調査より割合が減少しています。

図表 3-7-19 主にだれに介護をしてもらいたいのか 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	妻・夫	娘	息子	娘の夫	息子の妻	ホームヘルパーなどの在宅介護サービス	介護施設等	その他	不明・無回答
全体		1,099	26.4	8.5	1.5	0.1	0.5	20.3	35.1	3.5	4.2
性別	女性	622	14.6	13.5	1.4	0.2	0.3	23.6	39.2	2.7	4.3
	男性	471	42.0	1.9	1.5	0.0	0.6	15.9	29.7	4.2	4.0
性別・年代別	女性 20歳代	80	15.0	12.5	0.0	0.0	0.0	21.3	33.8	11.3	6.3
	女性 30歳代	103	15.5	2.9	1.0	0.0	0.0	30.1	42.7	2.9	4.9
	女性 40歳代	142	14.8	12.7	3.5	0.0	0.0	28.9	33.8	1.4	4.9
	女性 50歳代	137	10.9	13.9	0.7	0.0	0.0	19.7	49.6	1.5	3.6
	女性 60歳代	63	14.3	20.6	0.0	0.0	0.0	22.2	41.3	0.0	1.6
	女性 70歳以上	97	18.6	21.6	2.1	1.0	2.1	17.5	32.0	1.0	4.1
	男性 20歳代	47	31.9	0.0	2.1	0.0	0.0	21.3	31.9	8.5	4.3
	男性 30歳代	71	40.8	1.4	1.4	0.0	0.0	14.1	31.0	8.5	2.8
	男性 40歳代	89	41.6	2.2	1.1	0.0	0.0	12.4	36.0	4.5	2.2
	男性 50歳代	107	43.0	1.9	0.9	0.0	0.0	19.6	26.2	1.9	6.5
	男性 60歳代	67	40.3	0.0	0.0	0.0	1.5	17.9	37.3	1.5	1.5
	男性 70歳以上	90	48.9	4.4	3.3	0.0	2.2	12.2	20.0	3.3	5.6

※網掛け■は最も割合が高いもの

8. 男女共同参画施策の推進について

(1) 男女共同参画推進センターで特に重要だと思う機能

問 30	男女共同参画推進センターの次のような機能の中で特にどれが重要だと思いますか。(〇は1つだけ)
------	--

男女共同参画推進センターで特に重要だと思う機能について全体では、「男女それぞれの立場に立った心の悩みなどの相談に応じる」が 47.0%で最も高く、次いで「気楽に話し合えるフリースペースがある」が 14.5%、「男女共同参画に関する資料や情報の収集、提供をする」が 13.9%と続いています。

性別・年代別でみると、全ての年代で「男女それぞれの立場に立った心の悩みなどの相談に応じる」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、全ての年代で「男女それぞれの立場に立った心の悩みなどの相談に応じる」の割合が前回調査よりも増加しています。

図表 3-8-2 男女共同参画推進センターで特に重要だと思う機能 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	男女それぞれの立場に立った心の悩みなどの相談に応じる	男女共同参画に関する講座、座談会、シンポジウム等を開催する	男女共同参画に関する市民の自主活動を支援する	男女共同参画に関する資料の収集、提供をする	気楽に話し合えるフリースペースがある	その他	不明・無回答
全体	1,099	47.0	8.3	8.0	13.9	14.5	2.9	5.5
性別								
女性	622	48.6	7.4	7.6	14.8	13.2	2.6	5.9
男性	471	44.6	9.6	8.7	13.0	15.9	3.4	4.9
性別・年代別								
女性 20歳代	80	53.8	5.0	10.0	15.0	10.0	3.8	2.5
女性 30歳代	103	58.3	6.8	5.8	14.6	4.9	3.9	5.8
女性 40歳代	142	51.4	6.3	10.6	15.5	12.0	2.1	2.1
女性 50歳代	137	51.8	8.8	4.4	16.1	10.2	4.4	4.4
女性 60歳代	63	38.1	9.5	12.7	12.7	19.0	0.0	7.9
女性 70歳以上	97	32.0	8.2	4.1	13.4	26.8	0.0	15.5
男性 20歳代	47	55.3	6.4	4.3	14.9	12.8	4.3	2.1
男性 30歳代	71	45.1	7.0	7.0	18.3	15.5	2.8	4.2
男性 40歳代	89	49.4	6.7	14.6	7.9	14.6	4.5	2.2
男性 50歳代	107	52.3	10.3	7.5	11.2	13.1	3.7	1.9
男性 60歳代	67	35.8	19.4	9.0	13.4	19.4	1.5	1.5
男性 70歳以上	90	31.1	7.8	7.8	14.4	20.0	3.3	15.6

※網掛け■は最も割合が高いもの

(2) 男女共同参画を進めるに当たって必要だと思うこと

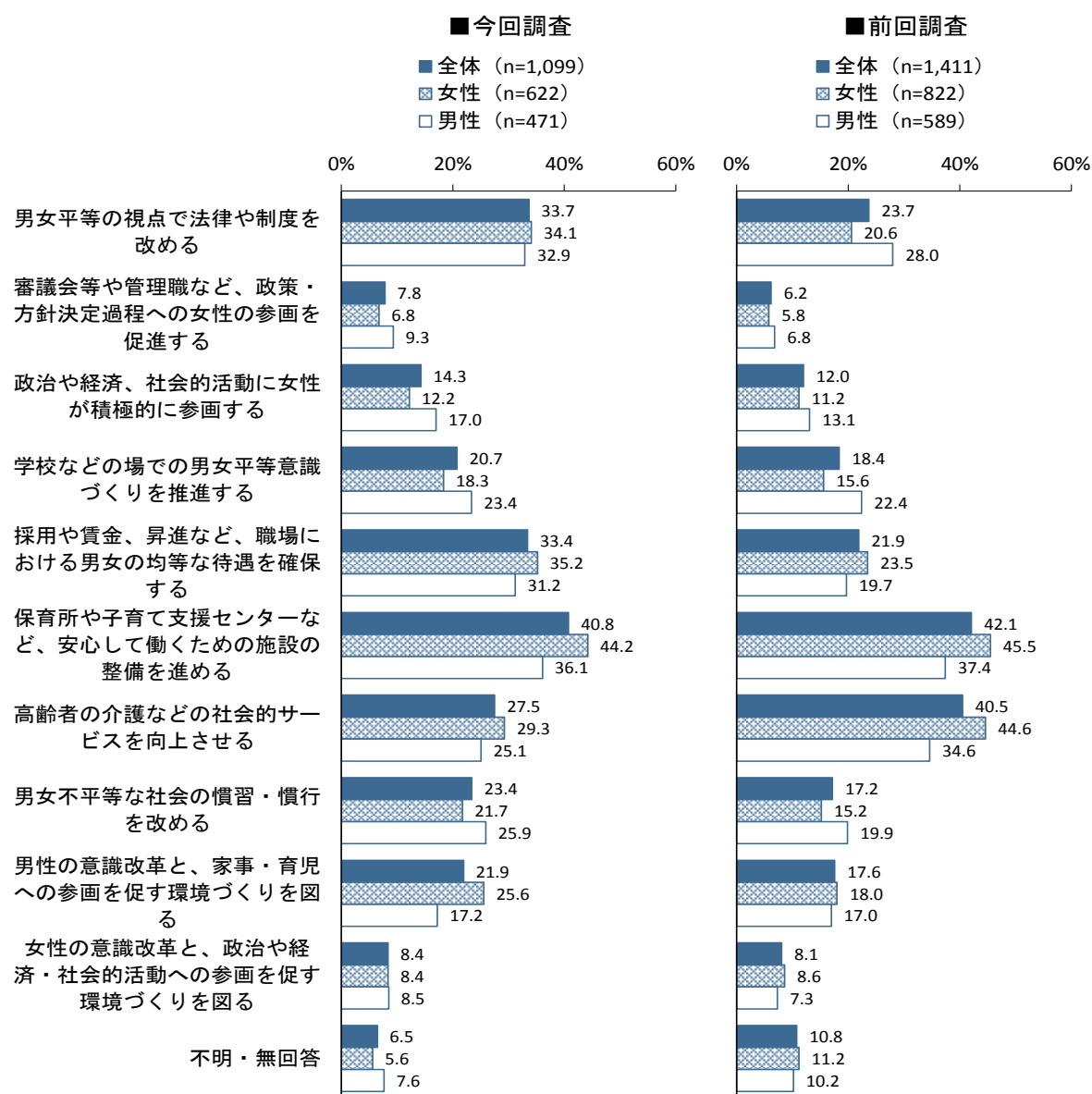
問 31	男女共同参画を進めるに当たって、何が必要だと思いますか。(〇は3つ以内)
------	--------------------------------------

男女共同参画を進めるに当たって必要だと思うことについて全体では、「保育所や子育て支援センターなど、安心して働くための施設の整備を進める」が40.8%で最も高く、次いで「男女平等の視点で法律や制度を改める」が33.7%、「採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する」が33.4%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「保育所や子育て支援センターなど、安心して働くための施設の整備を進める」の割合が最も高く、女性では次いで「採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する」の割合が高く、男性では次いで「男女平等の視点で法律や制度を改める」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「男女平等の視点で法律や制度を改める」が13.5ポイント増加し、前回調査よりも最も増加した項目となっており、男性では「採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する」が11.5ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 3-8-4 男女共同参画を進めるに当たって必要だと思うこと



前回調査と比較すると、「採用や賃金、昇進など、職場における男女の均等な待遇を確保する」では、全ての年代で前回調査より割合が増加しており、「高齢者の介護などの社会的サービスを向上させる」では、男性 50 歳代を除く全ての年代で前回調査より割合が減少しています。

単位：実数（人）、構成比（％）

※網掛け■は最も割合が高いもの

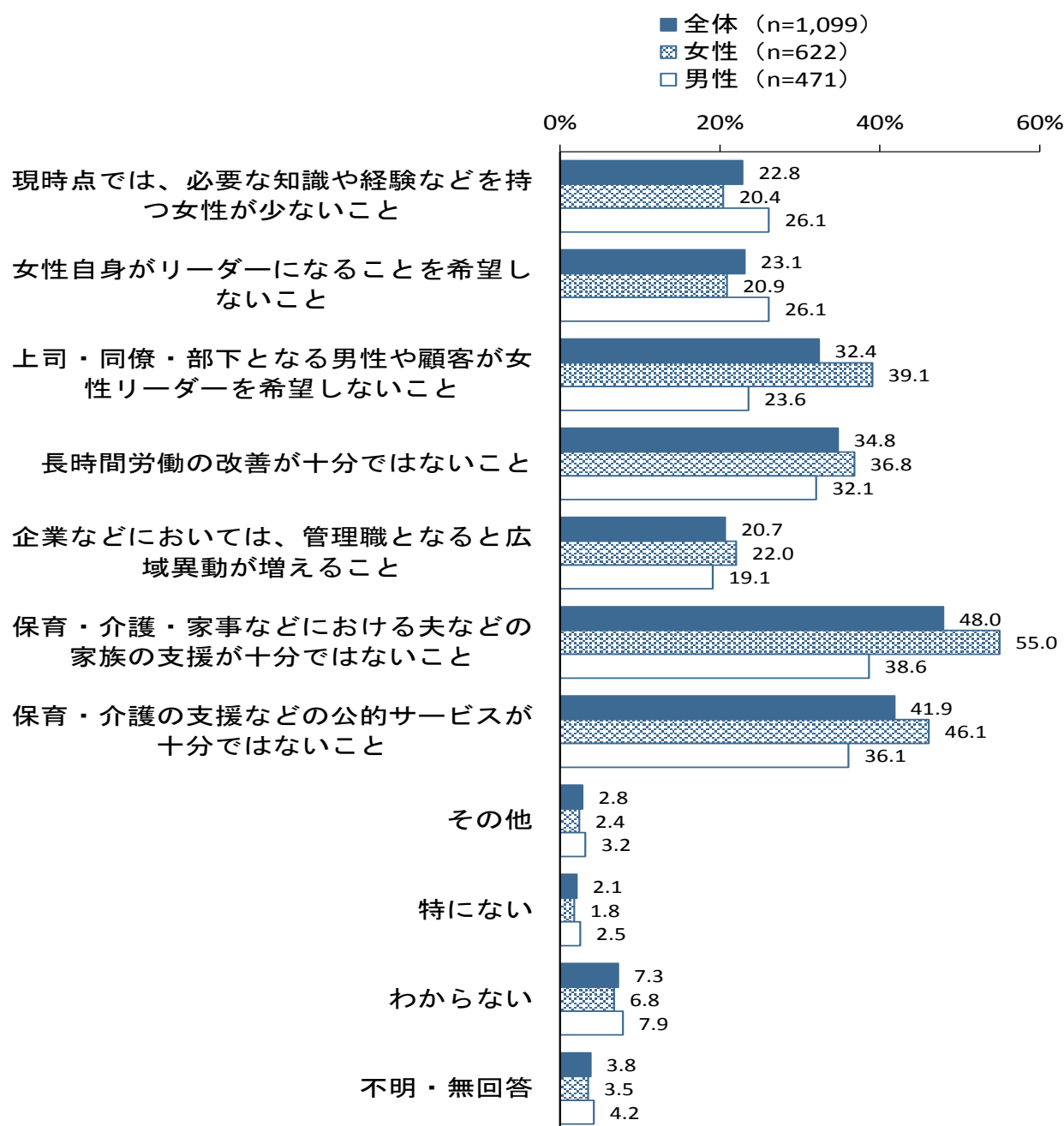
(3) 女性のリーダーを増やすときに障害となるもの

問 32	あなたは、経済・地域・政治などの各分野で、女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。（〇はいくつでも）
------	---

女性のリーダーを増やすときに障害となるものについて全体では、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が48.0%で最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が41.9%、「長時間労働の改善が十分ではないこと」が34.8%と続いています。

性別でみると、女性・男性いずれも「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」の割合が最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」の割合が高くなっており、女性では続いて「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」の割合が高く、男性では続いて「長時間労働の改善が十分ではないこと」の割合が高くなっていきます。

図表 3-8-7 女性のリーダーを増やすときに障害となるもの



性別・年代別でみると、男性 20 歳代、男性 50 歳代、60 歳代では「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」の割合が最も高く、女性 70 歳以上では「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」の割合が最も高く、男性 30 歳代では「長時間労働の改善が十分ではないこと」の割合が最も高く、その他の年代では「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」の割合が最も高くなっています。

図表 3-8-8 女性のリーダーを増やすときに障害となるもの 性別・年代別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	い経験 こ験時 とな点 どでは、 持つ必要 なが知識 なや	こ女 と性を 自希望 がしり ないダ ーこと になる	希性 望や し顧 ・客 同僚 こ女 ・と 性部 リ下 ーと ダな ーる を男	は長 な時 間こ 労働 の改 善が 十分 で	る職 こと とな るど にお 域異 て動 は、 増管 え理	十け 分る で夫 ・は な介 ど護 いの ・こ 家家 と族 事の な支 ど援 にが お	この保 とサ育 ー・ビ 介介 護護 がの 十支 分援 でな はどの い公	そ の 他	特 に ない	わ か ら ない	不 明 ・ 無 回 答
全体		1,099	22.8	23.1	32.4	34.8	20.7	48.0	41.9	2.8	2.1	7.3	3.8
性別	女性	622	20.4	20.9	39.1	36.8	22.0	55.0	46.1	2.4	1.8	6.8	3.5
	男性	471	26.1	26.1	23.6	32.1	19.1	38.6	36.1	3.2	2.5	7.9	4.2
性別・年代別	女性 20歳代	80	12.5	28.8	42.5	42.5	18.8	65.0	52.5	1.3	2.5	6.3	0.0
	女性 30歳代	103	10.7	24.3	39.8	41.7	25.2	62.1	53.4	5.8	1.0	3.9	0.0
	女性 40歳代	142	19.7	20.4	45.1	36.6	21.1	57.0	40.1	4.2	1.4	4.9	1.4
	女性 50歳代	137	19.7	21.9	42.3	33.6	25.5	61.3	50.4	0.7	0.7	6.6	1.5
	女性 60歳代	63	28.6	19.0	38.1	46.0	22.2	49.2	57.1	0.0	1.6	7.9	3.2
	女性 70歳以上	97	34.0	11.3	22.7	25.8	17.5	30.9	28.9	1.0	4.1	12.4	16.5
	男性 20歳代	47	25.5	25.5	23.4	34.0	19.1	29.8	36.2	2.1	0.0	10.6	2.1
	男性 30歳代	71	23.9	29.6	31.0	45.1	14.1	40.8	31.0	5.6	0.0	5.6	1.4
	男性 40歳代	89	23.6	22.5	16.9	40.4	12.4	56.2	38.2	4.5	4.5	5.6	2.2
	男性 50歳代	107	28.0	24.3	23.4	23.4	20.6	30.8	41.1	1.9	5.6	7.5	2.8
	男性 60歳代	67	29.9	34.3	29.9	32.8	31.3	44.8	44.8	0.0	0.0	4.5	1.5
	男性 70歳以上	90	25.6	23.3	20.0	22.2	18.9	28.9	25.6	4.4	2.2	13.3	13.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

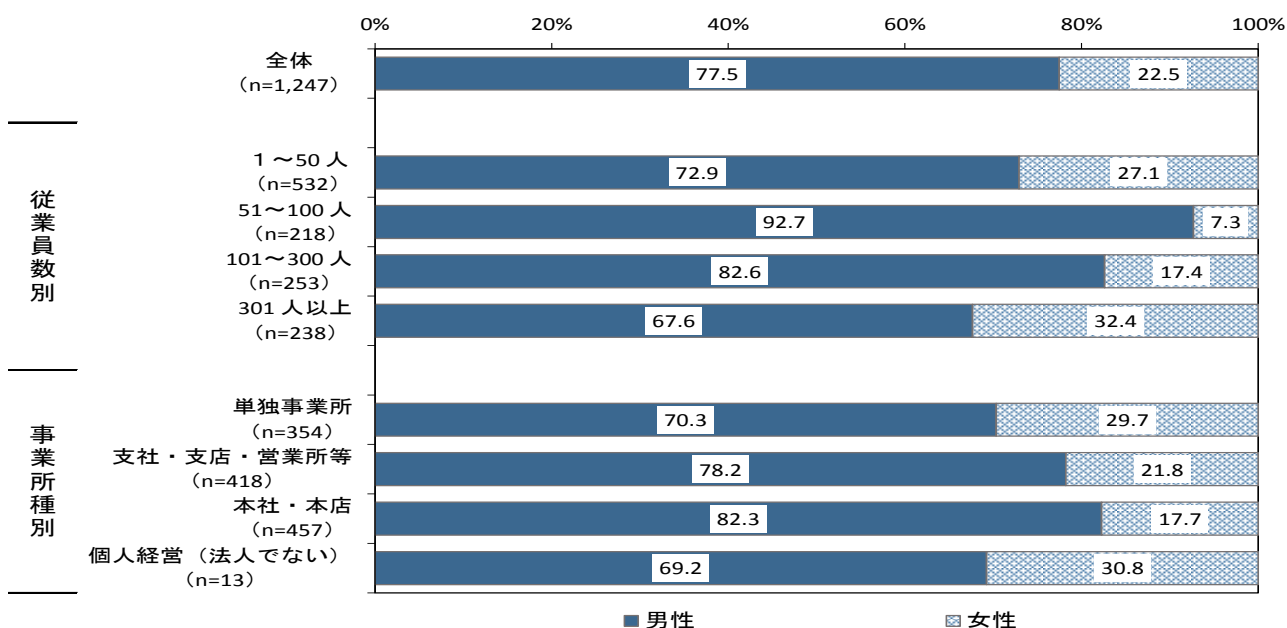
IV. 事業所実態調査結果

(1) 従業員数・育児・介護休業取得者の状況

問 3	貴事業所の現在（平成 31 年 4 月 1 日現在）雇用する従業員数、管理職数等を御記入ください。
-----	---

⑤ 管理職

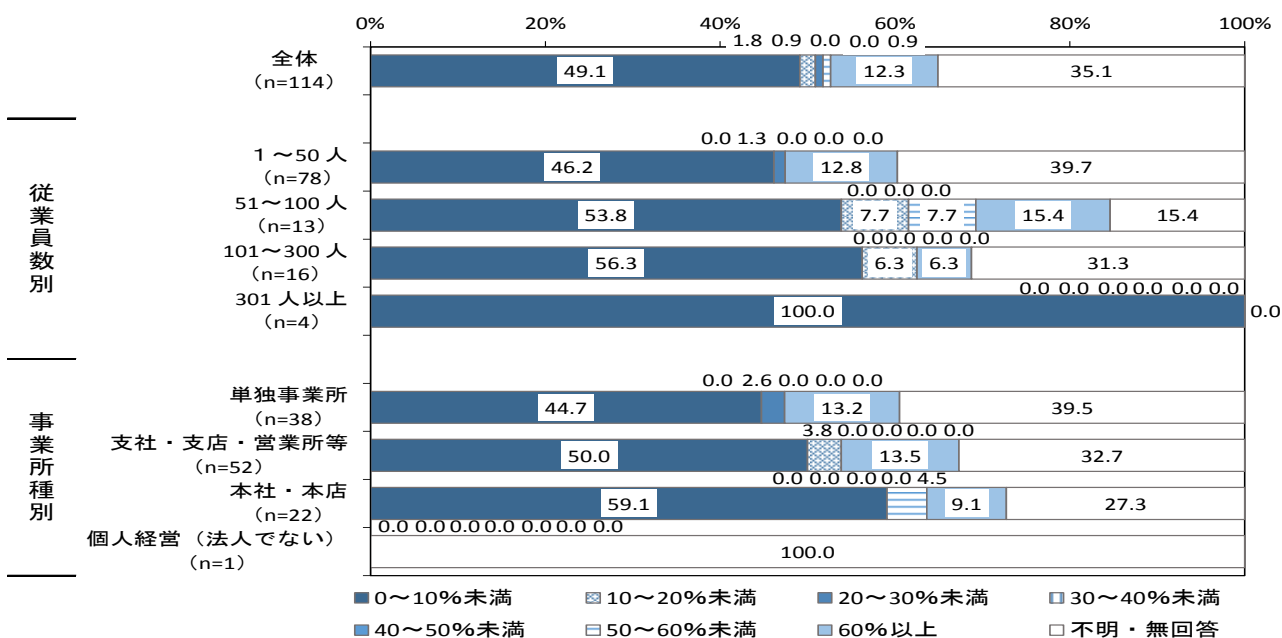
男性・女性別管理職数について全体では、男性が 77.5%、女性が 22.5%となっています。



⑥ 育児休業の取得状況

育児休業取得率について、男性では、「0～10%未満」が 49.1%で最も高く、次いで「60%以上」が 12.3%、「10～20%未満」が 1.8%と続いています。

図表 4-1-17 育児休業取得率 男性



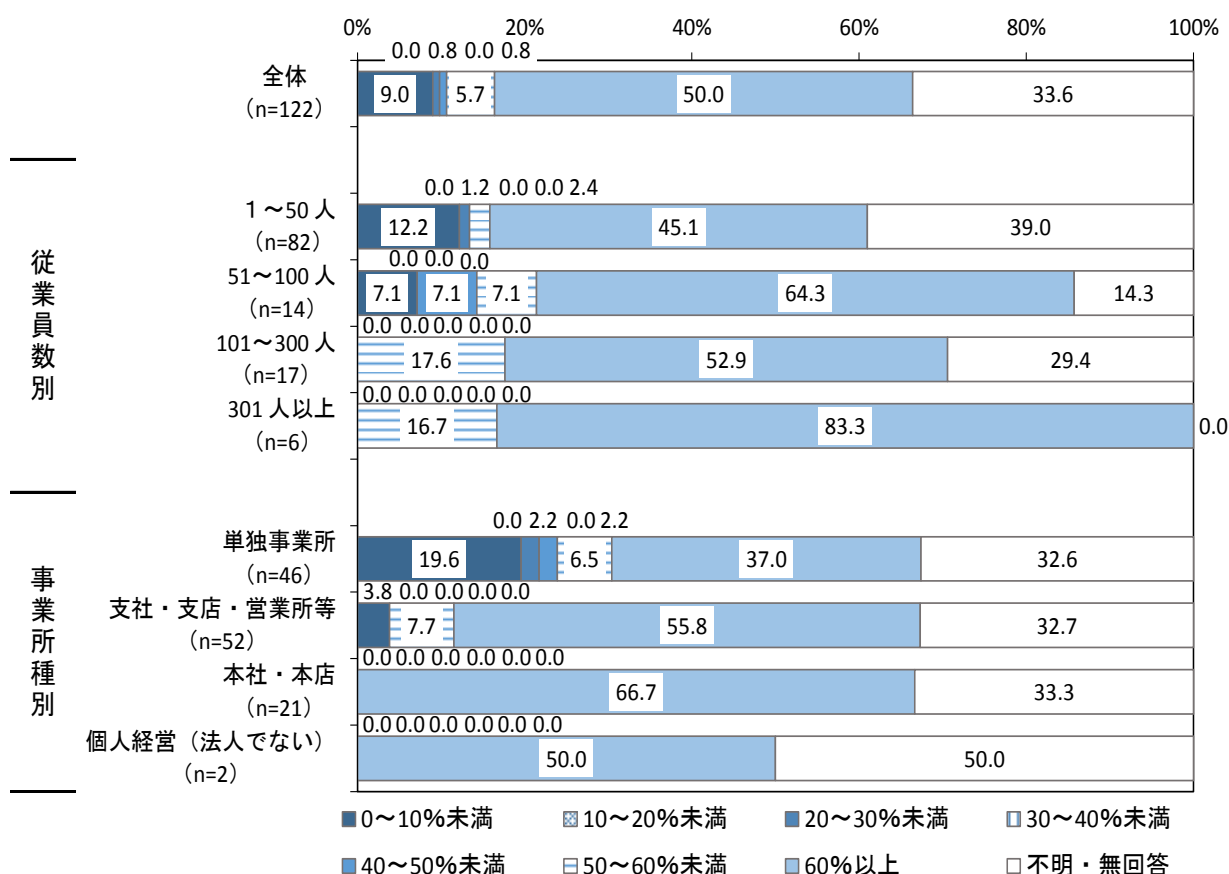
育児休業取得者の平均取得日数について、男性では全体で43.6日となっています。

図表 4-1-18 育児休業取得者の平均取得日数 男性

		事業所数	平均取得日数
全体		20 事業所	43.6 日
従業員数別	1～50 人	11 事業所	46.3 日
	51～100 人	4 事業所	6.1 日
	101～300 人	3 事業所	104.7 日
	301 人以上	1 事業所	22.0 日
事業所種別	単独事業所	7 事業所	56.6 日
	支社・支店・営業所等	9 事業所	48.2 日
	本社・本店	4 事業所	10.6 日
	個人経営（法人でない）	0 事業所	—

育児休業取得率について、女性では、「60%以上」が50.0%で最も高く、次いで「0～10%未満」が9.0%、「50～60%未満」が5.7%と続いています。

図表 4-1-19 育児休業取得率 女性



育児休業取得者の平均取得日数について、女性では全体で 372.1 日となっています。

図表 4-1-20 育児休業取得者の平均取得日数 女性

		事業所数	平均取得日数
全体		67 事業所	372.1 日
従業員数別	1～50 人	38 事業所	390.9 日
	51～100 人	11 事業所	355.8 日
	101～300 人	13 事業所	367.8 日
	301 人以上	5 事業所	276.6 日
事業所種別	単独事業所	20 事業所	402.9 日
	支社・支店・営業所等	34 事業所	375.6 日
	本社・本店	12 事業所	323.8 日
	個人経営（法人でない）	1 事業所	220.0 日

⑦介護休業の取得状況

介護休業の取得者については男性が 12 人、女性が 21 人で、平均取得日数については男性が 29.2 日、女性が 17.9 日となっています。

図表 4-1-21 介護休業取得者の平均取得日数 男性

		事業所数	平均取得日数
全体		12 事業所	29.2 日
従業員数別	1～50 人	4 事業所	4.8 日
	51～100 人	3 事業所	64.7 日
	101～300 人	4 事業所	17.9 日
	301 人以上	1 事業所	66.0 日
事業所種別	単独事業所	4 事業所	50.0 日
	支社・支店・営業所等	5 事業所	15.3 日
	本社・本店	3 事業所	24.7 日
	個人経営（法人でない）	0 事業所	—

図表 4-1-22 介護休業取得者の平均取得日数 女性

		事業所数	平均取得日数
全体		21 事業所	17.9 日
従業員数別	1～50 人	9 事業所	8.3 日
	51～100 人	4 事業所	22.6 日
	101～300 人	4 事業所	5.5 日
	301 人以上	3 事業所	43.0 日
事業所種別	単独事業所	8 事業所	22.5 日
	支社・支店・営業所等	8 事業所	9.0 日
	本社・本店	4 事業所	16.3 日
	個人経営（法人でない）	0 事業所	—

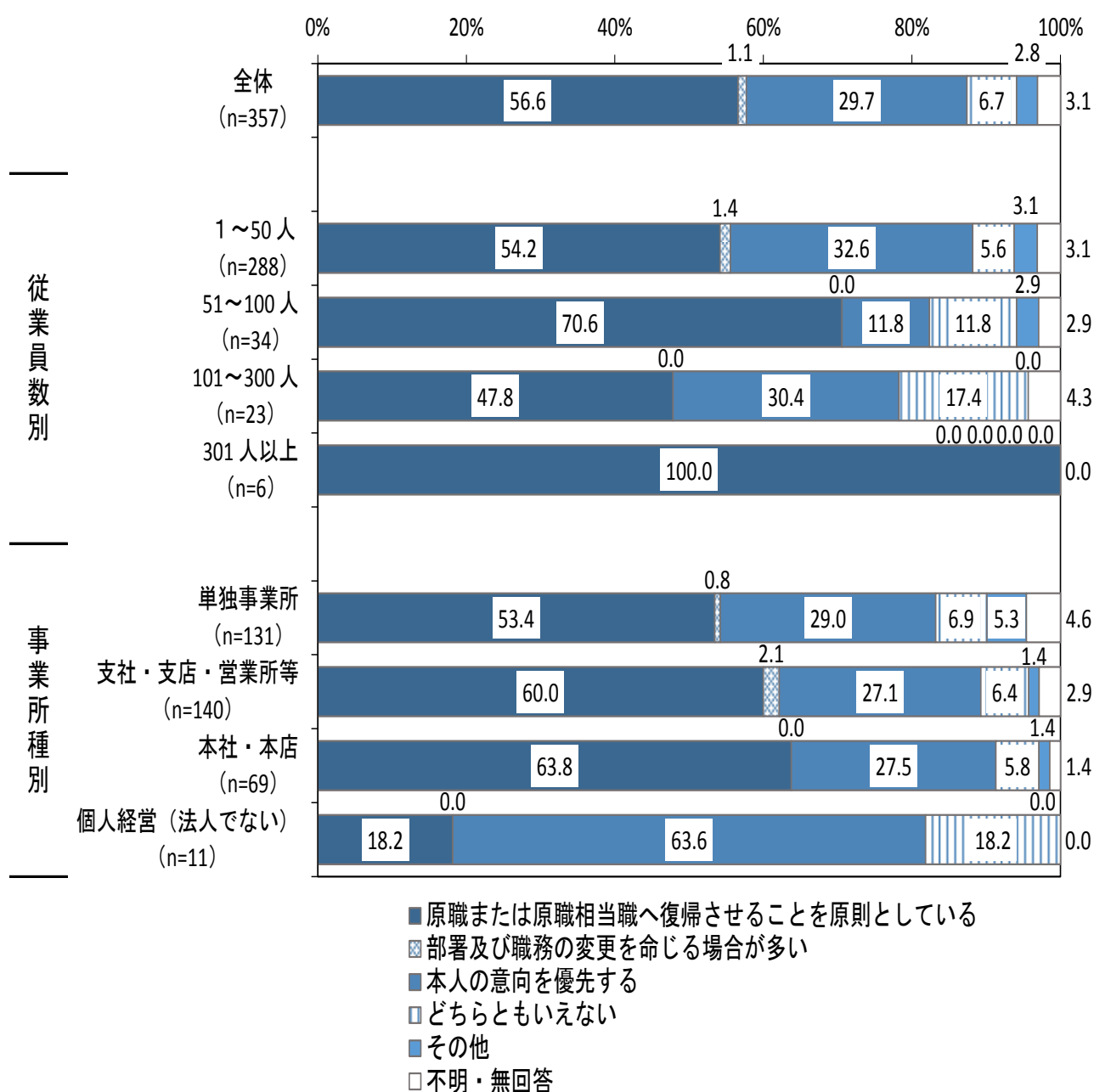
(4) 育児・介護休業取得者の復職後の配置状況

問 4	貴事業所において、育児・介護休業取得者の復職後の配置状況はどうなっていますか。(〇は1つ)
-----	---

育児・介護休業取得者の復職後の配置状況については、「原職または原職相当職へ復帰させることを原則としている」が56.6%で最も高く、次いで「本人の意向を優先する」が29.7%、「どちらともいえない」が6.7%と続いています。

事業所種別でみると、「原職または原職相当職へ復帰させることを原則としている」では、本社・本店が63.8%で最も高くなっています。

図表 4-1-23 育児・介護休業取得者の復職後の配置状況

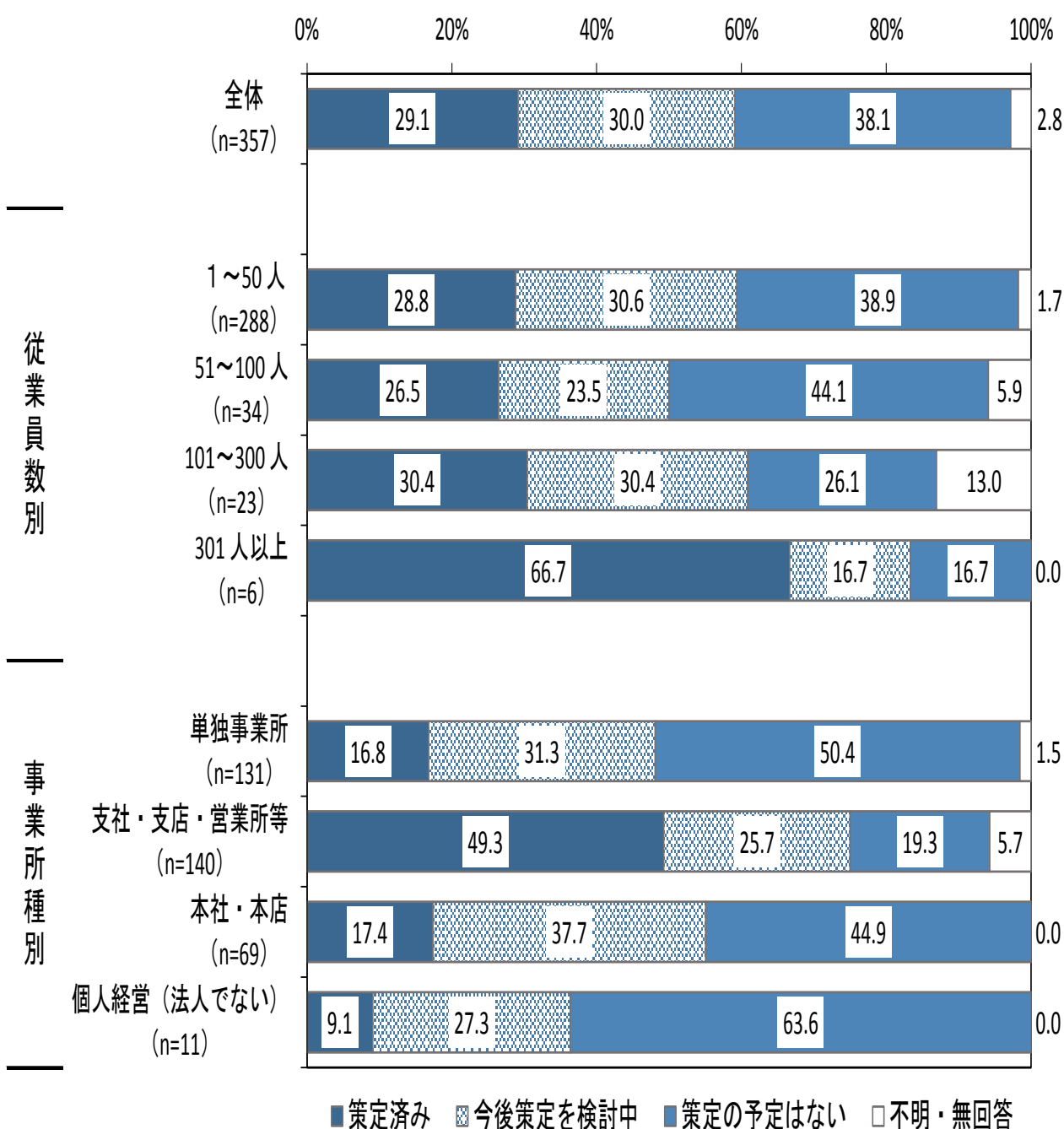


② 女性活躍推進法における一般事業主行動計画

女性活躍推進法における一般事業主行動計画の策定状況については、「策定の予定はない」が38.1%で最も高く、次いで「今後策定を検討中」が30.0%、「策定済み」が29.1%と続いています。

従業員数別でみると、「策定済み」では、101～300人が30.4%、301人以上が66.7%となっています。

図表 4-1-27 女性活躍推進法における一般事業主行動計画の策定状況



(7) 女性従業員の育児休業取得について

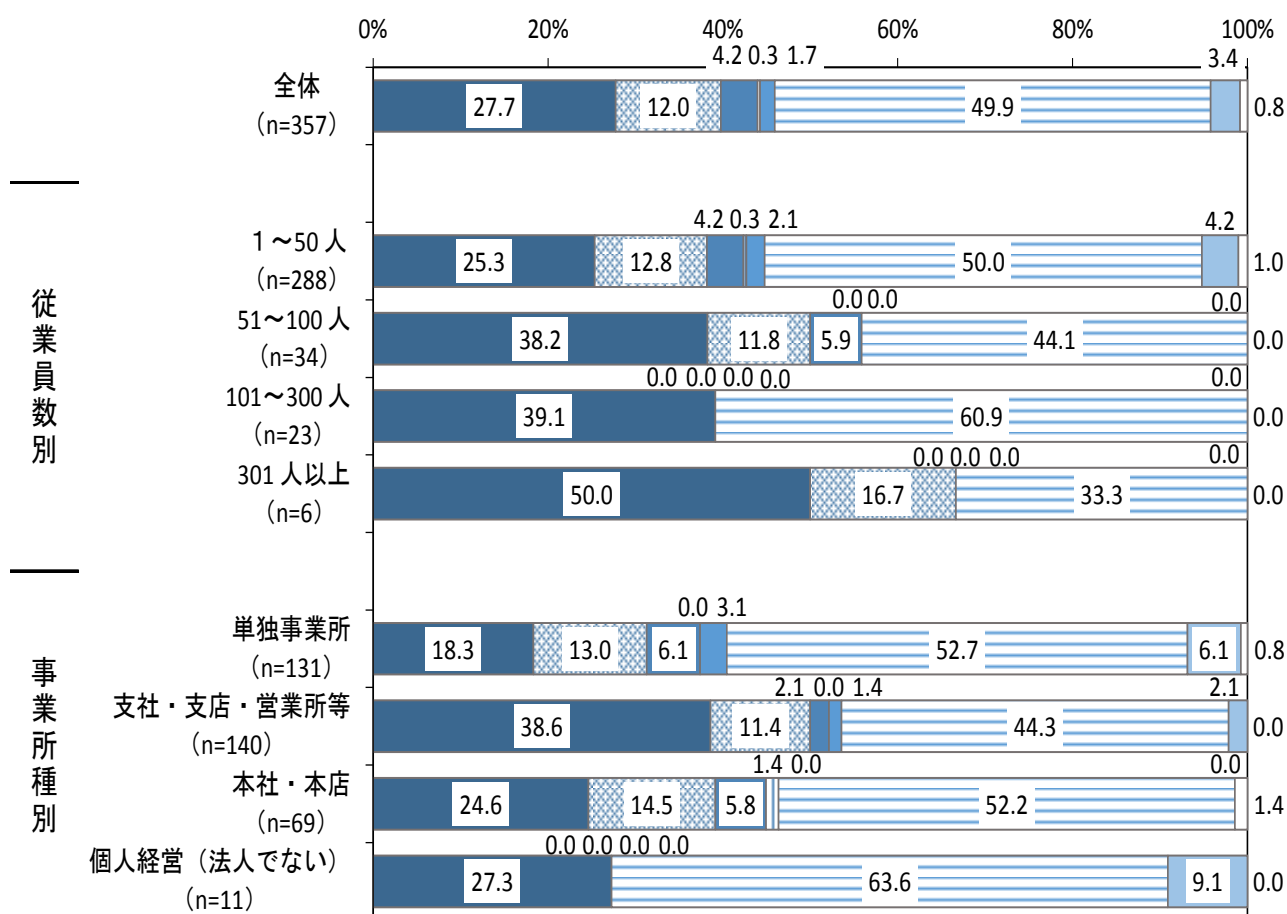
問 6	事業所では、女性従業員の育児休業取得に対して、どのようにお考えですか。 (〇は1つ)
-----	---

女性従業員の育児休業取得に対する考えについては、「本人の意向を優先したい」が49.9%で最も高く、次いで「長期の育児休業を取得し、子育てが落ち着いてから職場復帰してほしい」が27.7%、「できる限り育児休業期間を短くして早めに職場復帰し、短時間勤務等、両立支援制度を利用しながら働いてほしい」が12.0%と続いています。

従業員数別にみると、「長期の育児休業を取得し、子育てが落ち着いてから職場復帰してほしい」では、従業員数が多くなるに従い、割合が高くなっています。

事業所種別でみると、「長期の育児休業を取得し、子育てが落ち着いてから職場復帰してほしい」では、支社・支店・営業所等が38.6%で最も高くなっています。

図表 4-1-28 女性従業員の育児休業取得について



- 長期の育児休業を取得し、子育てが落ち着いてから職場復帰してほしい
- ▣ できる限り育児休業期間を短くして早めに職場復帰し、短時間勤務等、両立支援制度を利用しながら働いてほしい
- 短期の育児休業を取得した後、休業前と同様に働いてほしい
- ▣ 産前・産後休業のみを取得し、育児休業は取得せず両立支援制度を利用しながら働いてほしい
- 育児の期間は一旦退職し、再雇用制度等を利用し時機をみて復帰してほしい
- ▣ 本人の意向を優先したい
- その他
- 不明・無回答

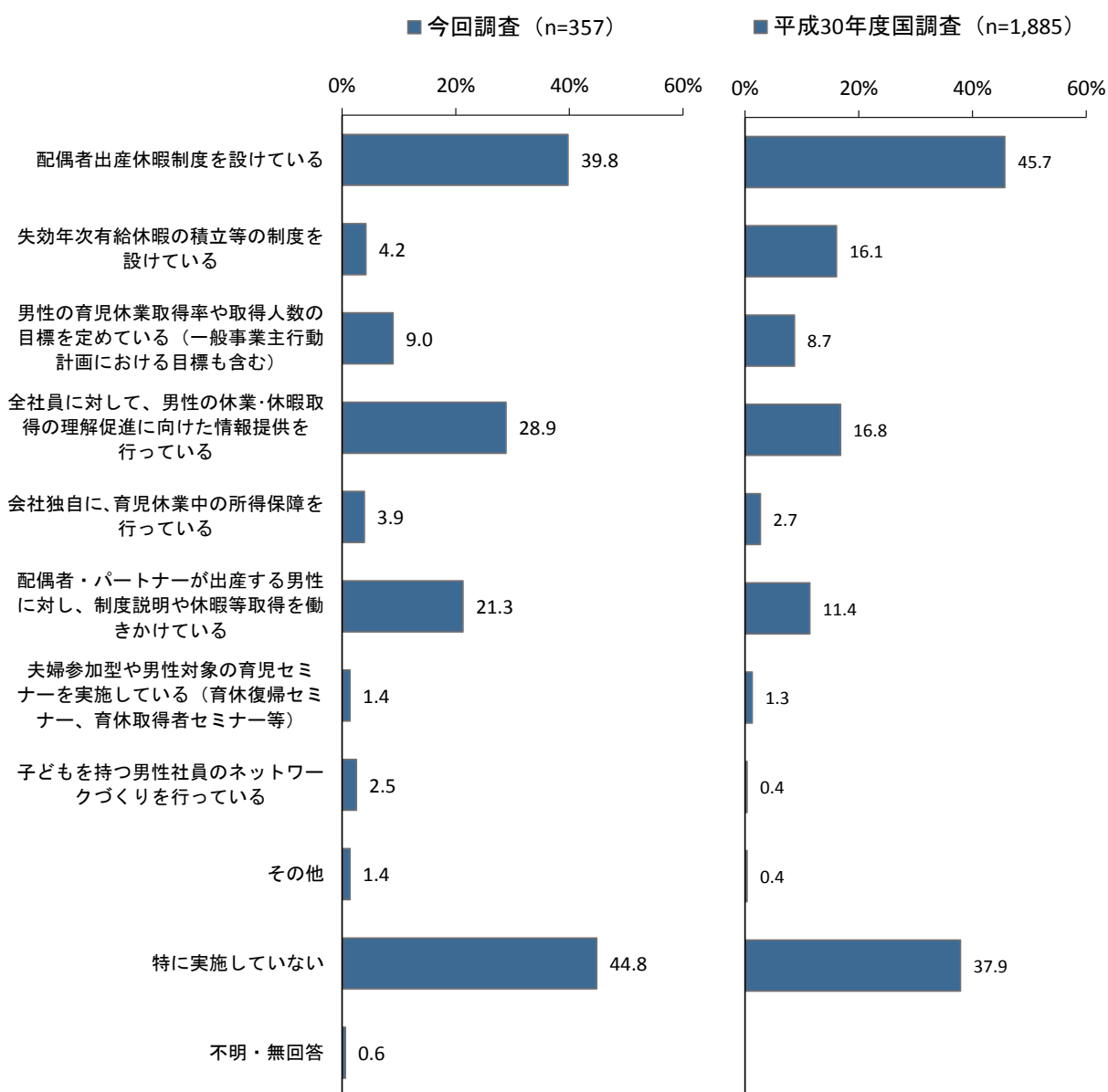
(8) 男性の育児参加促進のための取組について

問 6-1	貴事業所では、男性正社員の育児休業や配偶者が出産した際の休暇等の取得促進、もしくは男性の育児参加促進を目的として、以下のような取組を行っていますか。（〇はいくつでも）
-------	---

男性の育児参加促進のための取組については、「特に実施していない」が 44.8%で最も高く、次いで「配偶者出産休暇制度を設けている」が 39.8%、「全社員に対して、男性の休業・休暇取得の理解促進に向けた情報提供を行っている」が 28.9%と続いています。

国調査と比較すると、「特に実施していない」では、国調査より 6.9 ポイント高くなっています。

図表 4-1-29 男性の育児参加促進のための取組について



事業所種別でみると、「配偶者出産休暇制度を設けている」では、支社・支店・営業所等が 56.4%で最も高く、「特に実施していない」では、個人経営（法人でない）が 63.6%で最も高くなっています。

図表 4-1-30 男性の育児参加促進のための取組について 従業員数別・事業所種別

単位：実数（事業所）、構成比（%）

		合計	配偶者出産休暇制度を設けている	失効年次有給休暇の積立等の制度を設けている	男性の育児休業取得率（一般事業主数）	全社員の理解促進、男性の休業情報・提供	会社独自の育児休業中の所得保障	性差別撤廃、パート・アルバイトが休職等取得	配偶者・パート・アルバイトが休職等取得	夫婦参加型や男性対象の育児セミナー、実施取得者への育児復職セミナー等	子どもを育てる男性社員のためのネット	その他	特に実施していない	不明・無回答
全体		357	39.8	4.2	9.0	28.9	3.9	21.3	1.4	2.5	1.4	44.8	0.6	
従業員数別	1～50 人	288	40.3	3.5	7.6	28.5	3.8	23.6	0.7	2.8	1.7	45.8	0.3	
	51～100 人	34	41.2	8.8	17.6	32.4	5.9	8.8	8.8	0.0	0.0	41.2	0.0	
	101～300 人	23	43.5	8.7	13.0	39.1	0.0	17.4	0.0	4.3	0.0	26.1	0.0	
	301 人以上	6	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	
事業所種別	単独事業所	131	32.8	3.8	2.3	22.9	2.3	18.3	0.8	1.5	3.1	48.9	0.8	
	支社・支店・営業所等	140	56.4	6.4	17.9	40.0	5.7	30.0	2.1	4.3	0.0	28.6	0.7	
	本社・本店	69	27.5	1.4	5.8	21.7	2.9	11.6	1.4	0.0	1.4	62.3	0.0	
	個人経営（法人でない）	11	9.1	0.0	0.0	18.2	9.1	18.2	0.0	9.1	0.0	63.6	0.0	

※網掛け■は最も割合が高いもの

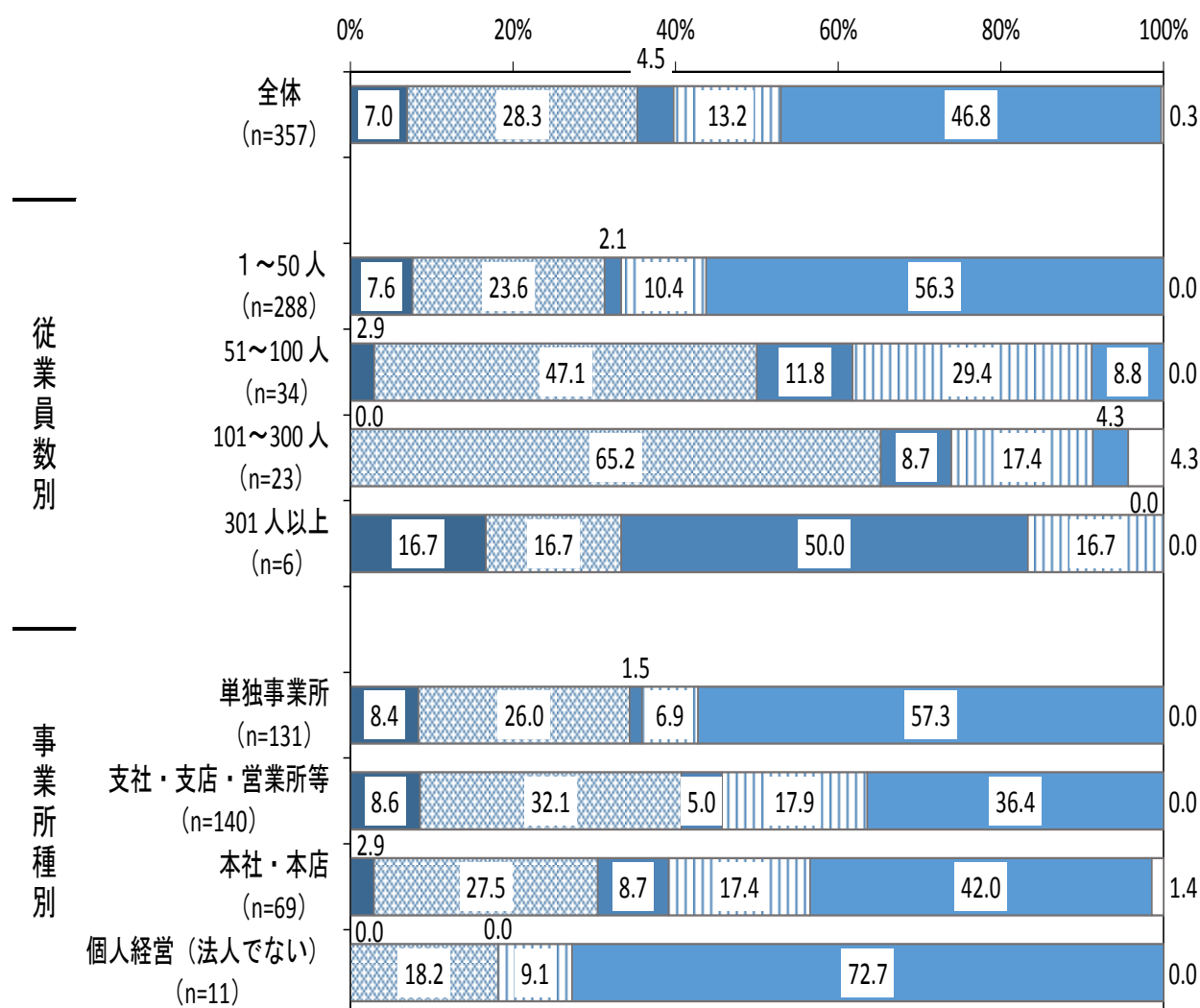
(9) 介護問題を抱える従業員の把握状況

問 7	貴事業所では、介護問題を抱える従業員の把握状況はいかがですか。(〇は1つ)
-----	---------------------------------------

介護問題を抱える従業員の把握状況については、「介護を行っている従業員が存在しない」が46.8%で最も高く、次いで「介護問題を抱える各従業員の状況にある程度把握している」が28.3%、「介護問題を抱える従業員の存在を把握できていない」が13.2%と続いています。

事業所種別でみると、「介護問題を抱える各従業員の詳細状況を把握している」では、支社・支店・営業所等が8.6%で最も高くなっています。

図表 4-1-31 介護問題を抱える従業員の把握状況



- 介護問題を抱える各従業員の詳細状況を把握している
- 介護問題を抱える各従業員の状況にある程度把握している
- 介護問題や介護休暇等の両立支援制度利用者に関しては把握しているが、制度利用者以外は把握できていない
- 介護問題を抱える従業員の存在を把握できていない
- 介護を行っている従業員が存在しない
- 不明・無回答

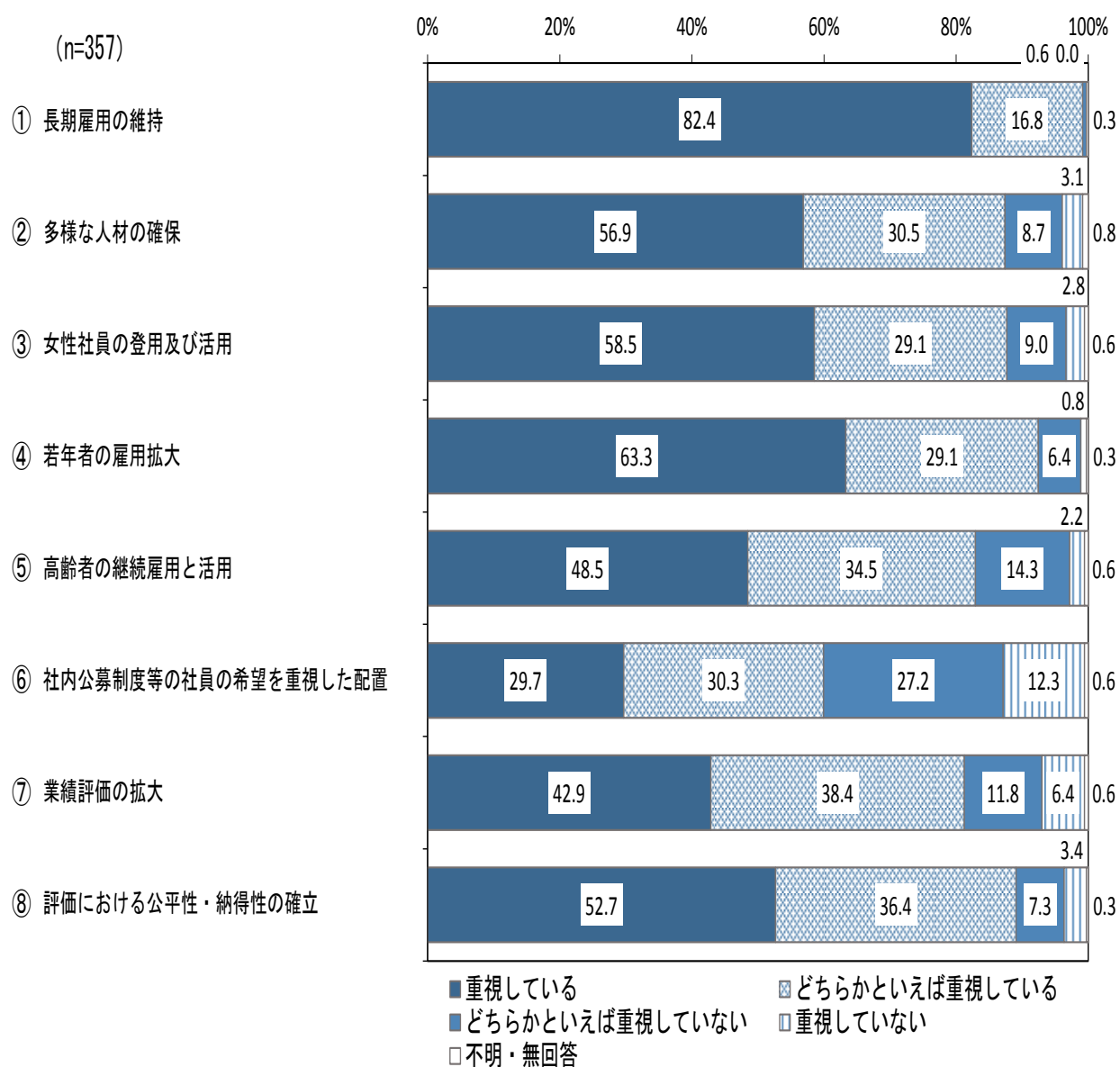
2. 両立支援について

(1) 人事の方針で重視していること

問 8	貴事業所における人事の方針についてお伺いします。以下の事項についてどの程度重視されていますか。（各項目に○は1つ）
-----	---

人事の方針で重視していることについて、「重視している」では、「① 長期雇用の維持」が 82.4%で最も高く、次いで「④ 若年者の雇用拡大」が 63.6%、「③ 女性社員の登用及び活用」が 58.5%と続いています。

図表 4-2-1 人事の方針

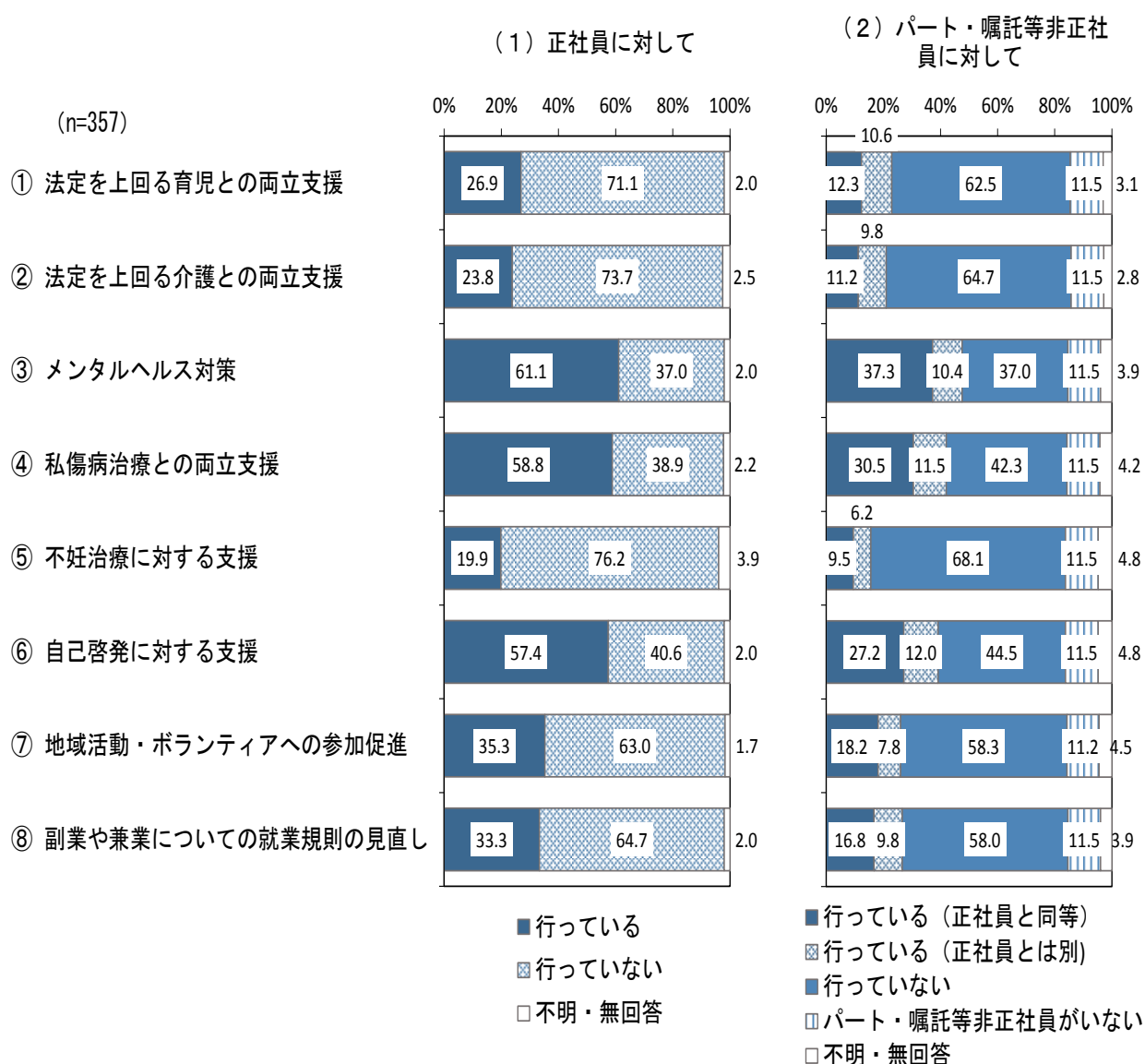


(2) 従業員に対する支援や取組

問 9	貴事業所では以下の①～⑧について、何らかの支援や取組を行っていますか。 (1) 正社員、(2) パート・嘱託等非正社員の別にそれぞれお答えください。 ((1)、(2) について、①～⑧それぞれ、〇は1つ)
-----	--

従業員に対する支援や取組について、正社員でみると、「行っている」では、「③ メンタルヘルス対策」が61.1%で最も高く、次いで「④ 私傷病治療との両立支援」が58.8%、「⑥ 自己啓発に対する支援」が57.4%と続いており、パート・嘱託等非正社員でみると、『行っている』（「行っている（正社員と同等）」と「行っている（正社員とは別）」の合計）では、「③ メンタルヘルス対策」が47.7%で最も高く、次いで「④ 私傷病治療との両立支援」が42.0%、「⑥ 自己啓発に対する支援」が39.2%と続いています。

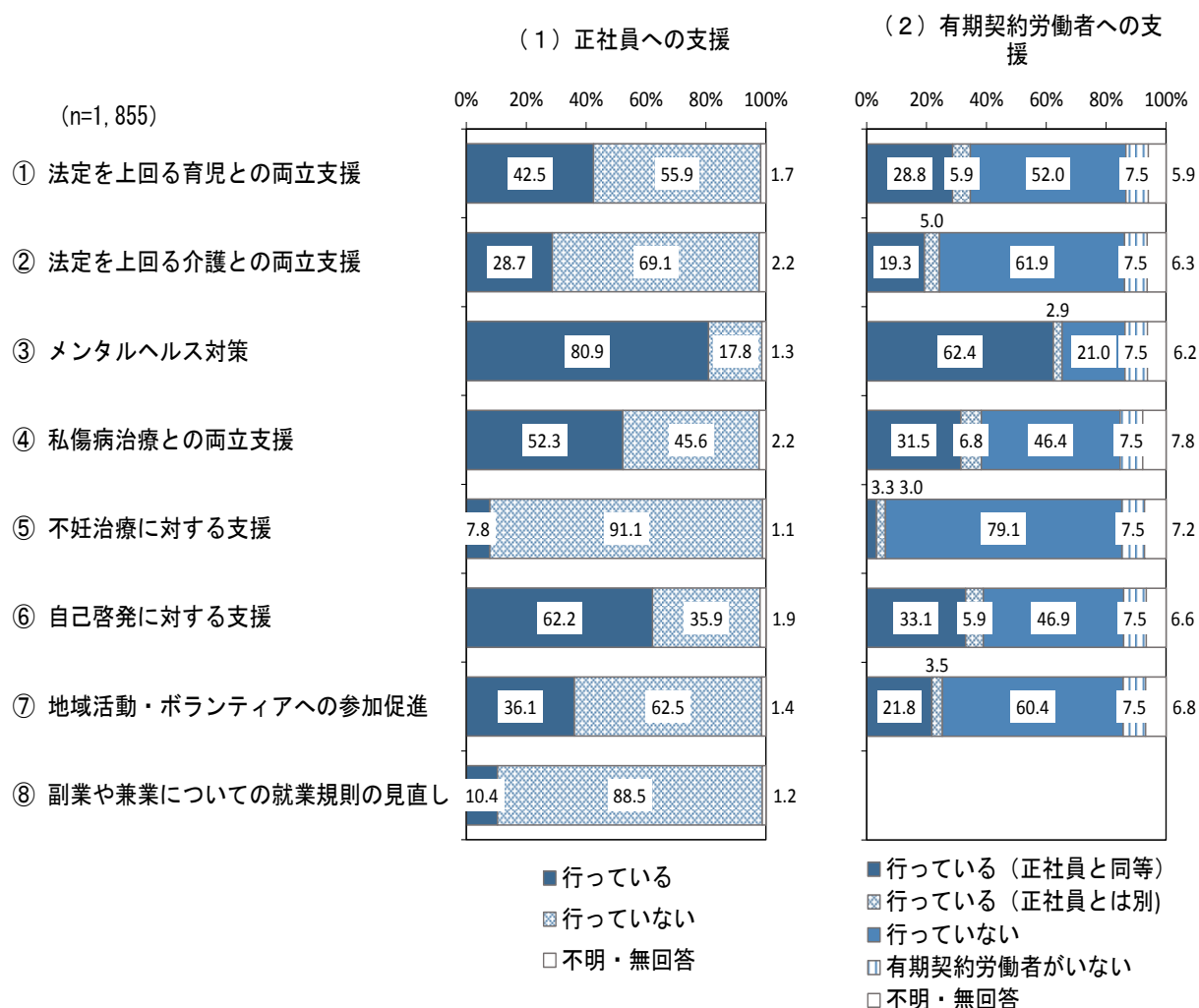
図表 4-2-10 従業員に対する支援や取組



国調査と比較すると、正社員の「行っている」では、「⑧ 副業や兼業についての就業規則の見直し」が国調査より 22.9 ポイント高く、最も差が大きい項目となっており、次いで差が大きい項目として、「③ メンタルヘルス対策」が国調査より 19.8 ポイント低くなっています。

パート・嘱託等非正社員（国調査は「有期契約労働者」）でみると、『行っている』では、「③ メンタルヘルス対策」が国調査より 17.6 ポイント低く、最も差が大きい項目となっており、次いで差が大きい項目として、「① 法定を上回る育児との両立支援」が国調査より 11.8 ポイント低くなっています。

図表 4-2-11 従業員に対する支援や取組 平成 30 年度国調査



平成 30 年度国調査：企業等における仕事と生活の調和に関する調査研究報告書（平成 31 年 3 月）

(3) 仕事と育児や介護の両立支援制度の利用を促進しようとする場合の課題

問 10	仕事と育児や介護の両立支援制度の利用を促進しようとする場合、どのような課題があると思いますか。(〇はいくつでも)
------	--

仕事と育児や介護の両立支援制度の利用を促進しようとする場合の課題については、「育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい」が 51.5%で最も高く、次いで「休業することによって収入などの面で不安があるため、従業員が利用を望まない」が 27.7%、「全体的に休暇取得率が低い」が 24.6%と続いています。

従業員数別でみると、「育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい」では、従業員数が増加するにつれて、割合が高くなっています。

図表 4-2-21 仕事と育児や介護の両立支援制度の利用を促進しようとする場合の課題

従業員数別・事業所種別

単位：実数（事業所）、構成比（%）

	合計	日常的に労働時間が長い部門・事業所がある	全体的に休暇取得率が低い	育児休業や介護休業が取りづら い雰囲気がある	育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい	業務の効率や質が落ちる	育児・介護支援などに 関する認識が不足している	両立支援制度の導入に伴い、コストが増大する	情報やノウハウ不足により制度の運用が難しい	両立支援の効果 が、企業として把握しにくい	公共的サービスが不足している
全体	357	23.0	24.6	12.0	51.5	19.6	6.2	12.3	9.0	6.4	24.4
従業員数別	1～50 人	288	19.4	27.1	10.8	49.0	19.1	5.9	11.8	5.9	26.0
	51～100 人	34	38.2	14.7	20.6	58.8	23.5	11.8	17.6	2.9	17.6
	101～300 人	23	30.4	8.7	17.4	60.9	17.4	0.0	13.0	8.7	17.4
	301 人以上	6	66.7	16.7	0.0	66.7	33.3	16.7	0.0	0.0	33.3
事業所種別	単独事業所	131	16.8	22.9	8.4	51.9	25.2	3.8	12.2	9.9	22.9
	支社・支店・営業所等	140	27.9	27.9	12.9	47.9	15.0	6.4	10.7	7.1	26.4
	本社・本店	69	27.5	18.8	15.9	56.5	17.4	10.1	17.4	8.7	24.6
	個人経営（法人でない）	11	9.1	27.3	9.1	45.5	18.2	9.1	9.1	27.3	18.2

	合計	社に 参加し にくい 男性が 育児・ 介護	休業 すること による 収入 低下	その他	特に 課題は ない	不明・ 無回答
全体	357	19.6	27.7	1.7	9.8	0.8
従業員数別	1～50 人	288	16.3	29.5	1.7	11.5
	51～100 人	34	35.3	29.4	0.0	2.9
	101～300 人	23	26.1	17.4	4.3	0.0
	301 人以上	6	33.3	0.0	0.0	0.0
事業所種別	単独事業所	131	15.3	22.9	3.1	12.2
	支社・支店・営業所等	140	22.1	32.9	1.4	7.1
	本社・本店	69	21.7	26.1	0.0	8.7
	個人経営（法人でない）	11	27.3	18.2	0.0	27.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

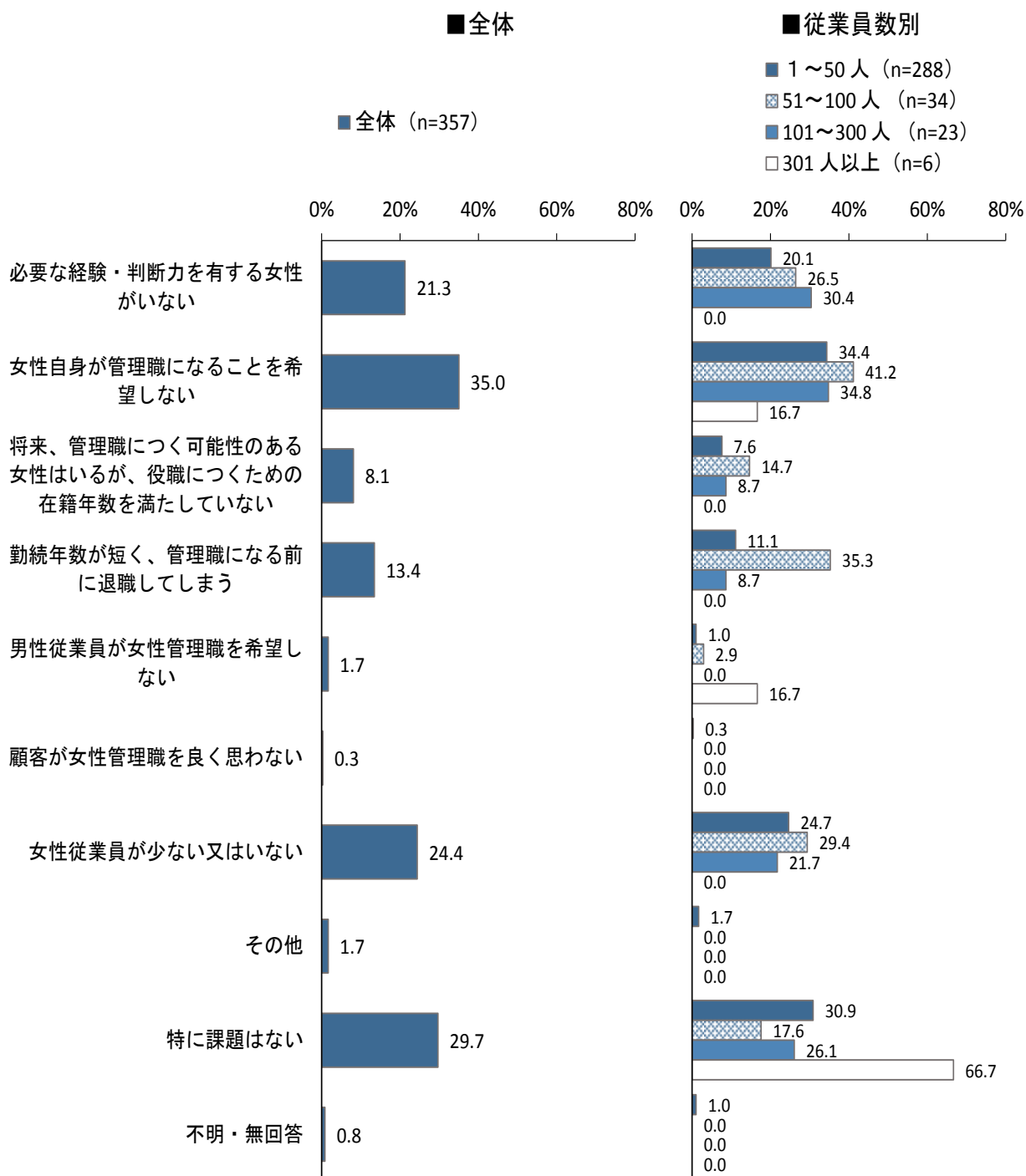
3. 女性の活躍推進について

(1) 女性の管理職登用を促進しようとする場合の課題

問 11	貴事業所で女性の管理職登用を促進しようとする場合、どのような課題がありますか。(〇はいくつでも)
------	--

女性の管理職登用を促進しようとする場合の課題については、「女性自身が管理職になることを希望しない」が35.0%で最も高く、次いで「特に課題はない」が29.7%、「女性従業員が少ない又はいない」が24.4%と続いています。

図表 4-3-1 女性の管理職登用を促進しようとする場合の課題

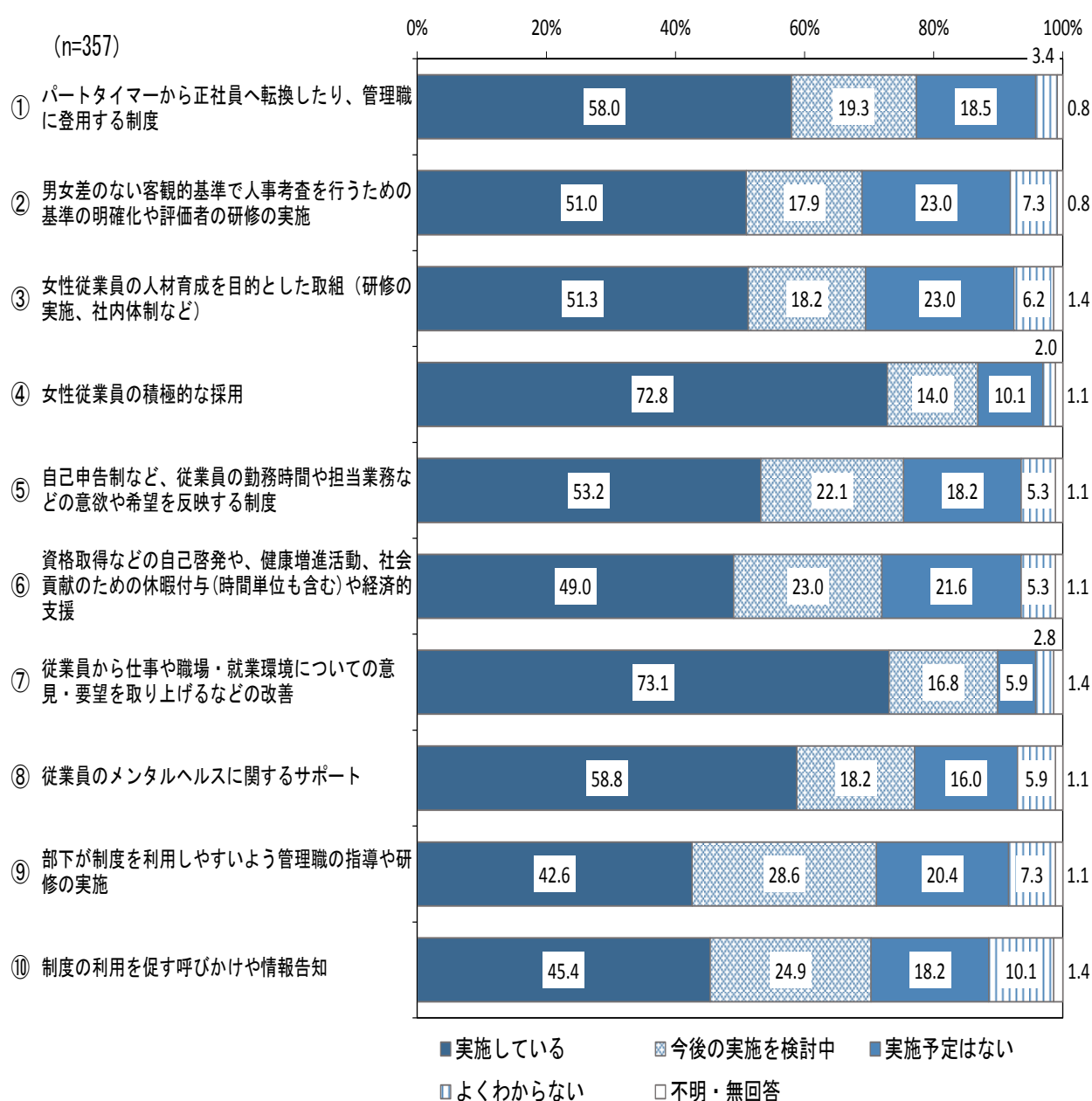


(2) 女性の活躍推進のための取組の実施状況

問 12	女性の活躍推進のために、貴事業所では次のような措置を実施していますか。 (各項目に○は1つ)
------	---

女性の活躍推進のための取組の実施状況について、「実施している」では、「⑦ 従業員から仕事や職場・就業環境についての意見・要望を取り上げるなどの改善」が73.1%で最も高く、次いで「④ 女性従業員の積極的な採用」が72.8%、「⑧ 従業員のメンタルヘルスに関するサポート」が58.8%と続いています。

図表 4-3-3 女性の活躍推進のための取組の実施状況



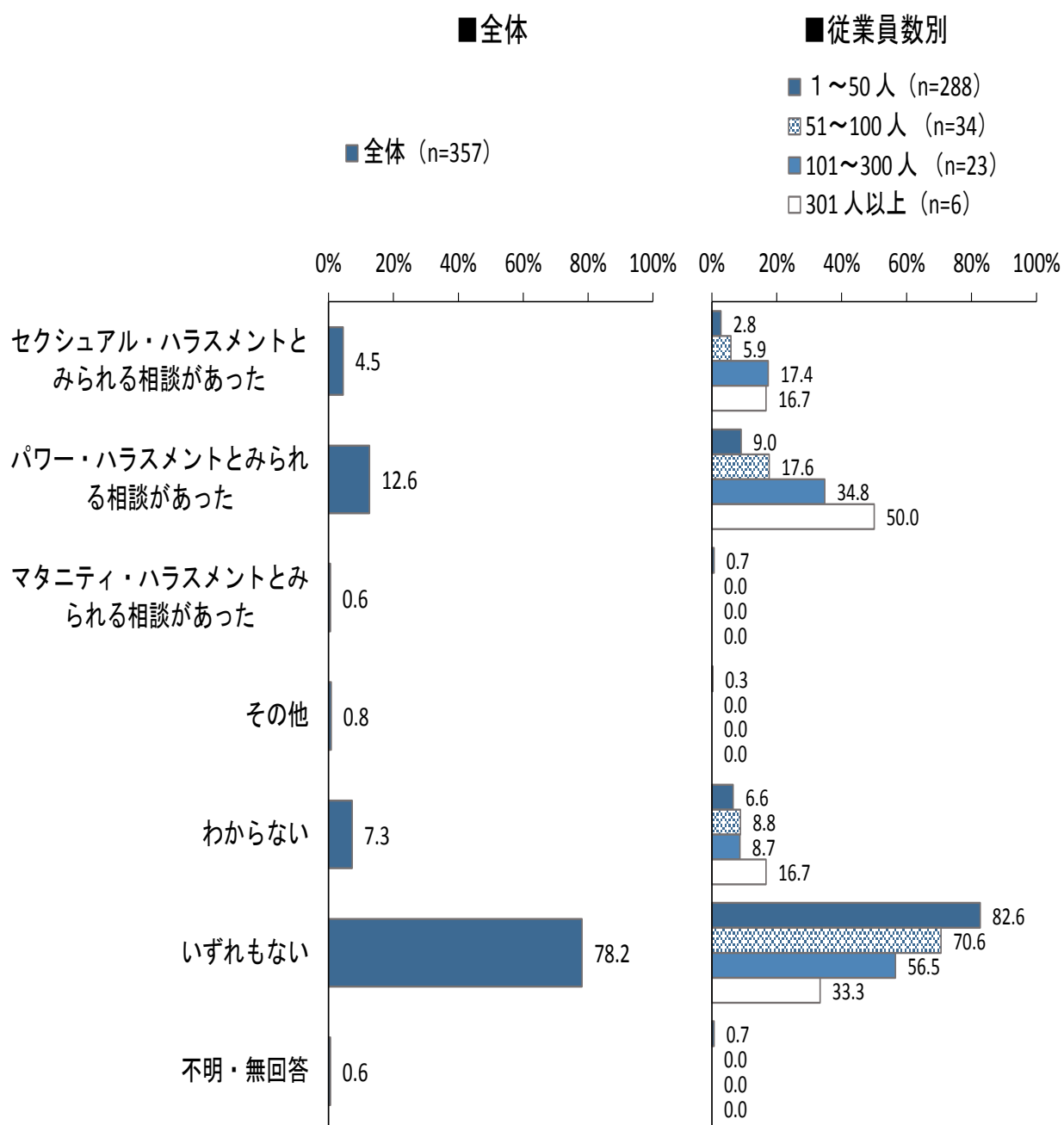
4. 職場環境について

(1) セクハラ・パワハラ・マタハラの相談事例

問 13	貴事業所では、この3年間にセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントや、マタニティ・ハラスメントなどの相談事例がありましたか。 (〇はいくつでも)
------	---

セクハラ・パワハラ・マタハラの相談事例については、「いずれもない」が78.2%で最も高く、次いで「パワー・ハラスメントとみられる相談があった」が12.6%、「わからない」が7.3%と続いています。

図表 4-4-1 セクハラ・パワハラ・マタハラの相談事例

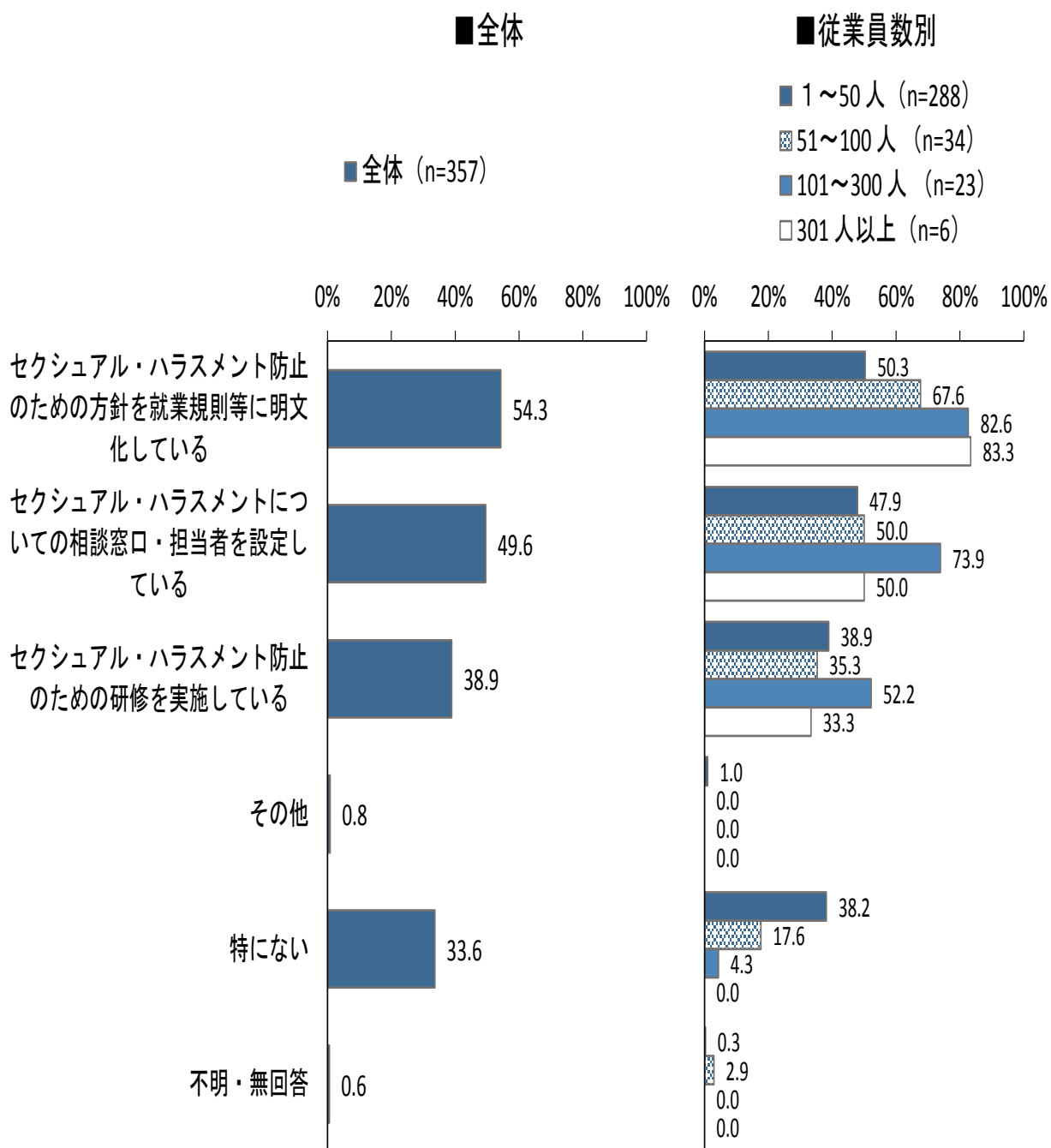


(2) セクシュアル・ハラスメントに対する取組

問 14	貴事業所では、セクシュアル・ハラスメントに対し、以下のような取組をしていますか。(〇はいくつでも)
------	---

セクシュアル・ハラスメントに対する取組については、「セクシュアル・ハラスメント防止のための方針を就業規則等に明文化している」が54.3%で最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメントについての相談窓口・担当者を設定している」が49.6%、「セクシュアル・ハラスメント防止のための研修を実施している」が38.9%と続いています。

図表 4-4-3 セクシュアル・ハラスメントに対する取組

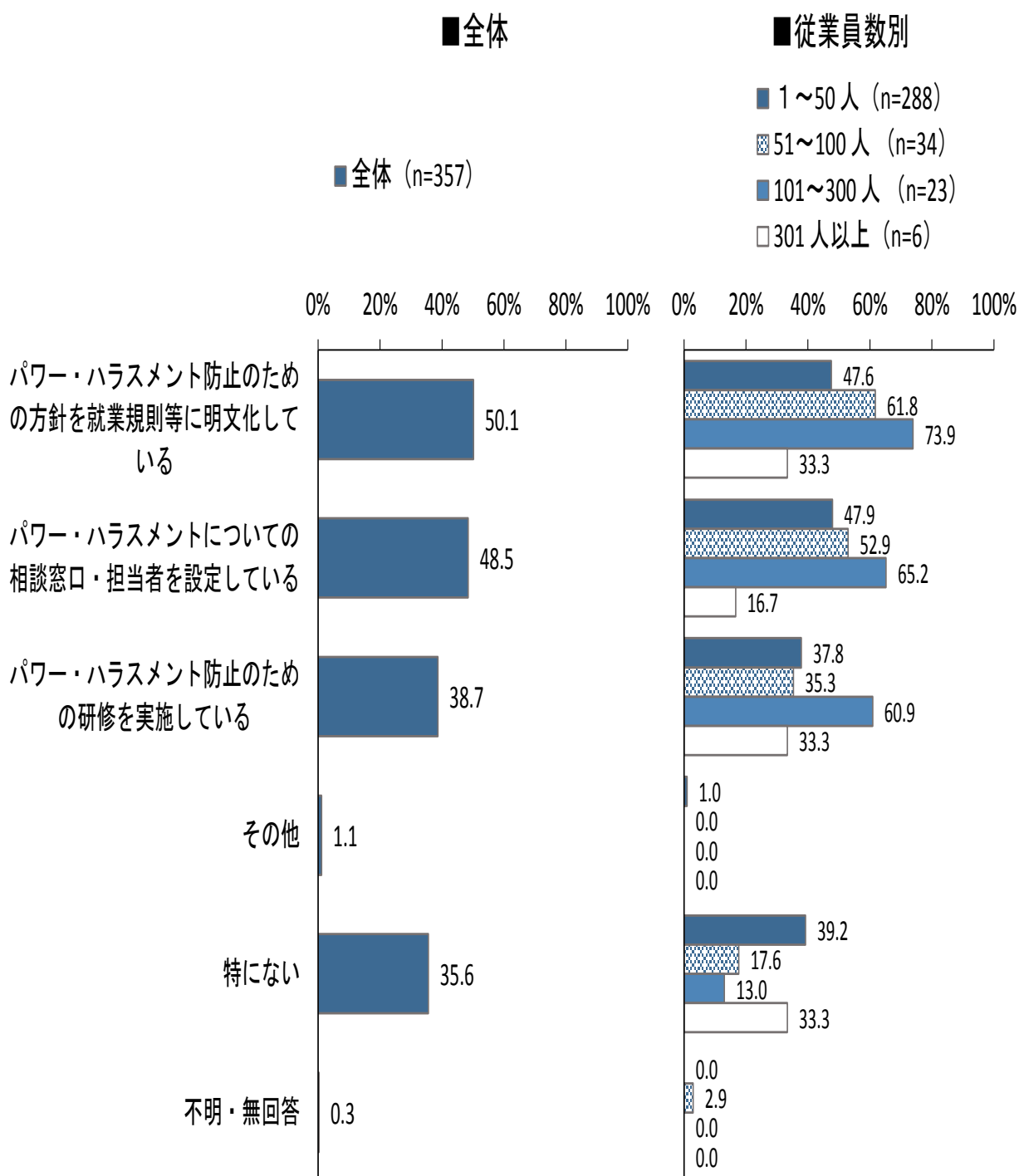


(3) パワー・ハラスメントに対する取組

問 15	貴事業所では、パワー・ハラスメントに対し、以下のような取組をしていますか。(〇はいくつでも)
------	--

パワー・ハラスメントに対する取組については、「パワー・ハラスメント防止のための方針を就業規則等に明文化している」が50.1%で最も高く、次いで「パワー・ハラスメントについての相談窓口・担当者を設定している」が48.5%、「パワー・ハラスメント防止のための研修を実施している」が38.7%と続いています。

図表 4-4-5 パワー・ハラスメントに対する取組

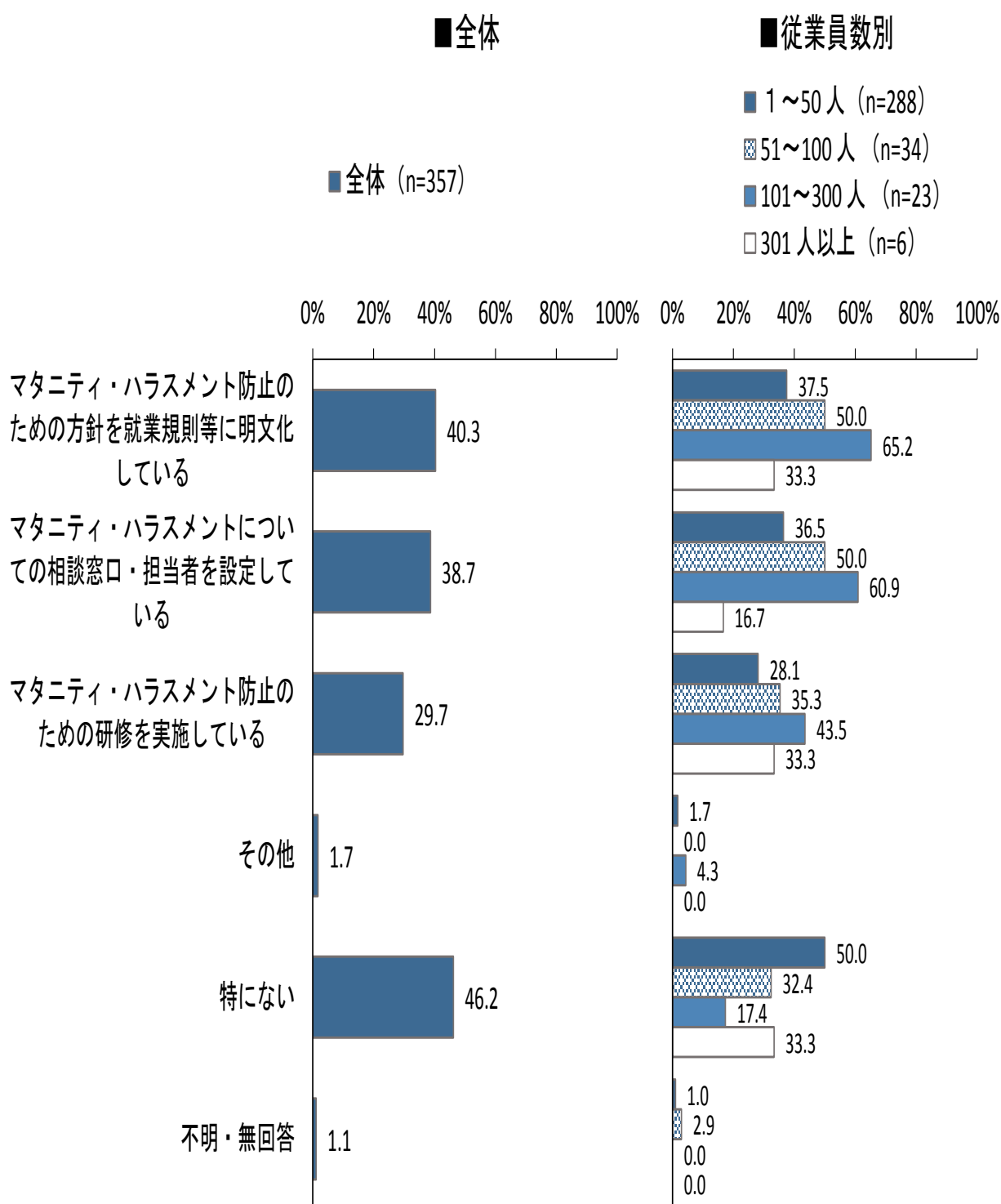


(4) マタニティ・ハラスメントに対する取組

問 16	貴事業所では、マタニティ・ハラスメントに対し、以下のような取組をしていますか。(〇はいくつでも)
------	--

マタニティ・ハラスメントに対する取組については、「特にない」が46.2%で最も高く、次いで「マタニティ・ハラスメント防止のための方針を就業規則等に明文化している」が40.3%、「マタニティ・ハラスメントについての相談窓口・担当者を設定している」が38.7%と続いています。

図表 4-4-7 マタニティ・ハラスメントに対する取組



V. 小学生から大学生への調査結果

1. 学校生活について

(1) 学校生活における性別による役割分担の意識

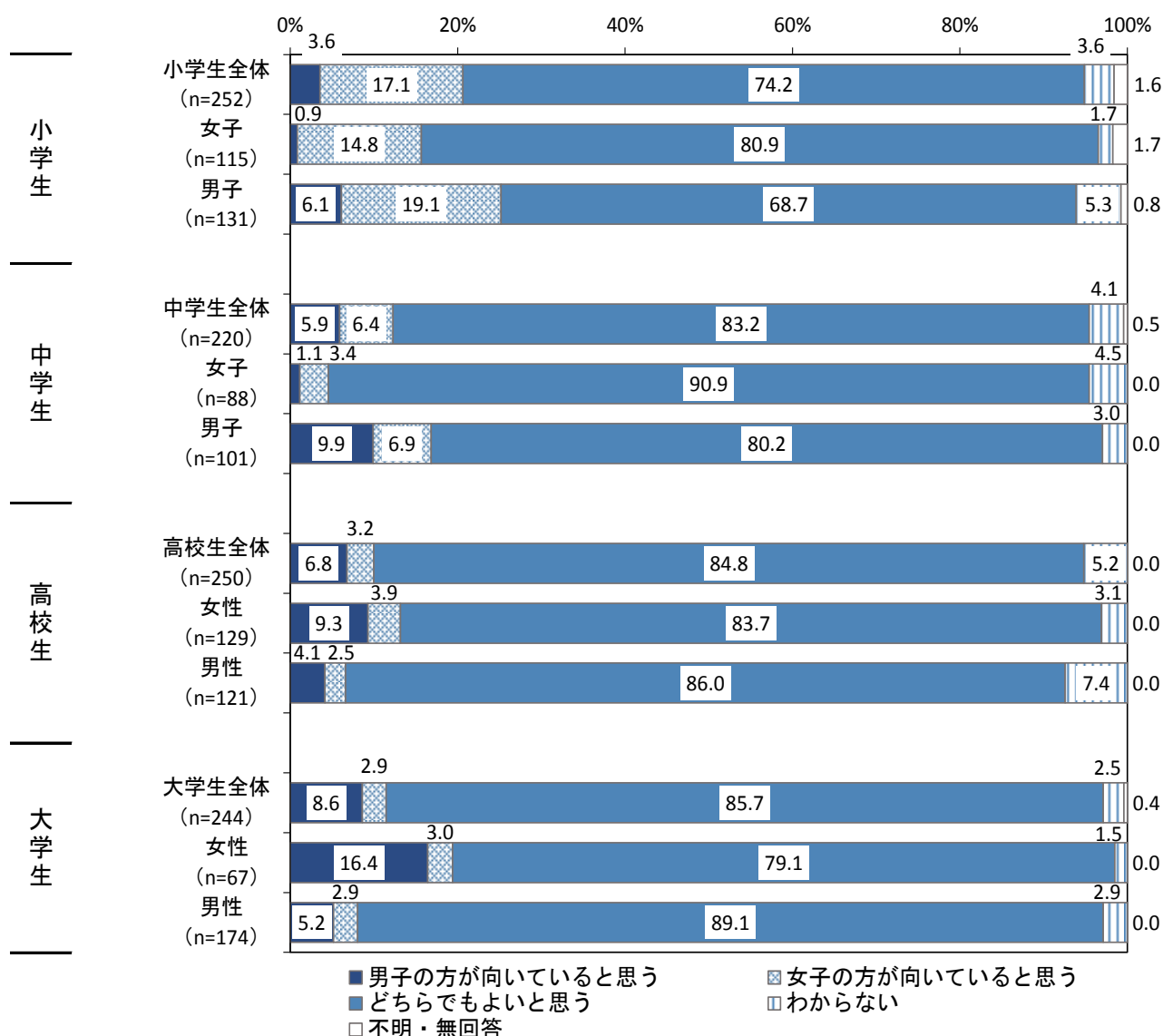
問	学校生活について、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。 ＜小学生 問5、中学生 問5、高校生 問5、大学生 問5＞
---	---

① 学級委員や生徒会役員になる

学校生活における性別による役割分担の意識について、「学級委員や生徒会役員になる」では、「どちらでもよいと思う」を年代別で見ると、年代が上がるにつれて割合が高くなっており、大学生が 85.7%で最も高く、年代別・性別で見ると、中学生・女子が 90.9%で最も高くなっています。

図表 5-2-1 学校生活における性別による役割分担の意識

①学級委員や生徒会役員になる

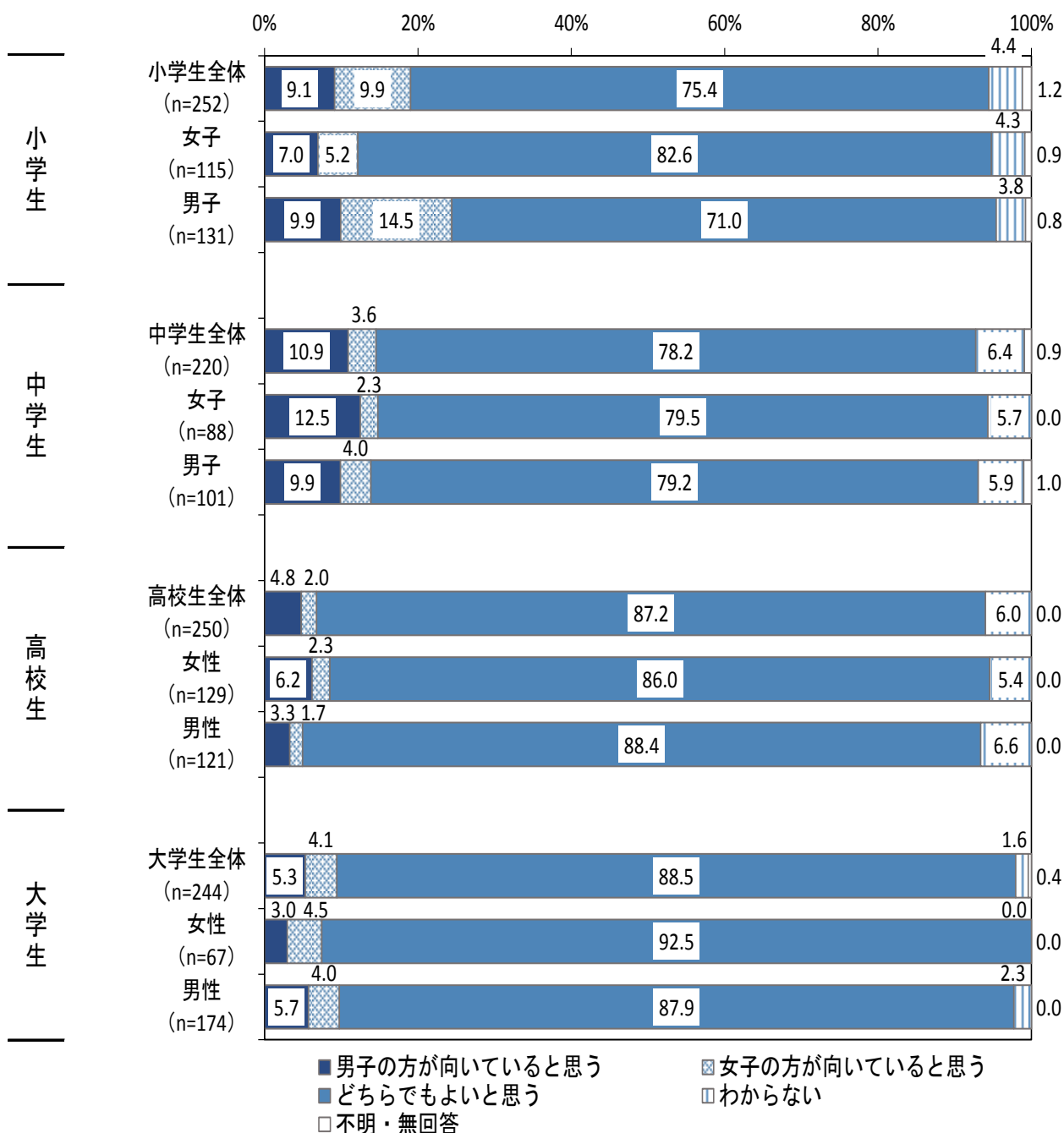


② 授業で手を挙げたり、話し合いで積極的に意見を言う

学校生活における性別による役割分担の意識について、「授業で手を挙げたり、話し合いで積極的に意見を言う」では、「どちらでもよいと思う」を年代別で見ると、年代が上がるにつれて割合が高くなっており、大学生が 88.5% で最も高く、年代別・性別で見ると、大学生・女性が 92.5% で最も高くなっています。

図表 5-2-2 学校生活における性別による役割分担の意識

②授業で手を挙げたり、話し合いで積極的に意見を言う

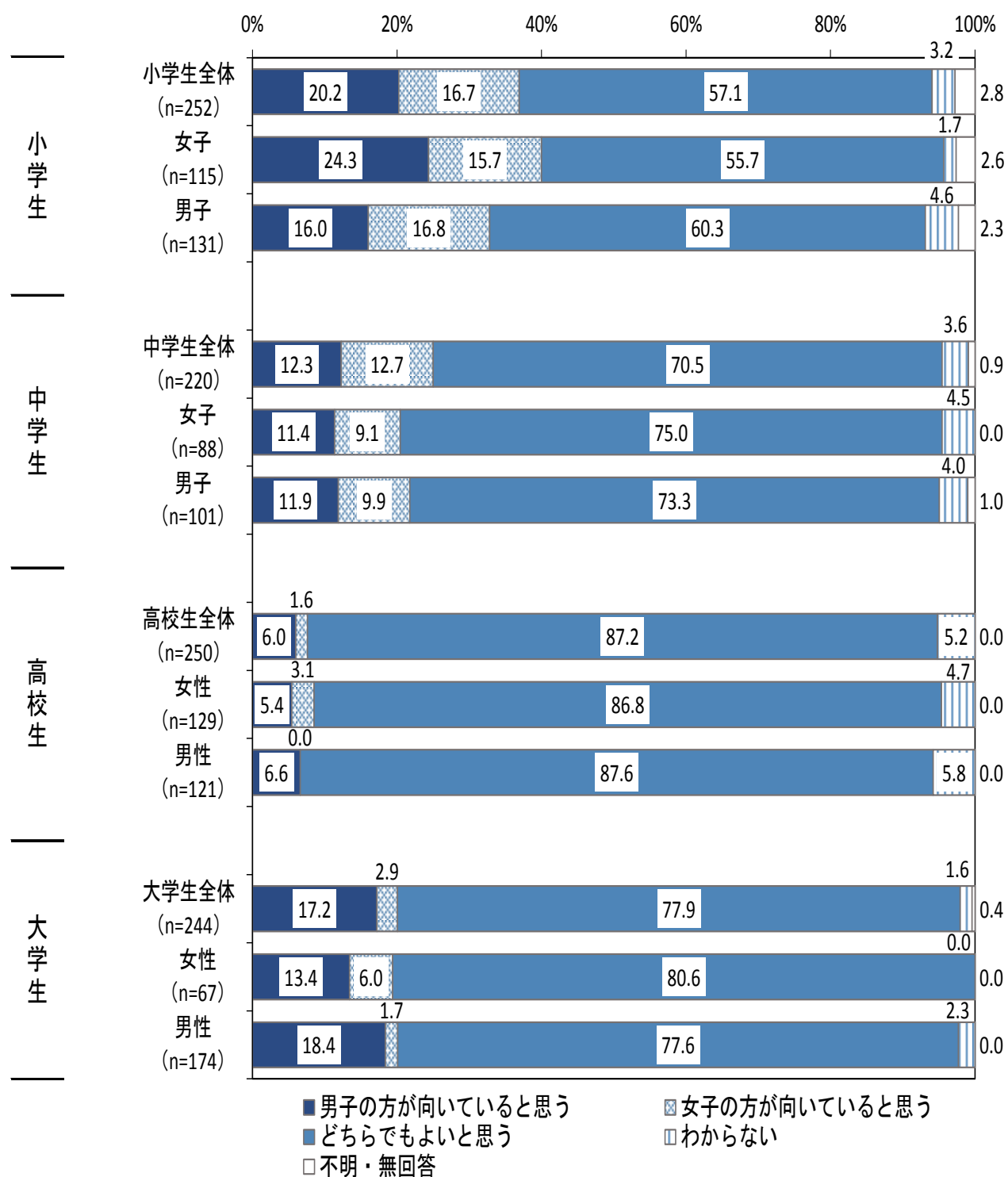


③ 理科のグループ実験でリーダーシップをとる

学校生活における性別による役割分担の意識について、「理科のグループ実験でリーダーシップをとる」では、「どちらでもよいと思う」を年代別で見ると、高校生が 87.2%で最も高く、年代別・性別で見ると、高校生・男性が 87.6%で最も高くなっています。

図表 5-2-3 学校生活における性別による役割分担の意識

③理科のグループ実験でリーダーシップをとる

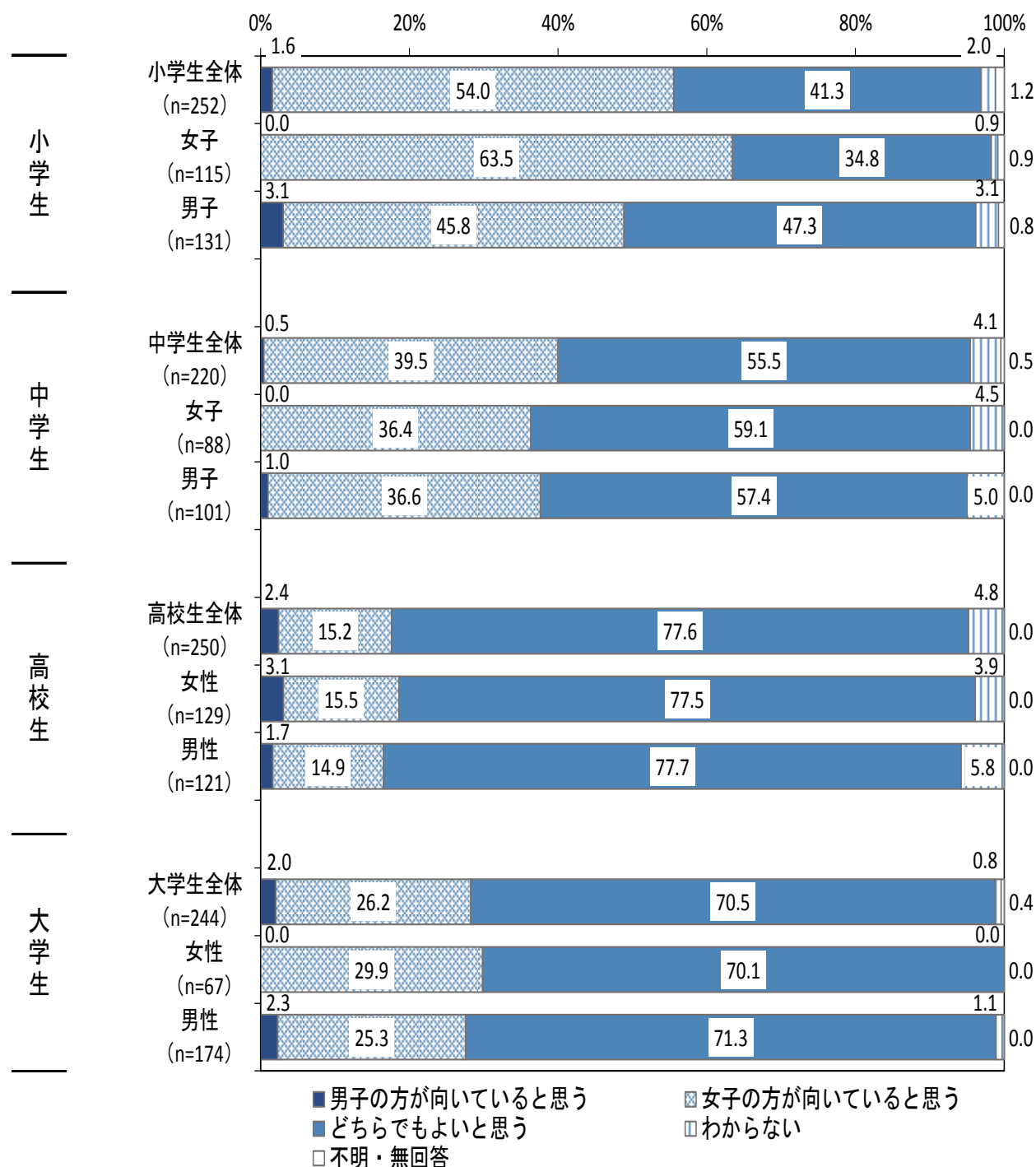


④ 調理実習でリーダーシップをとる

学校生活における性別による役割分担の意識について、「調理実習でリーダーシップをとる」では、「どちらでもよいと思う」を年代別で見ると、高校生が 77.6%で最も高く、年代別・性別で見ると、高校生・男性が 77.7%で最も高くなっています。

図表 5-2-4 学校生活における性別による役割分担の意識

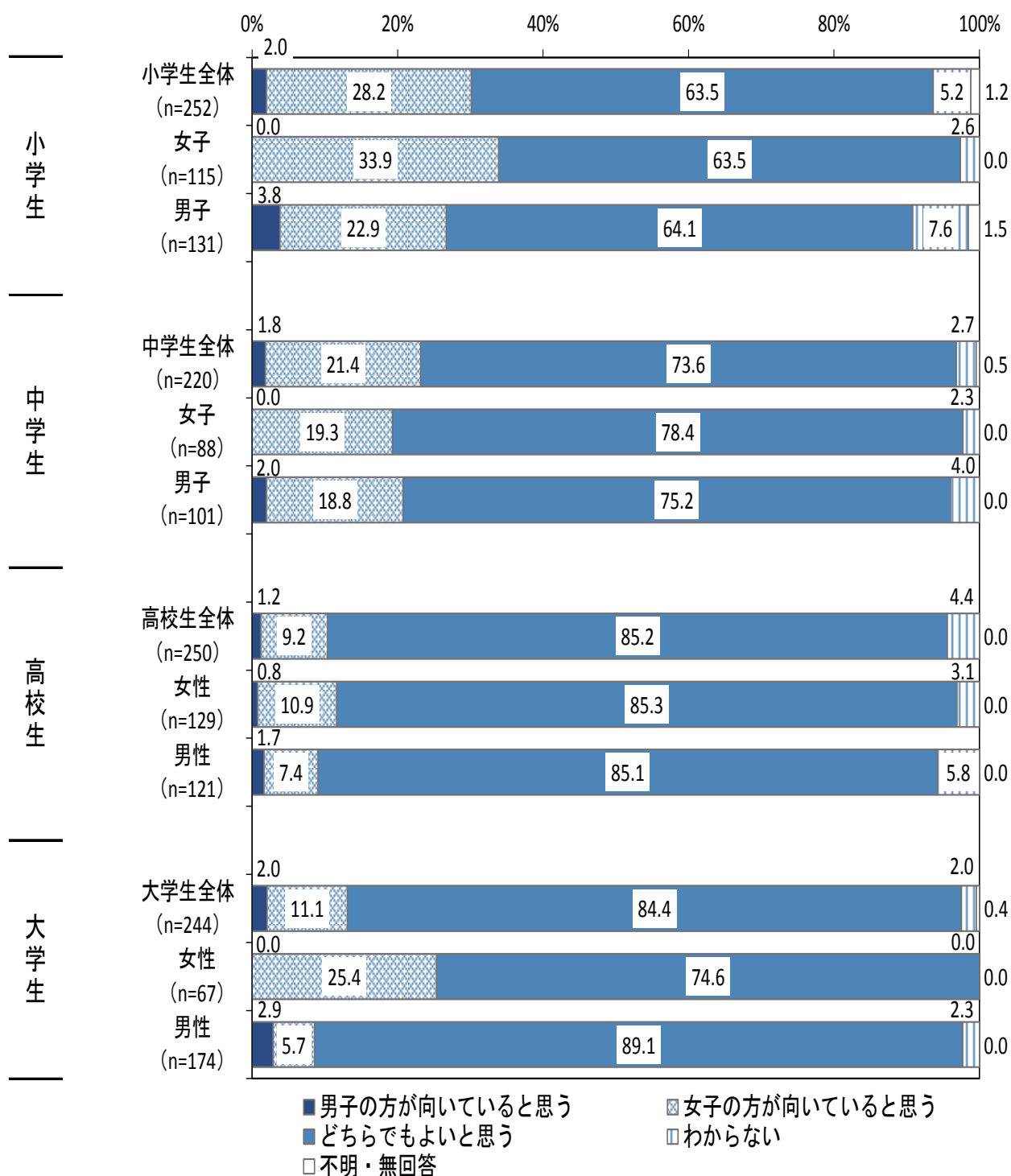
④調理実習でリーダーシップをとる



⑤ 教室の掃除や整理整とんする

学校生活における性別による役割分担の意識について、「教室の掃除や整理整とんする」では、「どちらでもよいと思う」を年代別で見ると、高校生が85.2%で最も高く、年代別・性別で見ると、大学生・男性が89.1%で最も高くなっています。

図表 5-2-5 学校生活における性別による役割分担の意識
⑤教室の掃除や整理整とんする



3. 家庭生活について

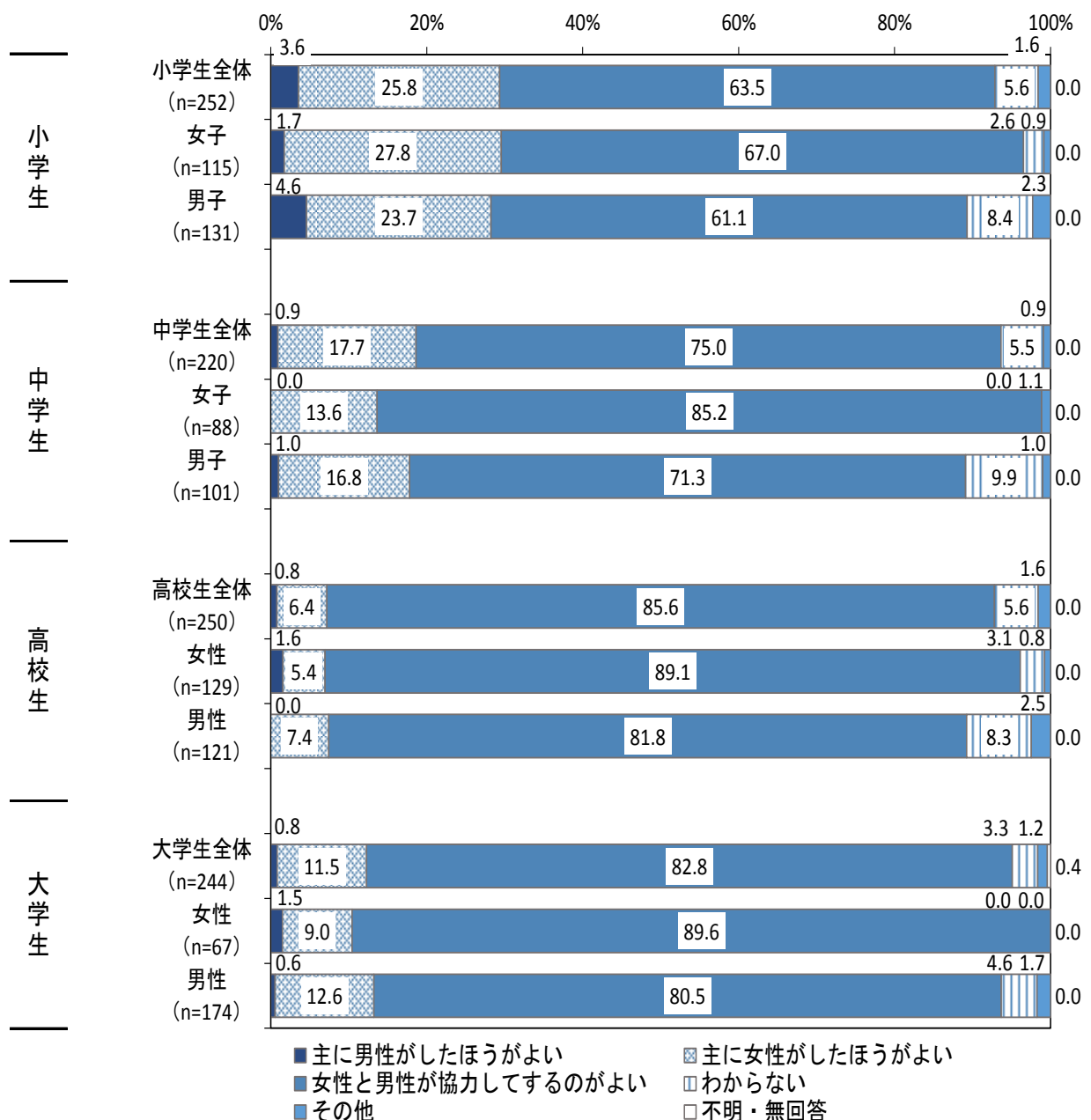
(2) 家庭生活における性別による役割分担の意識

問	あなたは、次のようなことを誰がするのが一番よいと思いますか。 ＜小学生 問7、中学生 問7、高校生 問7、大学生 問7＞
---	---

① 小さい子どもの世話

家庭生活における性別による役割分担の意識について、「小さい子どもの世話」では、「女性と男性が協力してするのがよい」を年代別で見ると、高校生が85.6%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が89.6%で最も高くなっています。

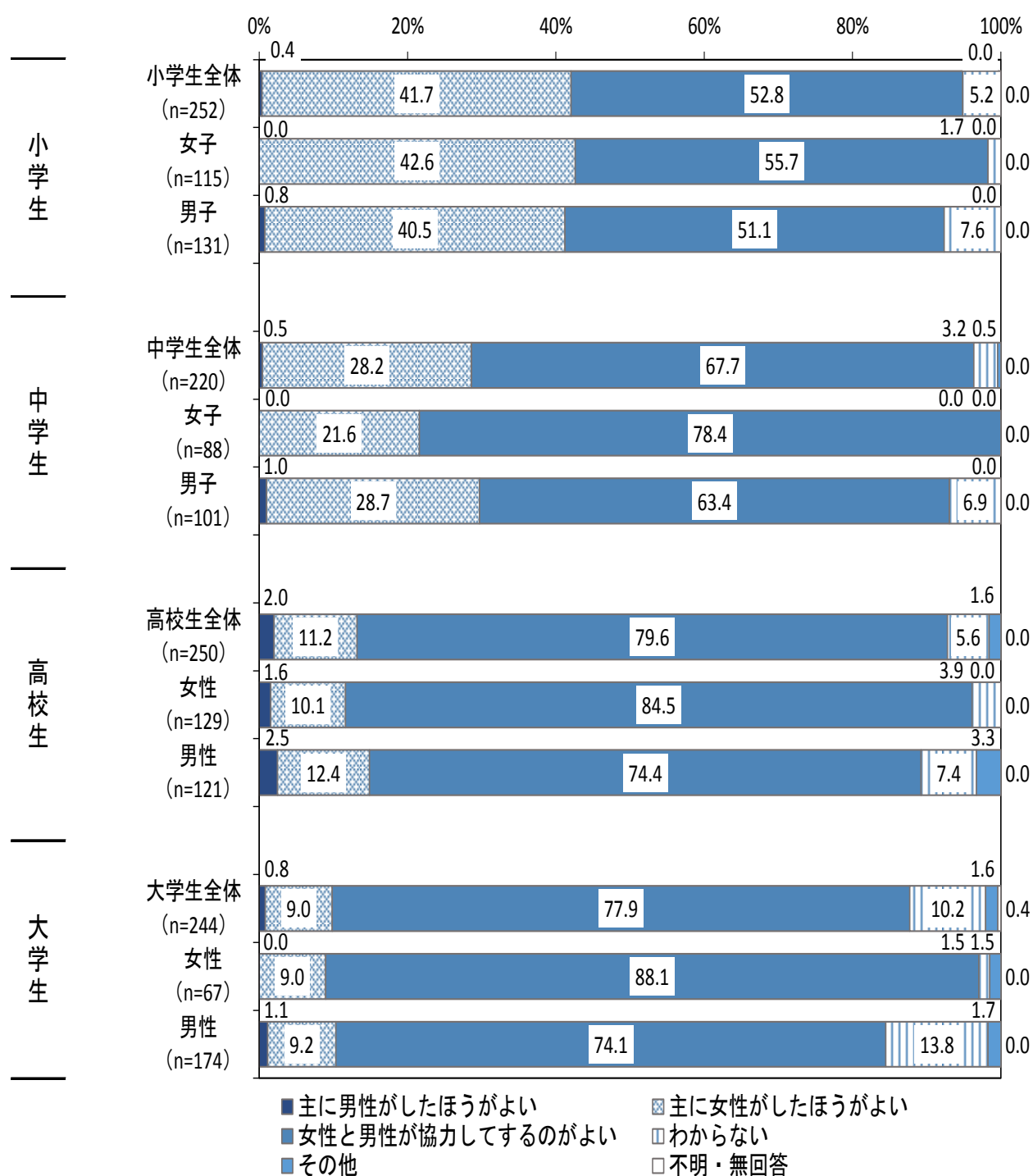
図表 5-3-10 家庭生活における性別による役割分担の意識 ①小さい子どもの世話



② 料理・掃除・洗濯などの家事

家庭生活における性別による役割分担の意識について、「料理・掃除・洗濯などの家事」では、「女性と男性が協力してするのがよい」を年代別で見ると、高校生が79.6%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が88.1%で最も高くなっています。

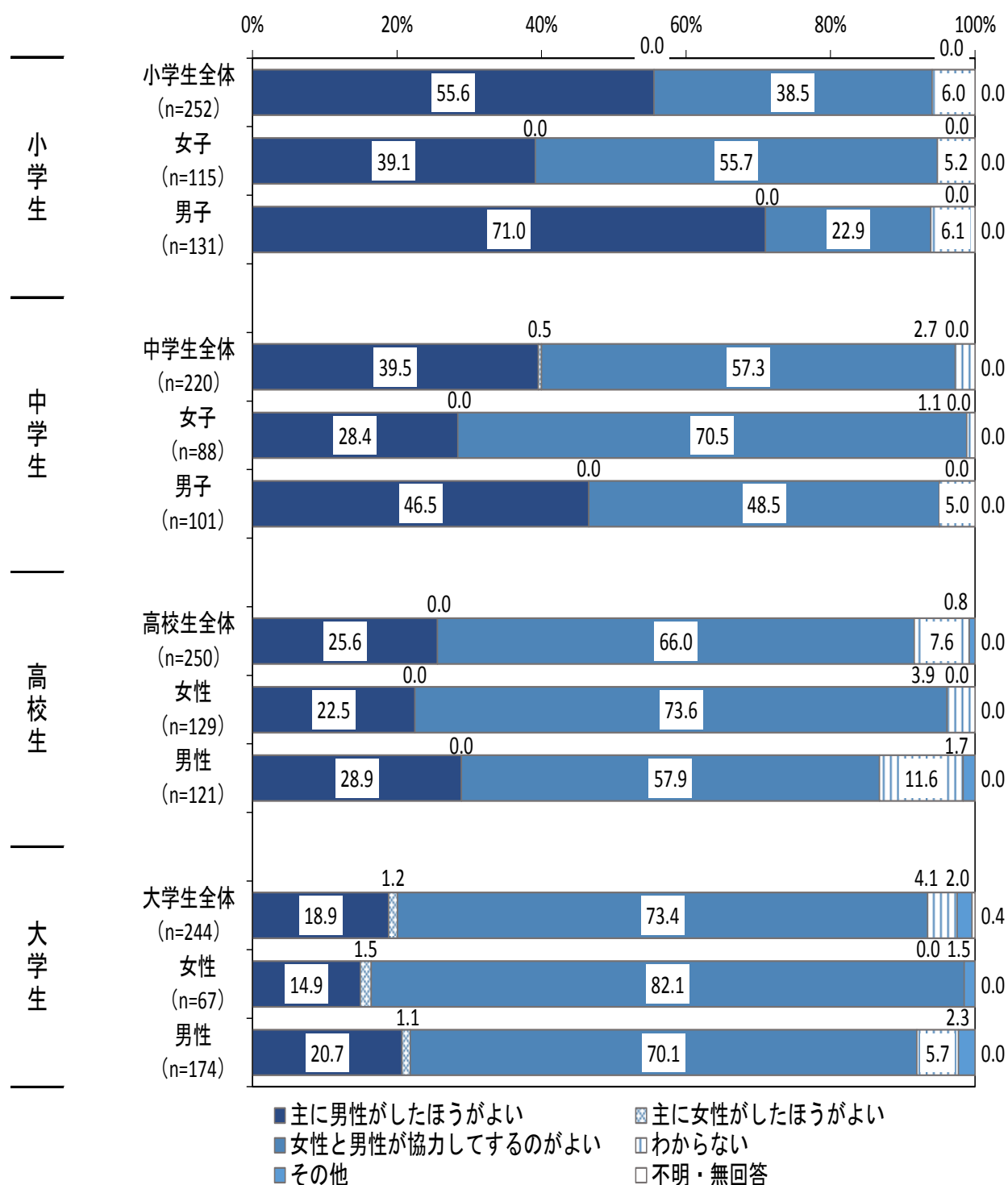
図表 5-3-11 家庭生活における性別による役割分担の意識 ②料理・掃除・洗濯などの家事



③ お金を稼ぐ仕事

家庭生活における性別による役割分担の意識について、「お金を稼ぐ仕事」では、「女性と男性が協力してするのがよい」を年代別で見ると、年代が上がるにつれて割合が高くなっており、大学生が73.4%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が82.1%で最も高くなっています。

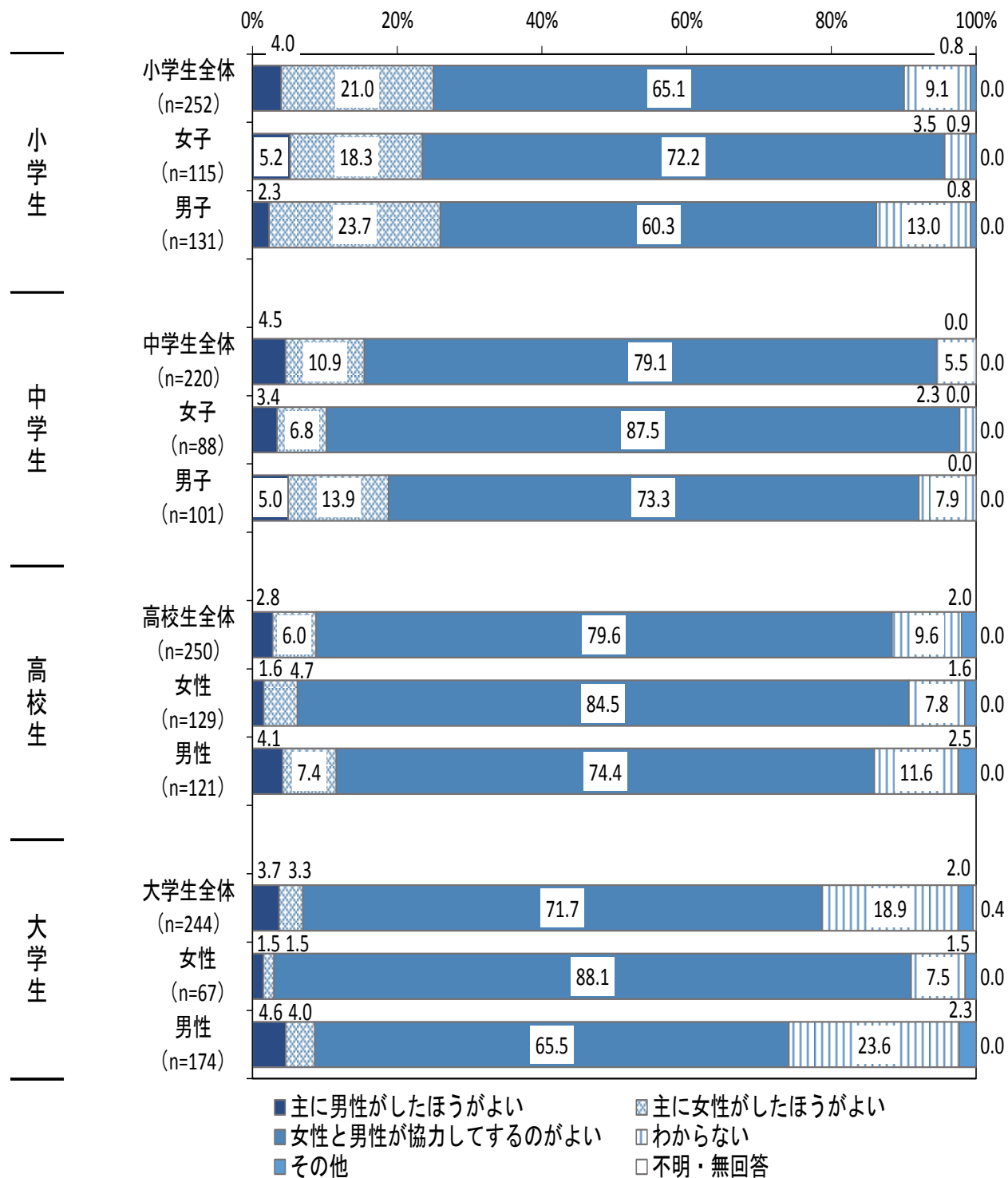
図表 5-3-12 家庭生活における性別による役割分担の意識 ③お金を稼ぐ仕事



④ 祖父母の介護

家庭生活における性別による役割分担の意識について、「祖父母の介護」では、「女性と男性が協力してするのがよい」を年代別で見ると、高校生が 79.6%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が 88.1%で最も高くなっています。

図表 5-3-13 家庭生活における性別による役割分担の意識 ④祖父母の介護



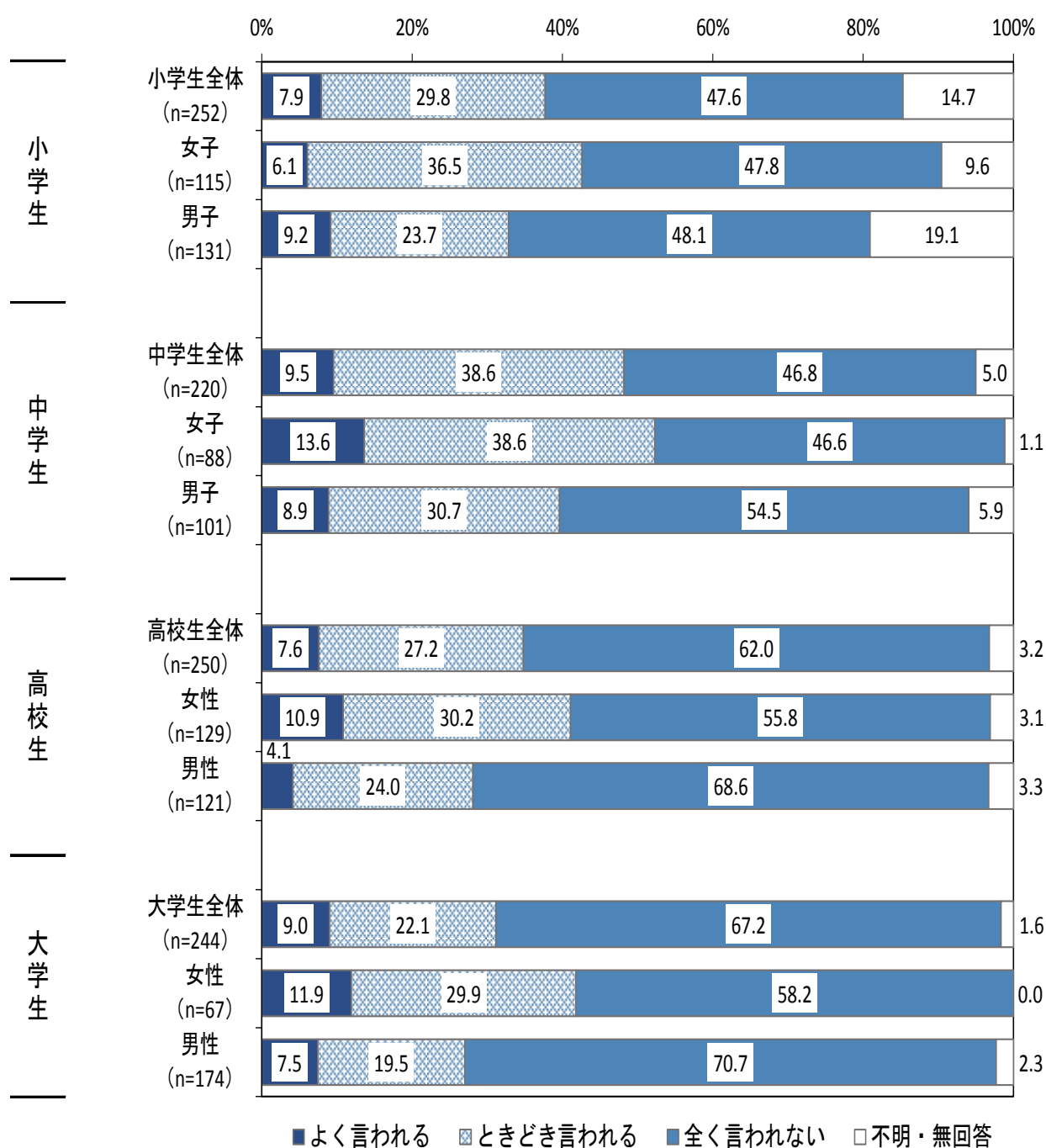
4. ジェンダー意識について

(1) 「男だから、女だから」と言われた経験

問	あなたは、「男だから〇〇」や「女だから〇〇」のように言われたことがありますか。(〇は1つ) <小学生 問8、中学生 問8、高校生 問8、大学生 問8>
---	--

「男だから、女だから」と言われた経験について、『言われる』（「よく言われる」と「ときどき言われる」の合計）では、年代別で見ると、中学生が48.1%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、中学生・女子が52.2%で最も高くなっています。

図表 5-4-1 「男だから、女だから」と言われた経験

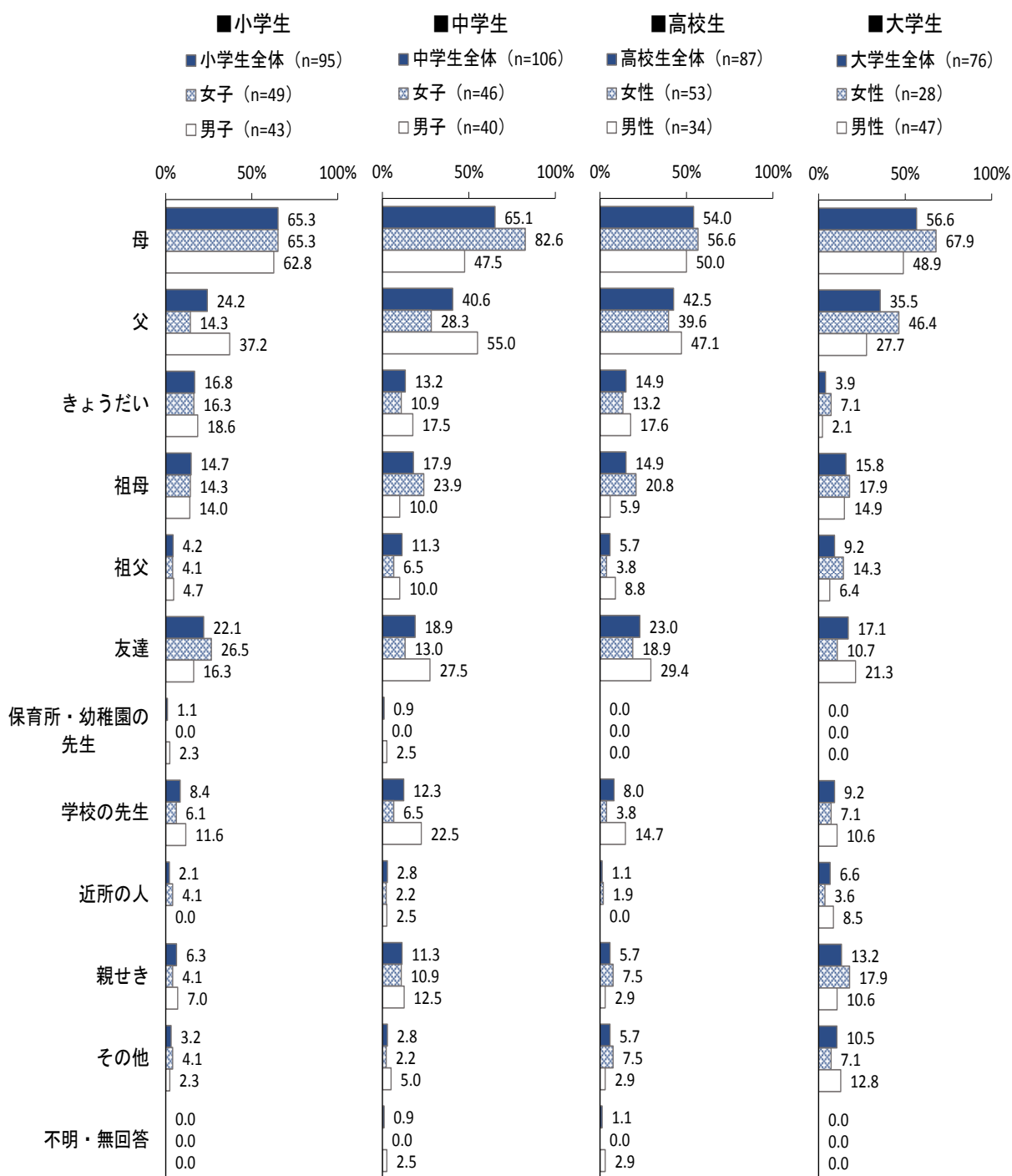


(2) 「男だから、女だから」と言われた相手

問	【前問で「よく言われる」「ときどき言われる」を回答した人】 それは、誰に言われましたか。(あてはまるものすべてに○) <小学生 問8-1、中学生 問8-1、高校生 問8-1、大学生 問8-1>
---	---

「男だから、女だから」と言われた相手について、年代別・性別でみると、中学生・男子では「父」の割合が最も高く、それ以外の年代では「母」の割合が最も高くなっており、女性（女子）では、「父」は年代が上がるにつれて割合が高くなっています。

図表 5-4-2 「男だから、女だから」と言われた相手

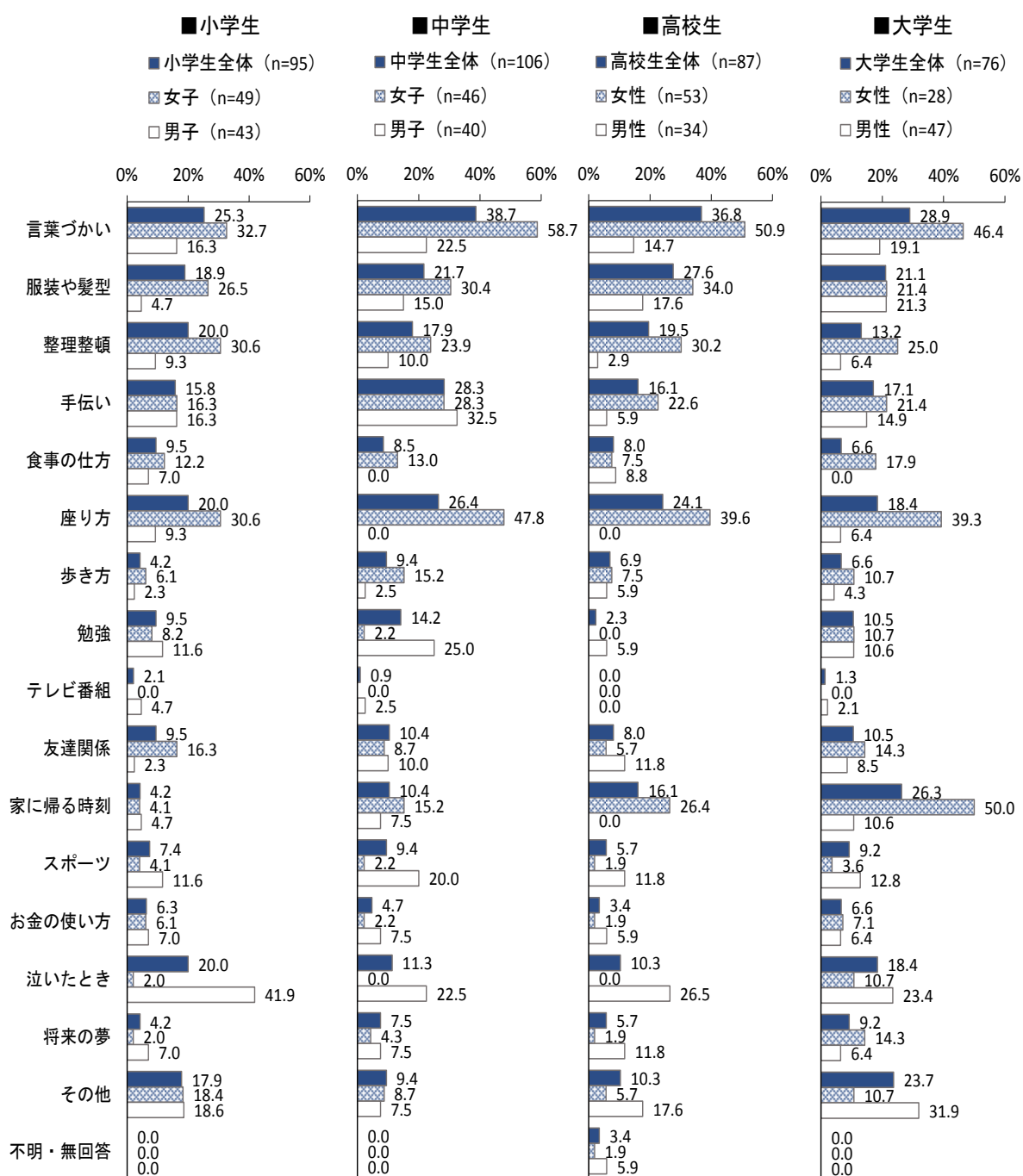


(3) 「男だから、女だから」と言われた内容

問	【前問で「よく言われる」「ときどき言われる」を回答した人】 どんなことで言われましたか。(あてはまるものすべてに○) ＜小学生 問8-2、中学生 問8-2、高校生 問8-2、大学生 問8-2＞
---	--

「男だから、女だから」と言われた内容について、年代別・性別でみると、小学生・女子、中学生・女子、高校生・女性では「言葉づかい」の割合が最も高く、小学生・男子、高校生・男性では「泣いたとき」の割合が最も高く、中学生・男子では「手伝い」の割合が最も高く、大学生・女性では「家に帰る時刻」の割合が最も高く、大学生・男性では「その他」の割合が最も高くなっています。

図表 5-4-3 「男だから、女だから」と言われた内容

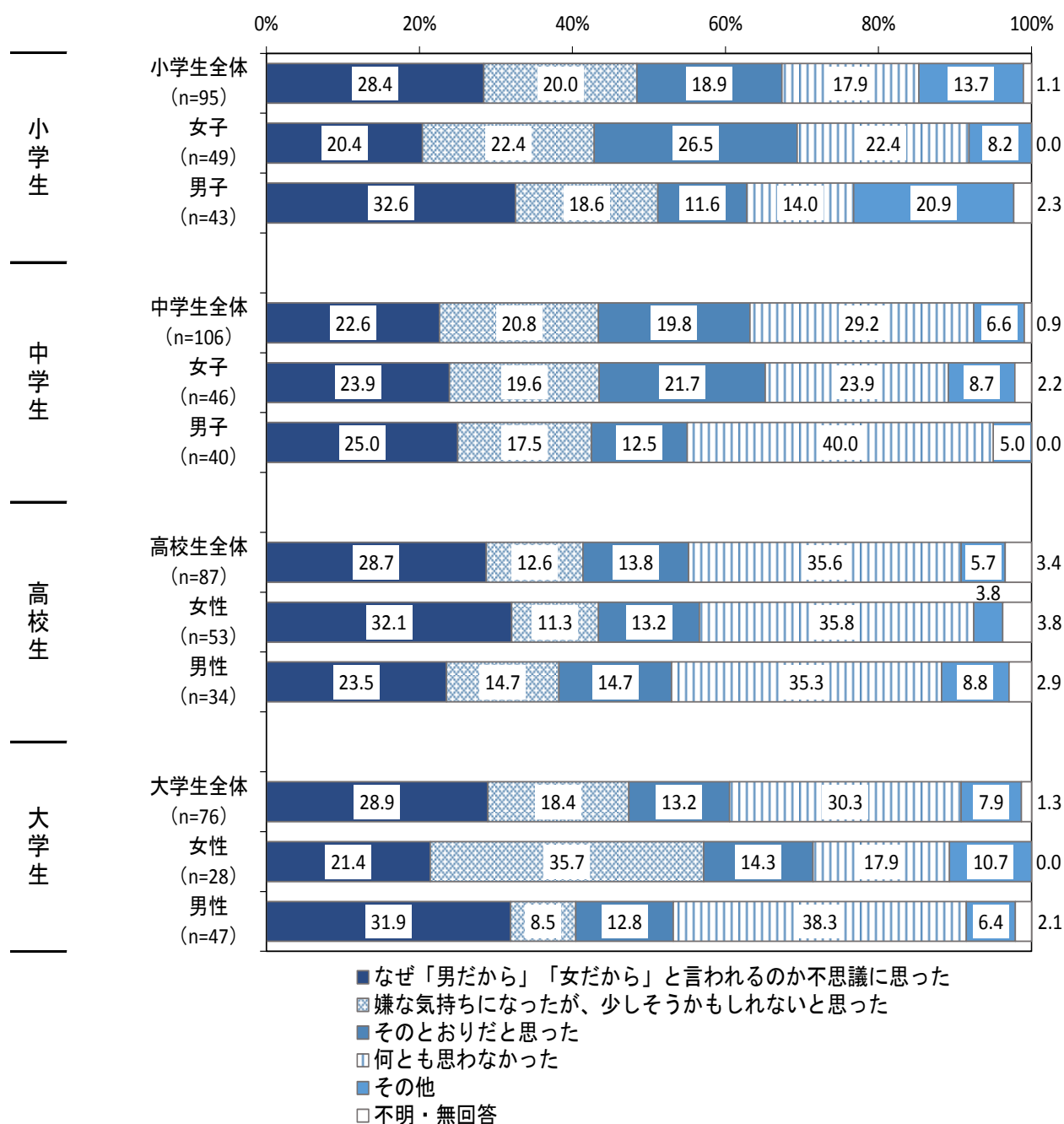


(4) 「男だから、女だから」と言われたときの気持ち

問	【前問で「よく言われる」「ときどき言われる」を回答した人】 あなたは、言われた時どんな気持ちになりましたか。(○は1つ) <小学生 問8-3、中学生 問8-3、高校生 問8-3、大学生 問8-3>
---	--

「男だから、女だから」と言われたときの気持ちについて、年代別・性別で見ると、小学生・女子では「そのとおりだと思った」の割合が最も高く、小学生・男子では「なぜ「男だから」「女だから」と言われるのか不思議に思った」の割合が最も高く、大学生・女性では「嫌な気持ちになったが、少しそうかもしれないと思った」の割合が最も高く、中学生・女子では「なぜ「男だから」「女だから」と言われるのか不思議に思った」「何とも思わなかった」の割合が同率で最も高く、それ以外の年代では「何とも思わなかった」の割合が最も高くなっています。

図表 5-4-4 「男だから、女だから」と言われたときの気持ち



5. デートDVについて

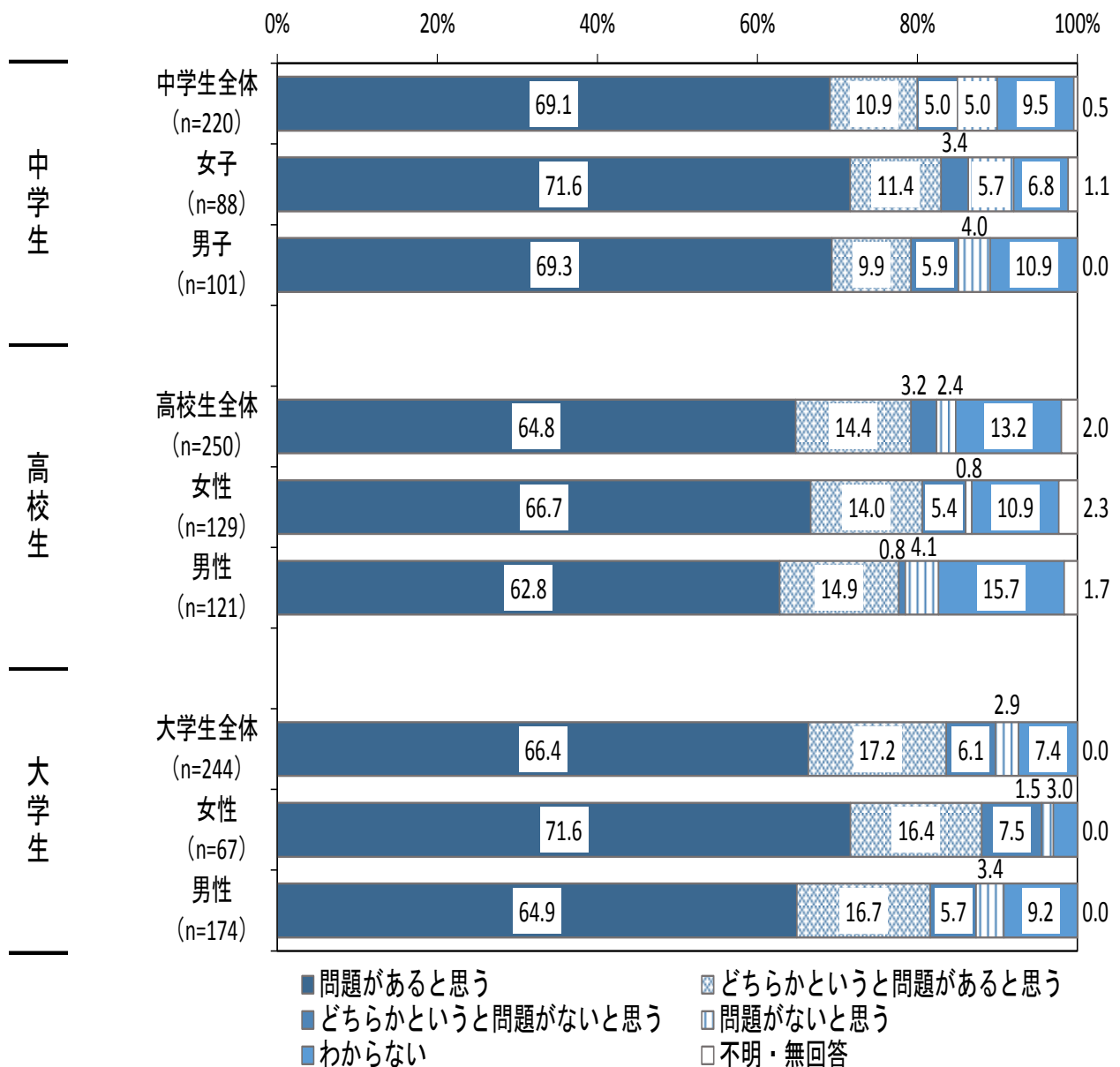
(1) デートDVについての意識

問	あなたは、次のような付き合っている相手との関係についてどう思いますか。 それぞれどちらかに1つ○をつけてください。 <中学生 問9（㊸㊹を除く）、高校生 問9、大学生 問9>
---	---

① 2人のことを何でも自分の意見や都合で決める

デートDVについての意識について、「2人のことを何でも自分の意見や都合で決める」では、『問題があると思う』（「問題があると思う」と「どちらかという問題があると思う」の合計）を年代別で見ると、大学生が83.6%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が88.0%で最も高くなっています。

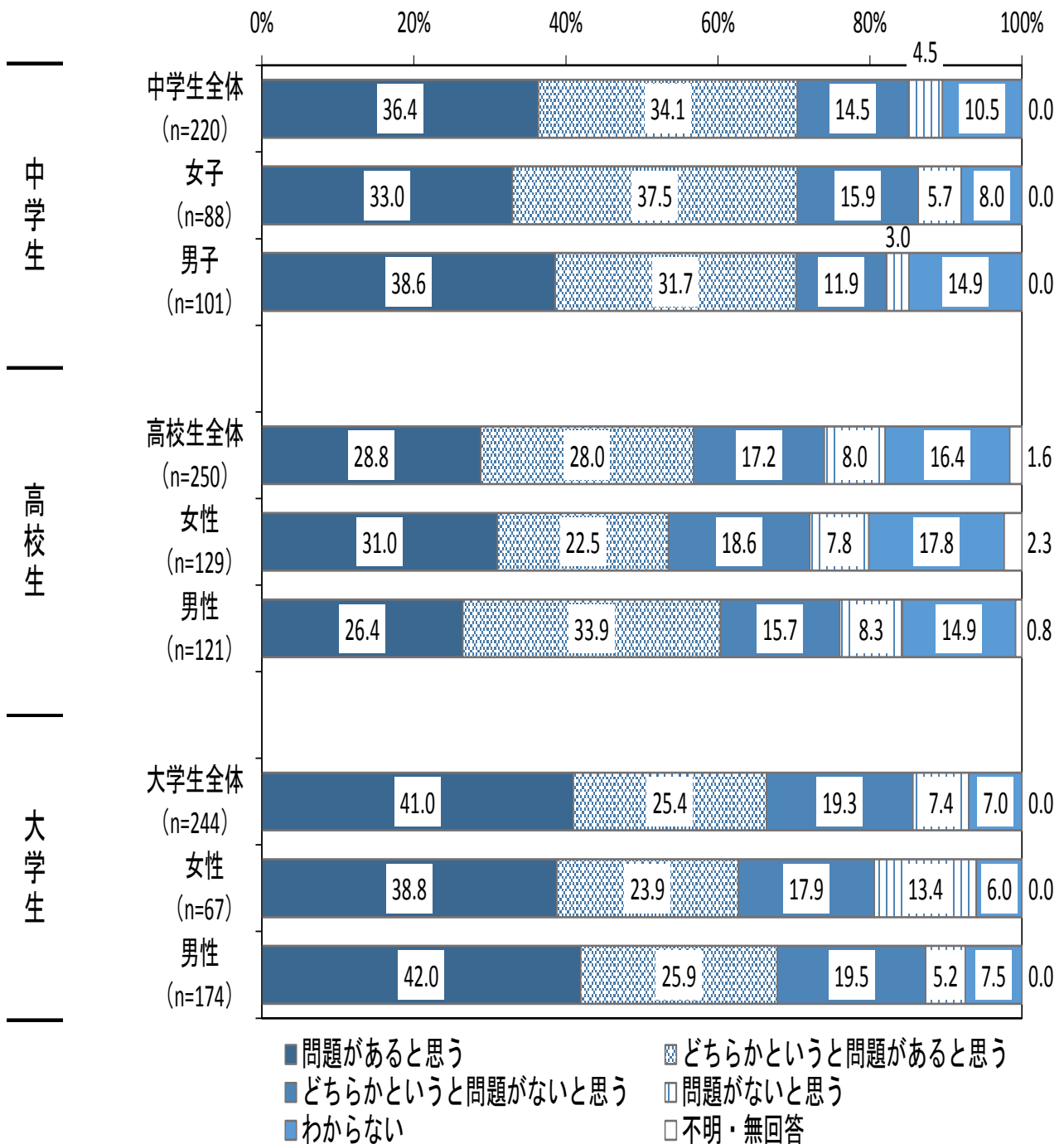
図表 5-5-1 デートDVについての意識 ① 2人のことを何でも自分の意見や都合で決める



② 相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE（メールなども含む。）で確かめる

デートDVについての意識について、「相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE（メールなども含む。）で確かめる」では、『問題があると思う』を年代別で見ると、中学生が70.5%で最も高く、年代別・性別で見ると、中学生・女子が70.5%で最も高くなっています。

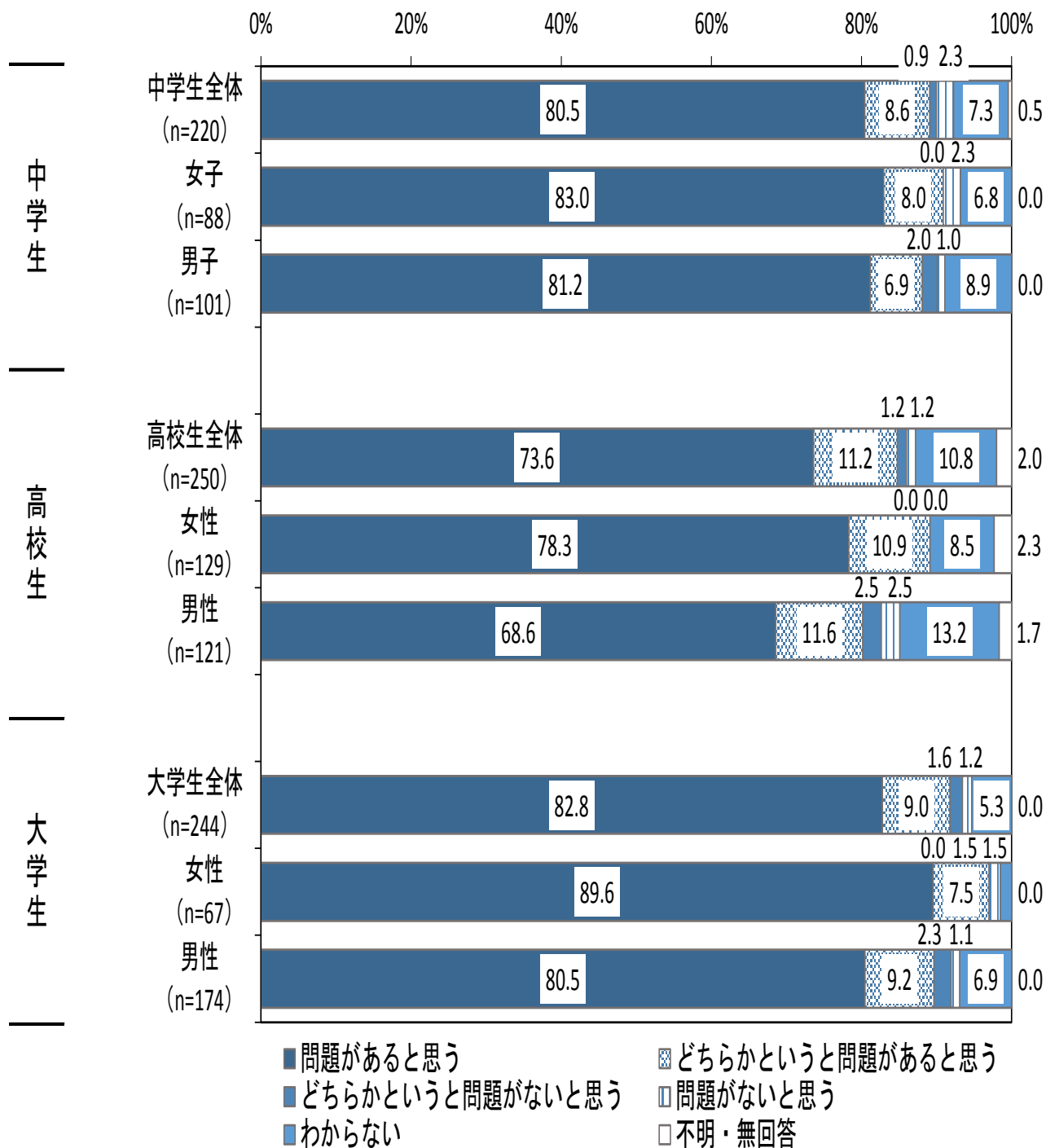
図表 5-5-2 デートDVについての意識 ②相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE（メールなども含む。）で確かめる



③ 大声でどなる

デートDVについての意識について、「大声でどなる」では、『問題があると思う』を年代別で見ると、大学生が91.8%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が97.1%で最も高くなっています。

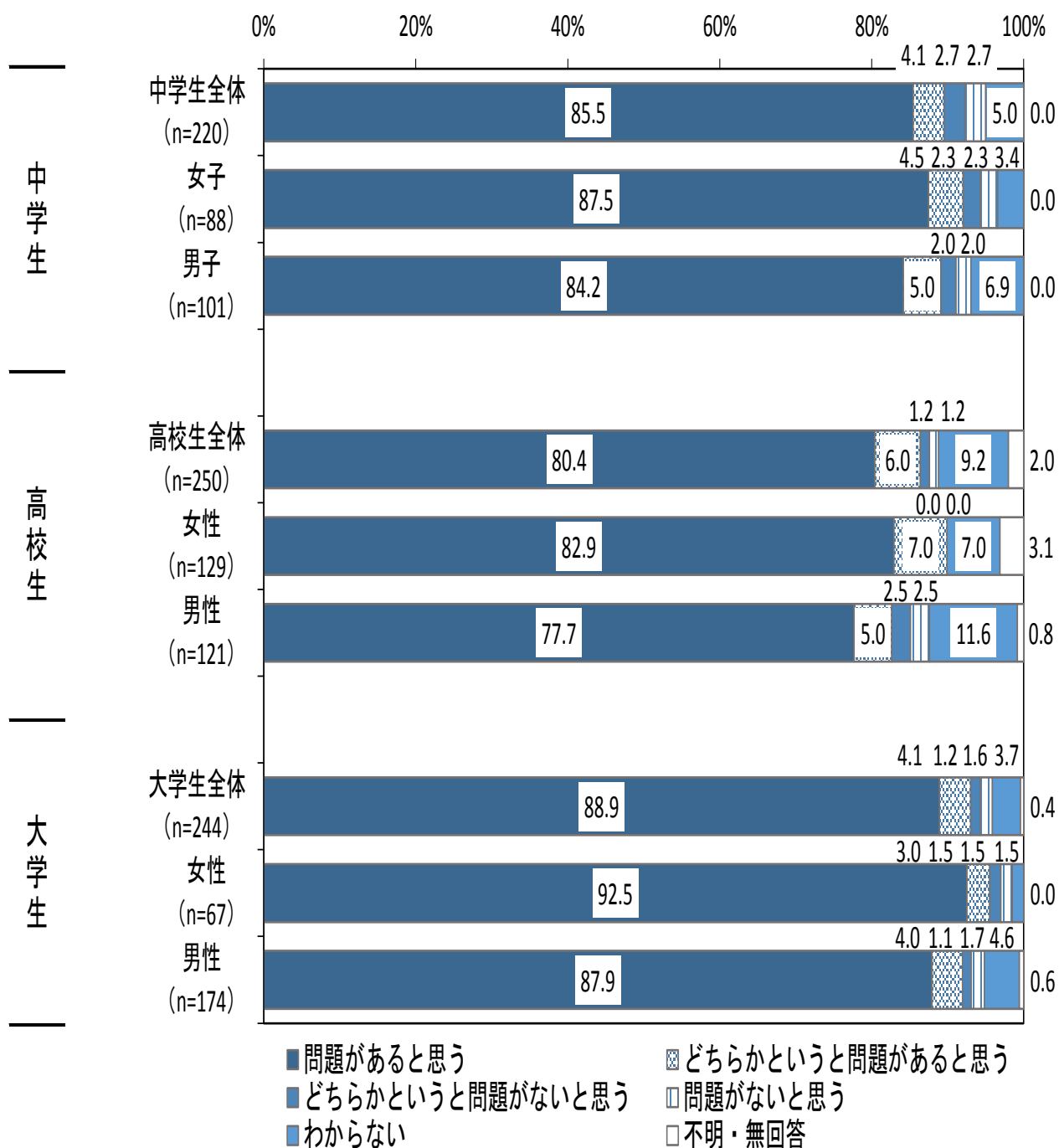
図表 5-5-3 デートDVについての意識 ③大声でどなる



④ たたいたり、けったりする（たたくふりや、けるふりも含む）

デートDVについての意識について、「たたいたり、けったりする（たたくふりや、けるふりも含む）」では、『問題があると思う』を年代別で見ると、大学生が93.0%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が95.5%で最も高くなっています。

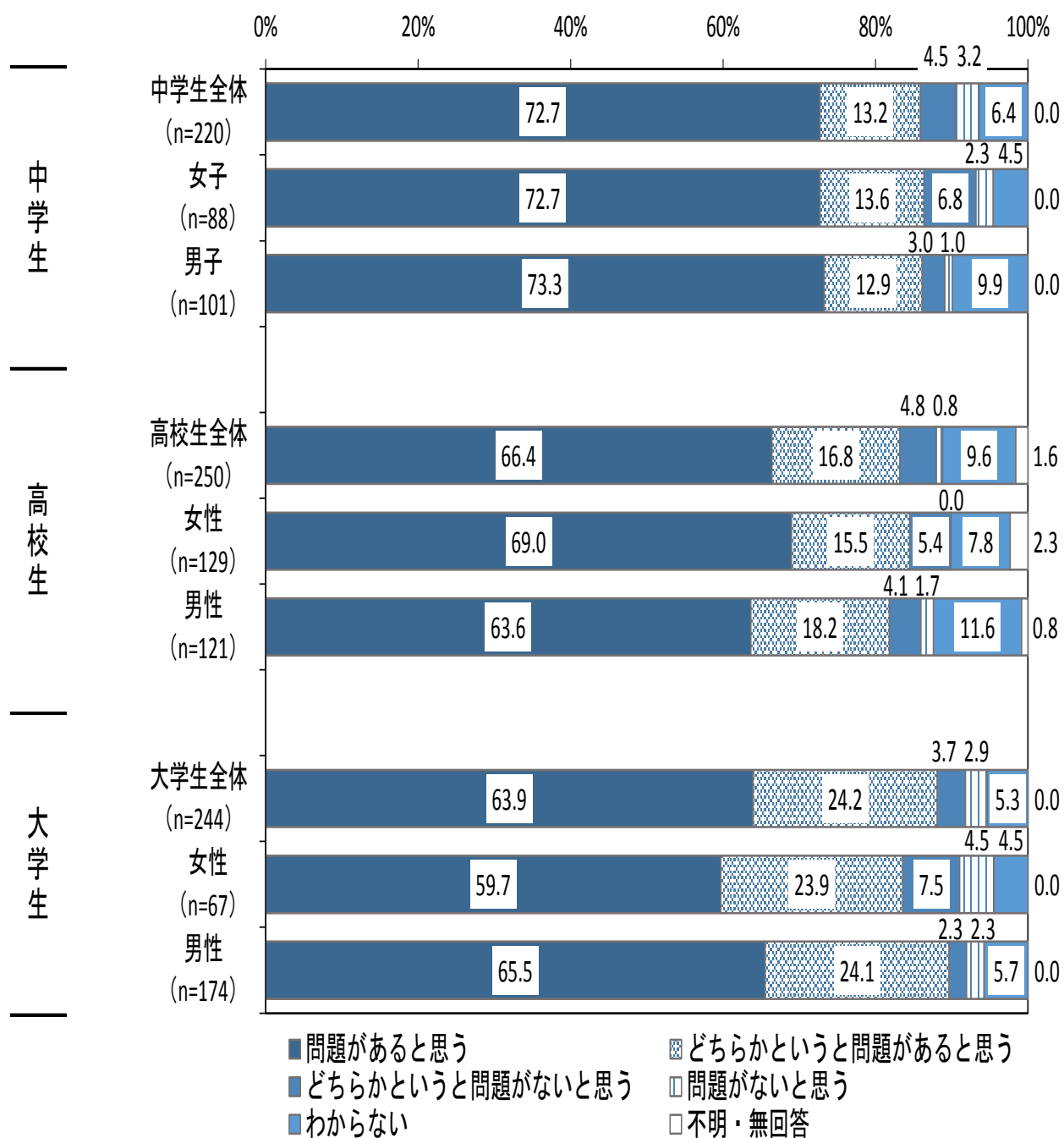
図表 5-5-4 デートDVについての意識 ④たたいたり、けったりする
（たたくふりや、けるふりも含む）



⑤ 相手の友達付き合いに口出しをする（「〇〇とは一緒に遊びに行くな」と言うなど）

デートDVについての意識について、「相手の友達付き合いに口出しをする（「〇〇とは一緒に遊びに行くな」と言うなど）」では、『問題があると思う』を年代別で見ると、大学生が88.1%で最も高く、年代別・性別で見ると、大学生・男性が89.6%で最も高くなっています。

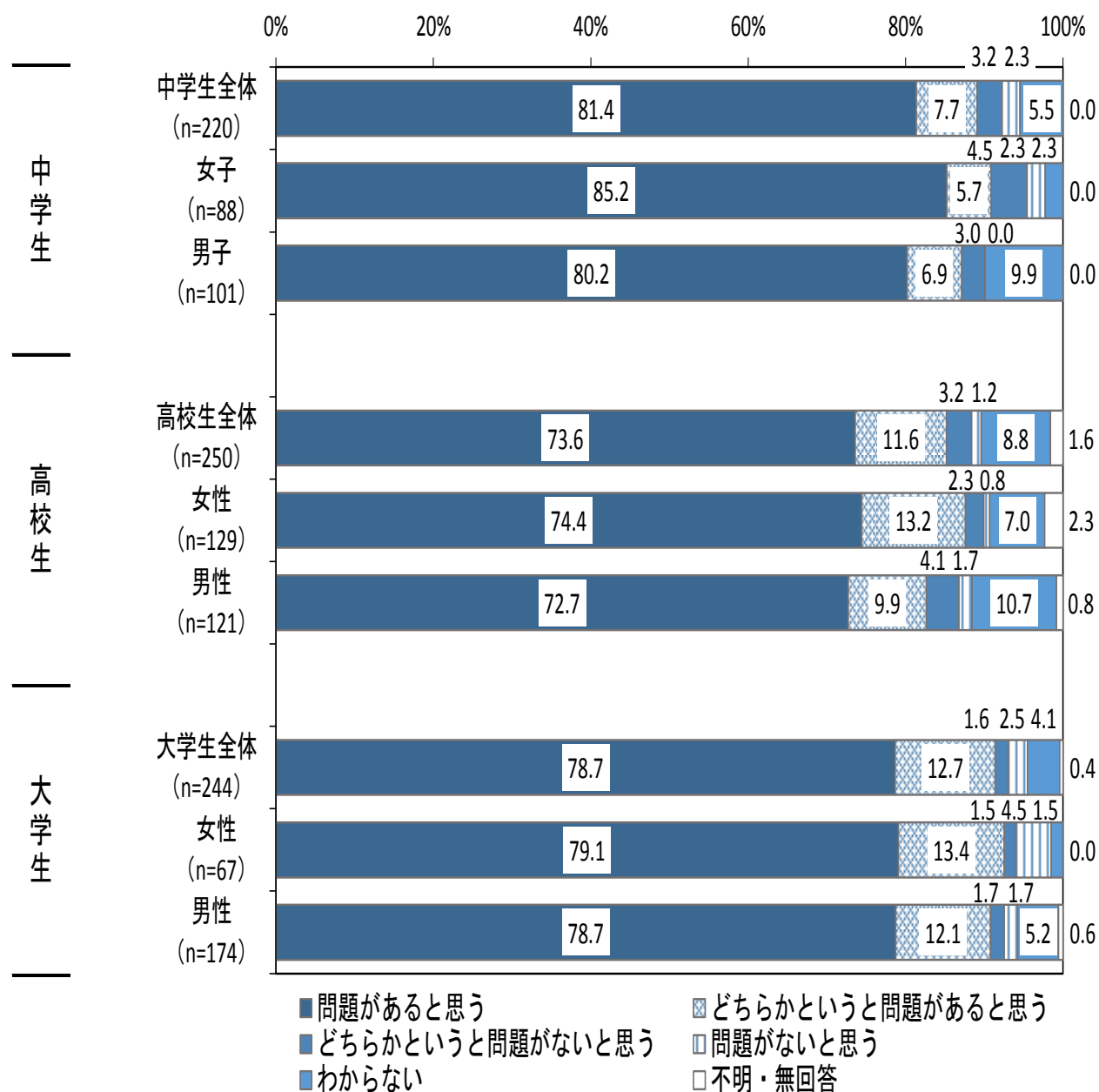
図表 5-5-5 デートDVについての意識 ⑤相手の友達付き合いに口出しをする
（「〇〇とは一緒に遊びに行くな」と言うなど）



⑥ 相手のスマホやケータイから、LINEなどの履歴を勝手に見たり、登録している連絡先を勝手に削除する（または「削除してほしい」と言う）

デートDVについての意識について、「相手のスマホやケータイから、LINEなどの履歴を勝手に見たり、登録している連絡先を勝手に削除する（または「削除してほしい」と言う）」では、『問題があると思う』を年代別で見ると、大学生が91.4%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が92.5%で最も高くなっています。

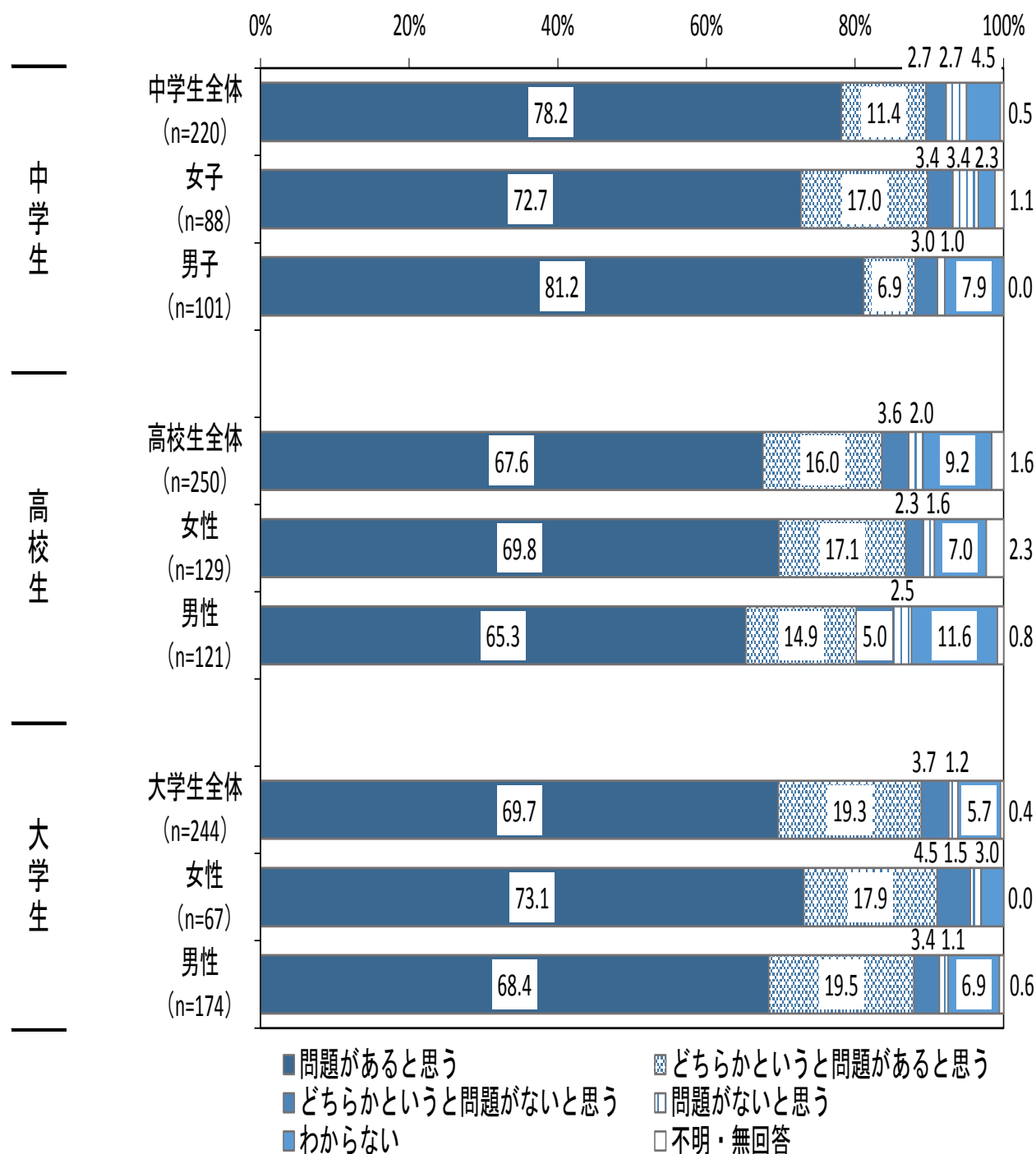
図表 5-5-6 デートDVについての意識 ⑥ 相手のスマホやケータイから、LINEなどの履歴を勝手に見たり、登録している連絡先を勝手に削除する（または「削除してほしい」と言う）



⑦ 言うとおりにしないとすぐに機嫌が悪くなったり無視したりする

デートDVについての意識について、「言うとおりにしないとすぐに機嫌が悪くなったり無視したりする」では、『問題があると思う』を年代別で見ると、中学生が89.6%で最も高く、年代別・性別で見ると、大学生・女性が91.0%で最も高くなっています。

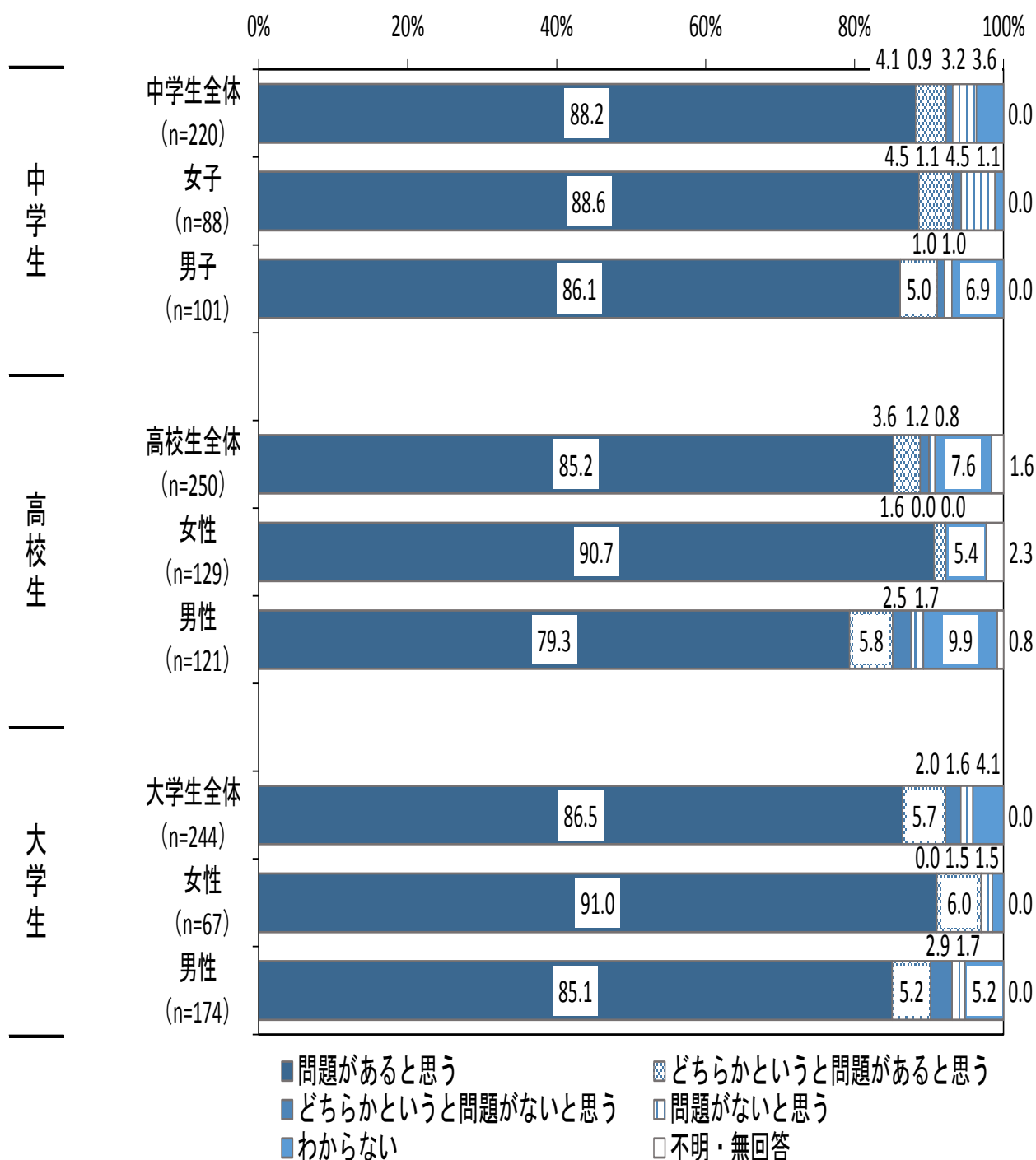
図表 5-5-7 デートDVについての意識 ⑦言うとおりにしないとすぐに機嫌が悪くなったり無視したりする



⑧ 物を壊したり、投げたりする

デートDVについての意識について、「物を壊したり、投げたりする」では、『問題があると思う』を年代別で見ると、中学生が92.3%で最も高く、年代別・性別で見ると、全ての年代で女性（女子）の割合が高く、大学生・女性が97.0%で最も高くなっています。

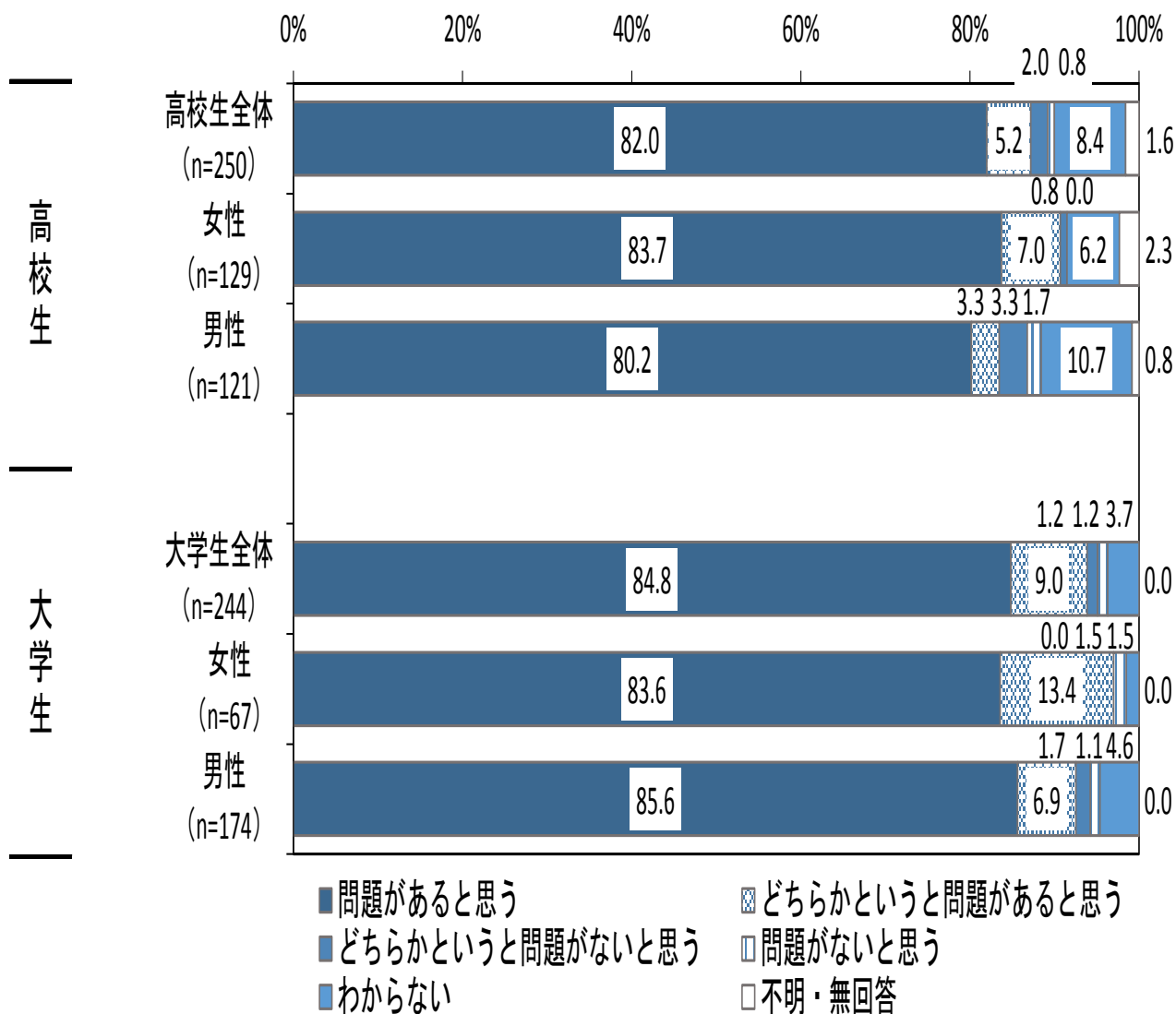
図表 5-5-8 デートDVについての意識 ⑧物を壊したり、投げたりする



⑨ 相手が嫌がっているのにキスをしたり、体をさわる

デートDVについての意識について、「相手が嫌がっているのにキスをしたり、体をさわる」では、『問題があると思う』を年代別・性別で見ると、高校生・大学生いずれも女性の割合が高く、大学生・女性が97.0%で最も高くなっています。

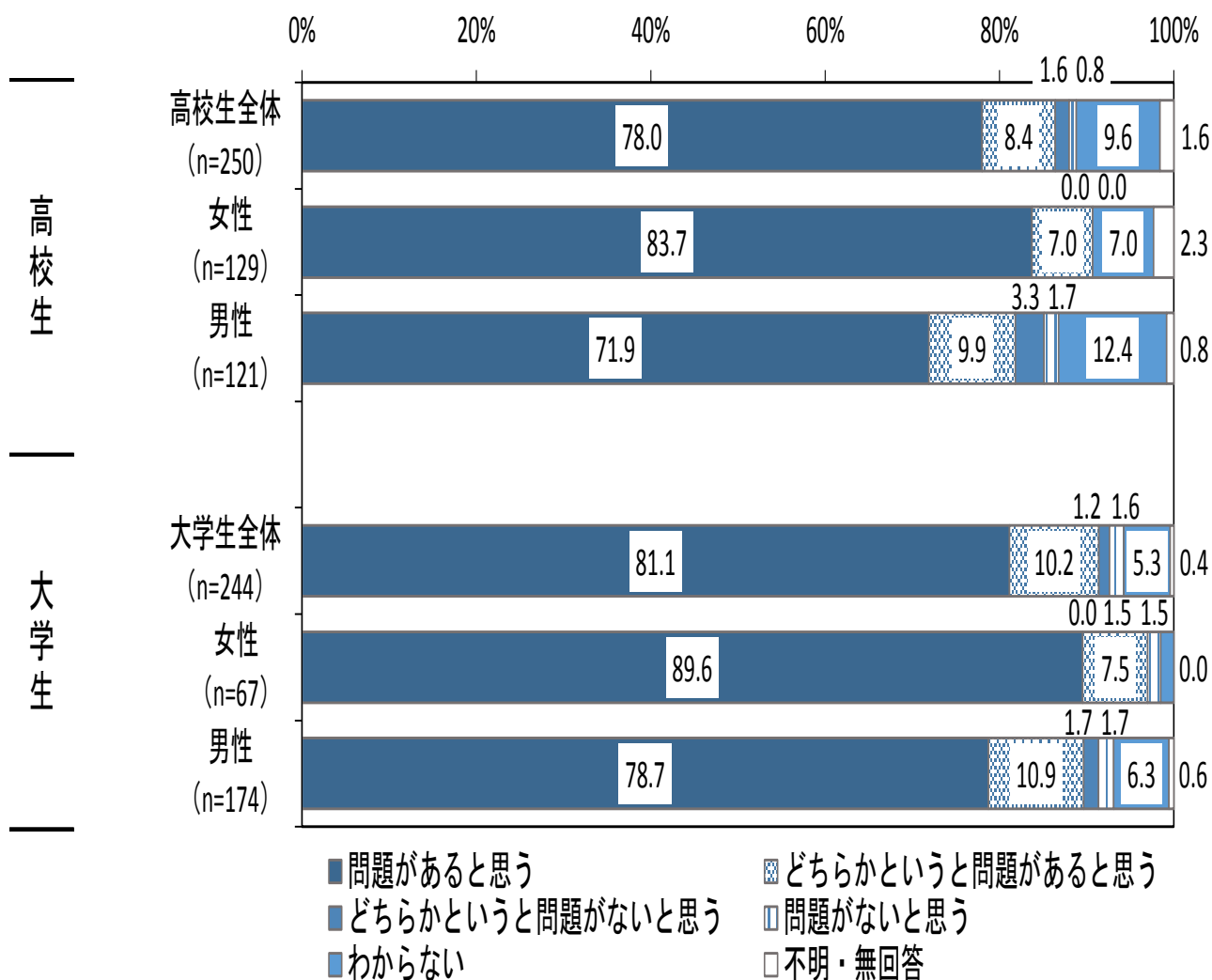
図表 5-5-9 デートDVについての意識 ⑨相手が嫌がっているのにキスをしたり、体をさわる



⑩ デート代をいつもすべて支払わせる

デートDVについての意識について、「デート代をいつもすべて支払わせる」では、『問題があると思う』を年代別・性別で見ると、高校生・大学生いずれも女性の割合が高く、大学生・女性が97.1%で最も高くなっています。

図表 5-5-10 デートDVについての意識 ⑩デート代をいつもすべて支払わせる

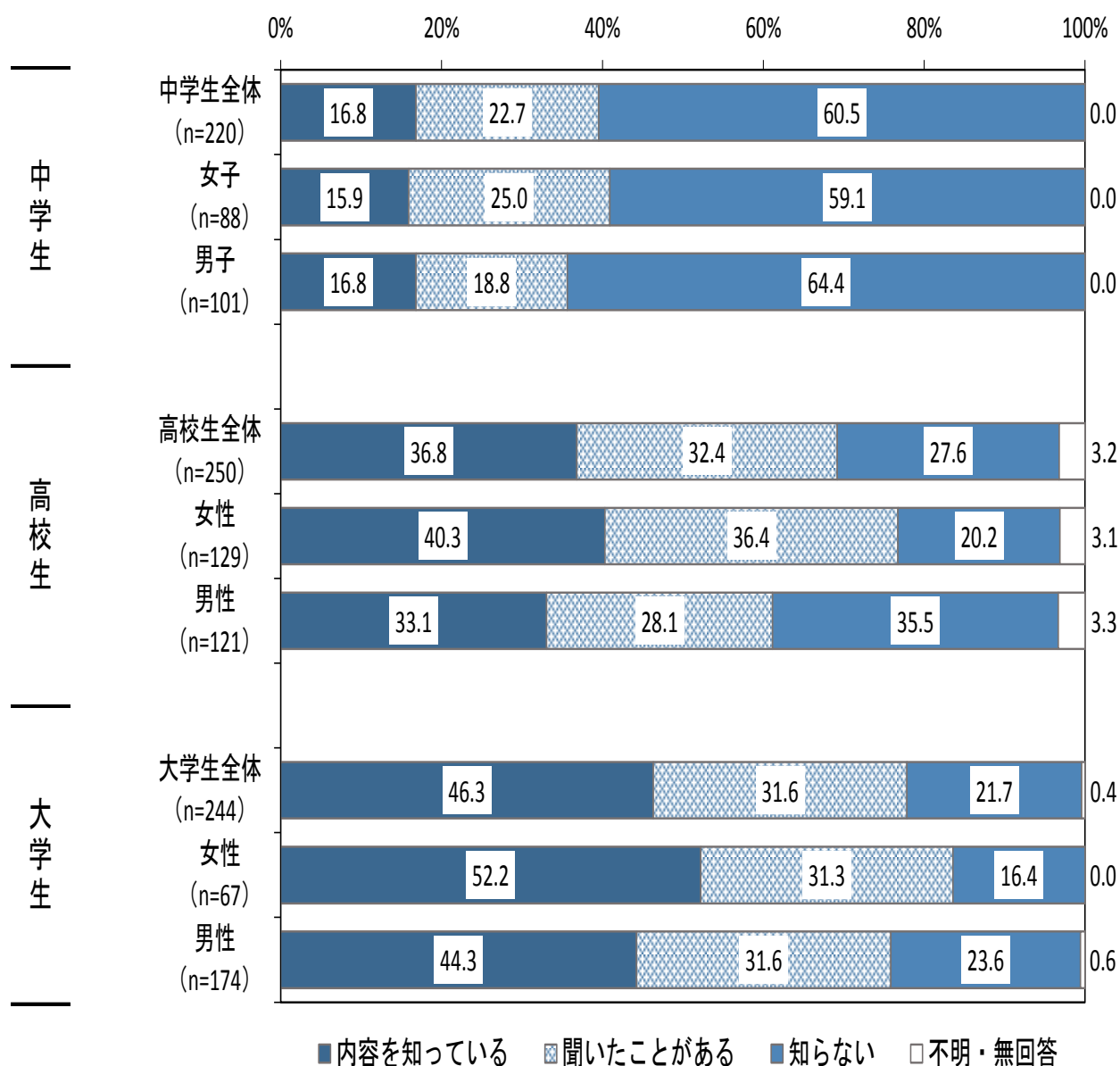


(2) デートＤＶの認知度

問	あなたは、「デートＤＶ」という言葉を知っていますか。 ＜中学生 問 10、高校生 問 10、大学生 問 10＞
---	--

デートＤＶの認知度について、「内容を知っている」を年代別でみると、年代が上がるにつれて割合が高くなっており、大学生が 46.3%で最も高く、年代別・性別で見ると、大学生・女性が 52.2%で最も高くなっています。

図表 5-5-11 デートＤＶの認知度



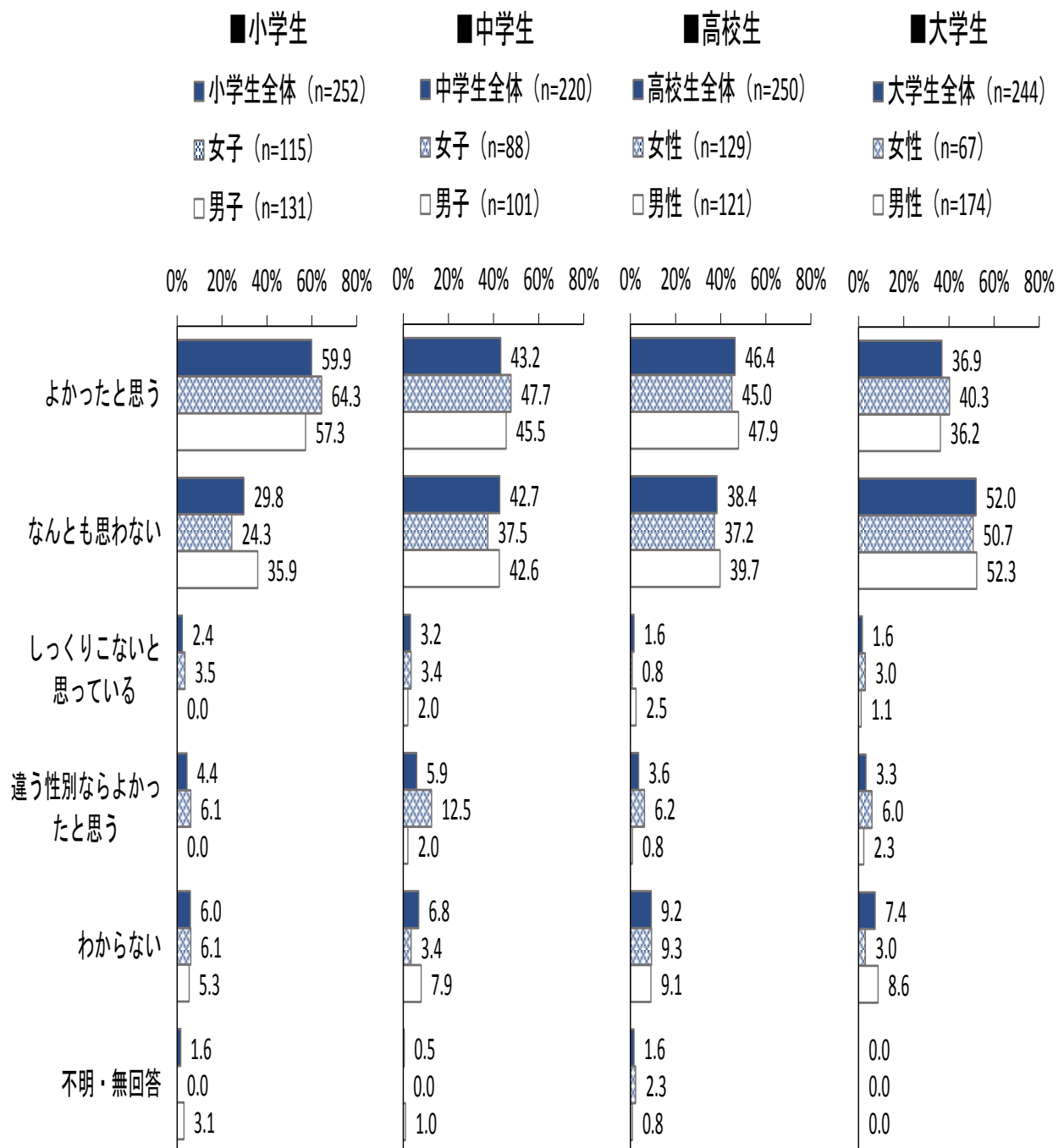
6. 性別について

(1) 自身の性別について

問	あなたは、自分が現在の性別に生まれたことをどう思いますか。 (あてはまるものすべてに○) <小学生 問9、中学生 問 11、高校生 問 11、大学生 問 11>
---	--

自身の性別について、年代別・性別でみると、小学生、中学生、高校生では「よかったと思う」の割合が最も高く、大学生では「なんとも思わない」の割合が最も高くなっています。

図表 5-5-12 自身の性別について

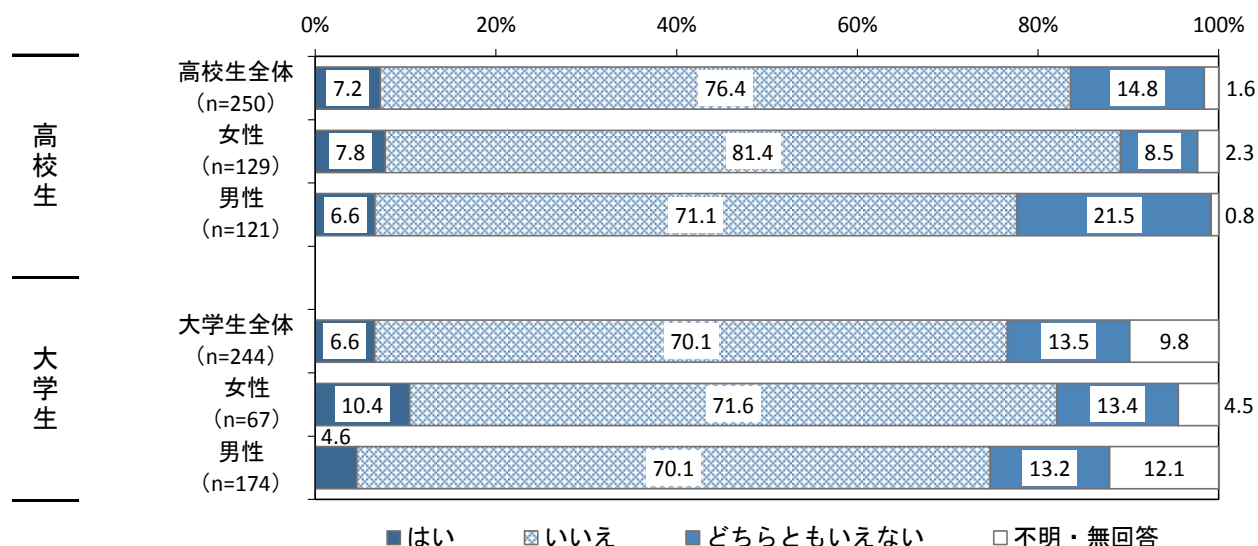


(2) 自分の性別や恋愛対象に悩んだ経験

問	あなたは今までに自分の性別のことや恋愛対象に悩んだことがありますか。 (○は1つ) <高校生 問 12、大学生 問 12>
---	--

自分の性別や恋愛対象に悩んだ経験について、「はい」では、高校生が 7.2%、大学生が 6.6%で、年代別・性別でみると、大学生・女性が 10.4%で最も高くなっています。

図表 5-5-13 自分の性別や恋愛対象に悩んだ経験

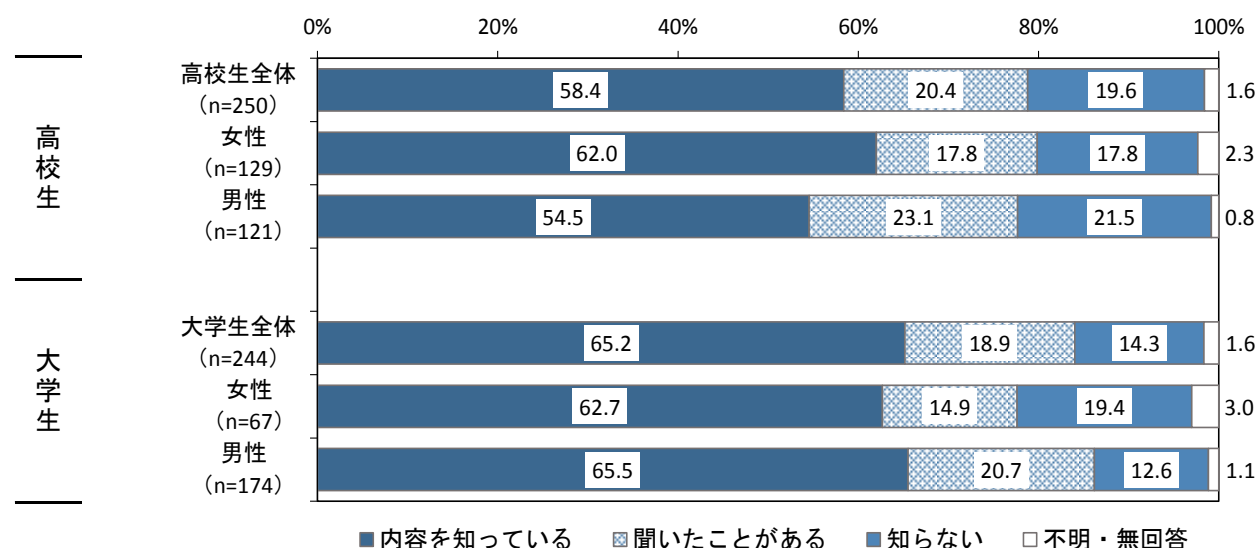


(3) L G B T の認知度

問	あなたはL G B Tという言葉を知っていますか。 <高校生 問 13、大学生 問 13>
---	--

L G B T の認知度について、「内容を知っている」では、高校生が 58.4%、大学生が 65.2%で、年代別・性別でみると、大学生・男性が 65.5%で最も高くなっています。

図表 5-5-14 L G B T の認知度



7. 相談先について

(1) 相談先について

問	悩み事や心配事がある時、あなたには相談できる人がいますか。 (あてはまるものすべてに○) <小学生 問 10、中学生 問 12、高校生 問 14、大学生 問 14>
---	---

相談先について、年代別・性別でみると、小学生、中学生・男子では「母」の割合が最も高く、それ以外の年代では「友達」の割合が最も高くなっており、「母」では、年代が上がるにつれて割合が低くなっています。

図表 5-5-15 相談先について

